

Geography

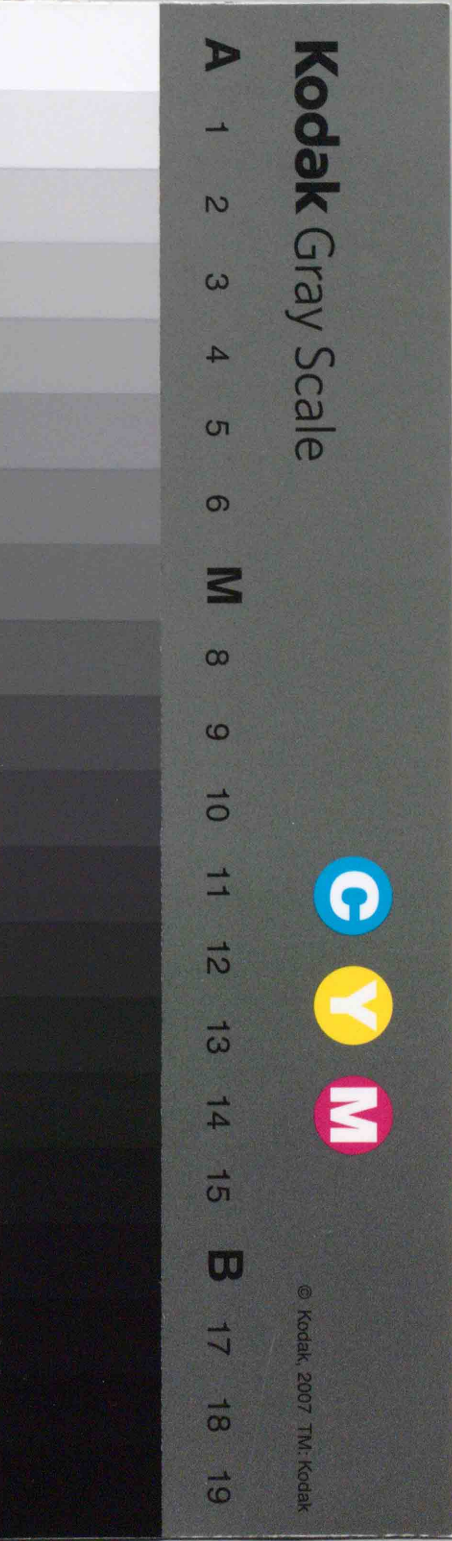
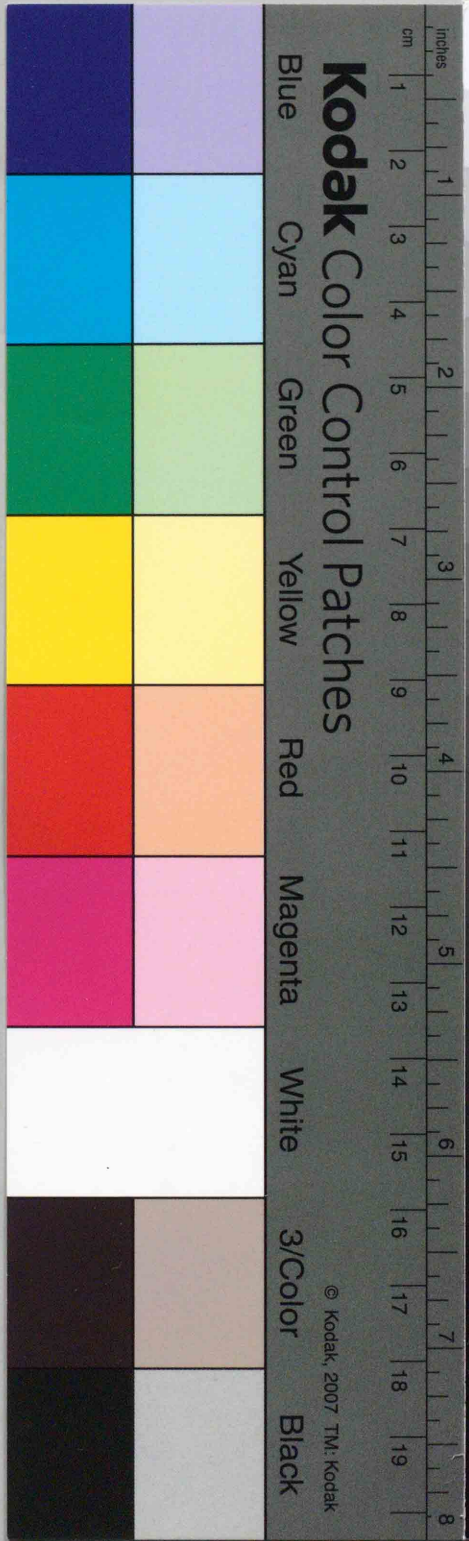
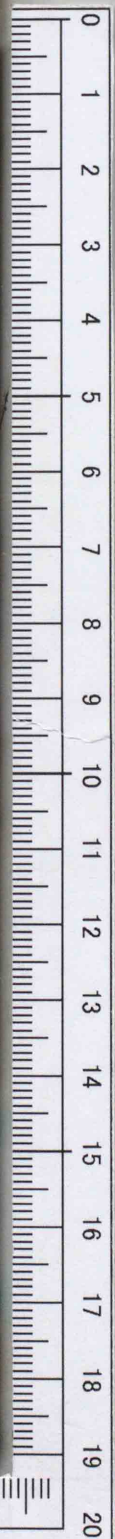
現勢地理通論

文學博士
石橋五郎著

東京神田區橋下町
房

實業學校用

教科書
44
2000



42781

教科書文庫

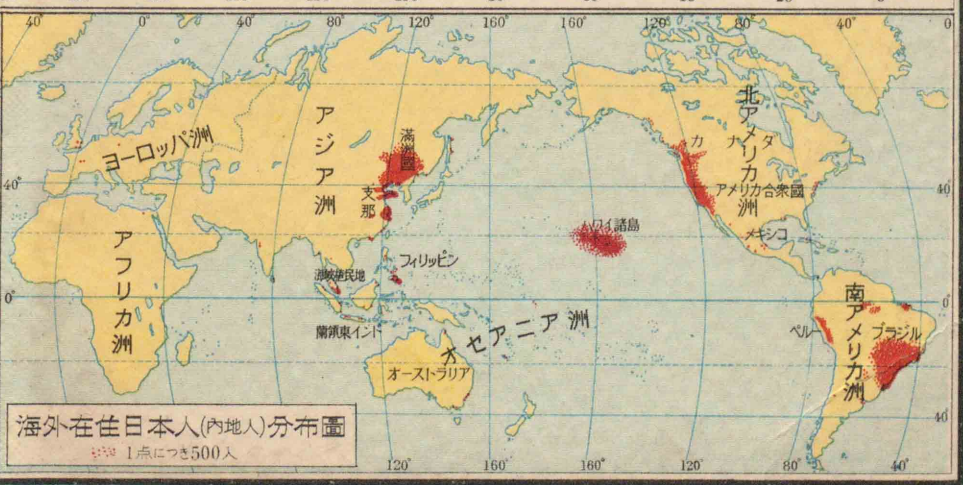
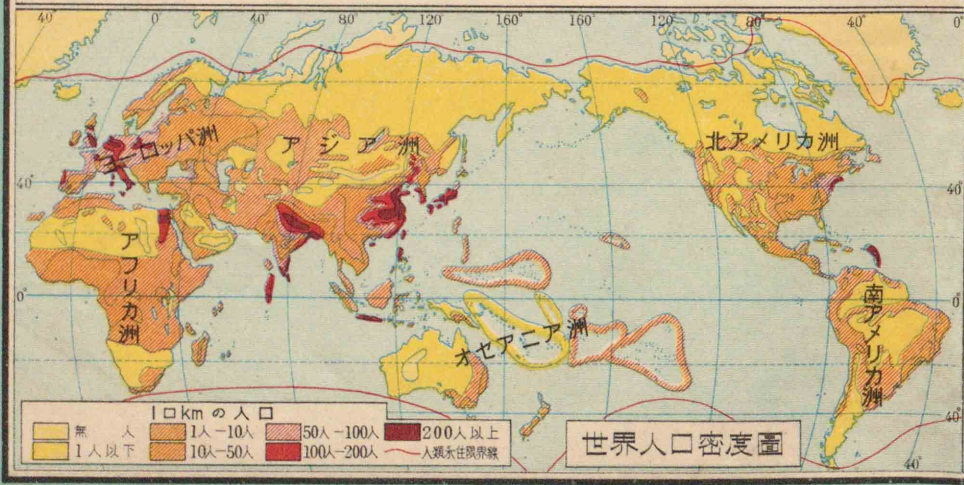
4
290
44-1941
20000 39098



© Kodak, 2007 TM: Kodak

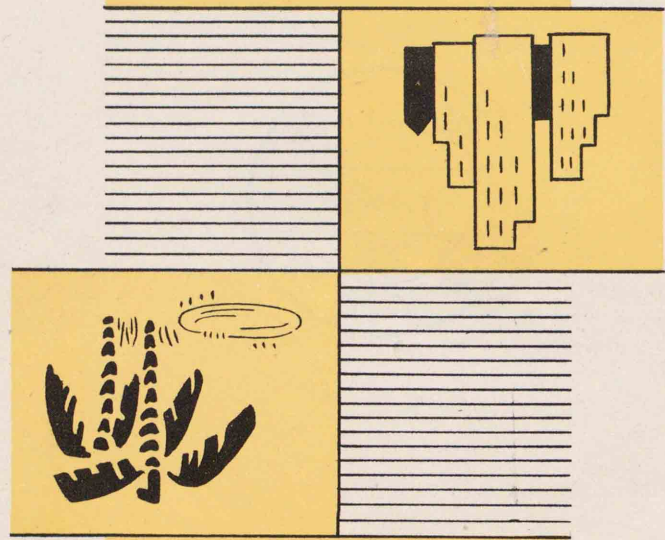


390.9
158



東京富山房神田

教科書文庫
4
290
44-1941
2000039098



實業學校用

現勢地理通論

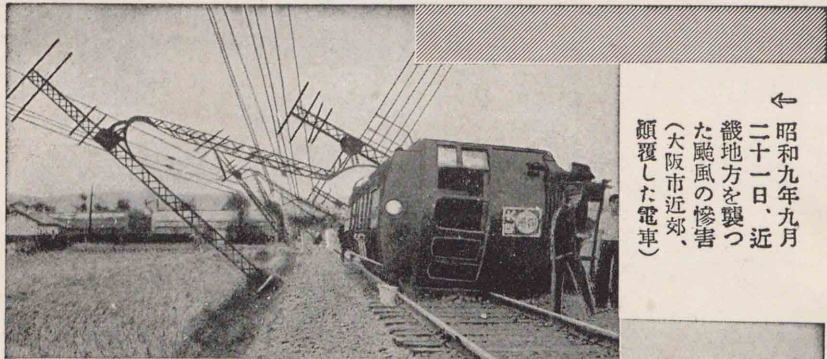
文學博士 石橋五郎 著

京都帝國大學名譽教授

昭和十六年三月二十日 實業學校地理科

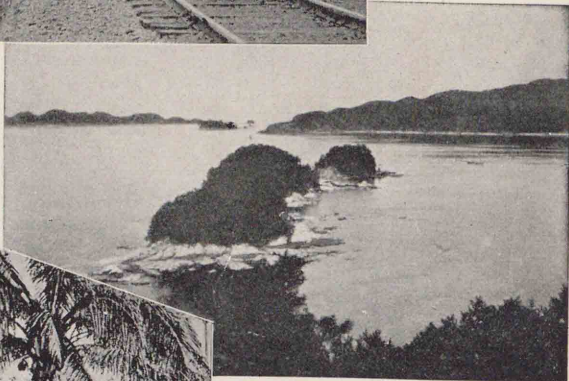
文部省檢定濟

實業

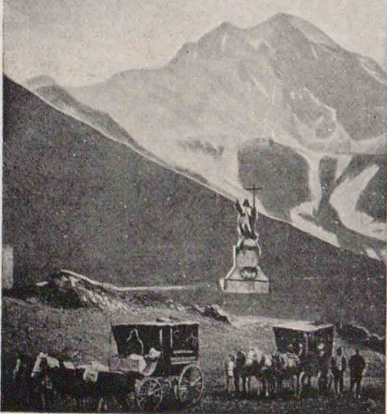


← 昭和九年九月二十一日、近畿地方を襲った颱風の惨害（大阪市近郊、顛覆した電車）

→ リアス式沈降海岸（三重縣鳥羽）



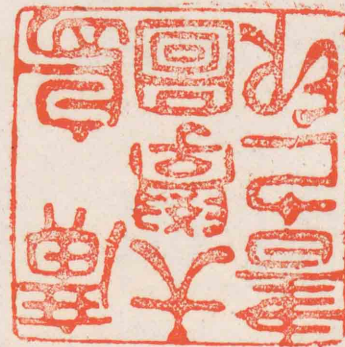
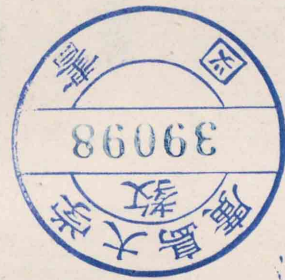
← サモア土人の部落



アンデス山中に於けるチリー・アルゼンチン國境附近



伊香保の温泉聚落（人家が階段状になして並んでゐる）



広島大学図書

2000039098





1 張家口の物々交換 2 入野町の定規市 3 入野町の小並立市 4 マンローの水上市人 5 ベルリンの自動車行商 6 アムステルダムの花弁競賣 7 メリのデパートメントストア内部 8 東京米穀取引所内部

例 言

本書は昭和十二年四月から実施せられた文部省令實業學校改正教授要目に基づいて新たに編纂したものであつて、別に上梓せる「現勢日本地理實業學校用」及び「現勢外國地理實業學校用」と姉妹篇をなすものである。

本書編纂の大方針は専ら改正要目の趣旨に則つたもので、左の通りである。

- ⊖ 地理通論は世界を一體とする総合的描寫であるが、常に我が國を本位とし、世界の地理的現勢を明らかにすると共に、我が國の世界に於ける地位を自覺せしめるやうにした。
- ⊖ 實業の樞軸たる産業交通を詳述せるは勿論、これ等の實業生活の基礎となるべき地理的環境を巻首に略説した。これは地理學の應用を會得せしめると共に、地理的事實と地理的理法との關係を知らしめ、以て我が國の實業生活の發展に貢獻せしめることを目的としたものである。

⊖ 全篇を通じ、我が國民の生活が世界に於て重要な地位を占める部門については、特に一章一節を設けて記述した。

以上の外、編纂上に左の注意をなした。

⊖ 地圖・圖表の選擇に意を用ひ、表現法を多種多様にした。また横書を要する場合は生徒の習慣

例 言

に基づいて左横書とした。

㊦統計は最新のものを用ひ、数字は特殊のものを除き、メートル法によつた。

㊧地名の發音は出来るだけ正確なものを用ひたが、習慣語調その他の理由により略稱を用ひた場合もある。

㊨重要物産名または名辭の傍にはこれに適應した英語を挿入して、國際實業生活の便を圖つた。

昭和十二年六月

著者識す

目次

緒言	一	第二節 蠶業	七
第一篇 地理的環境	三	第四章 漁業及び漁獲物	六
第一章 自然的環境	三	第一節 世界の漁業	六
第二章 人文的環境	七	第二節 我が國の漁業	四
第二篇 産業	三	第五章 鑛業及び鑛産	四
第一章 農業及び農産	三	第一節 世界の鑛業	四
第一節 世界の農業	三	第二節 鑛産	四
第二節 農産	五	第六章 工業及び工産	六
第二章 林業及び林産	七	第一節 世界の工業	六
第一節 世界の林業	七	第二節 工産	六
第二節 林産	九	第三篇 交通	七
第三章 牧畜業及び蠶業	三	第一章 陸運	七
第一節 牧畜業	三	第一節 通路	七

第二節 陸上交通機關	六八
第三節 世界の鐵道及びその幹線	八〇
第二章 水運	八四
第一節 航路	八四
第二節 港灣	八七
第三節 船舶	九三
第四節 世界の海運	九三
第五節 世界の主要航路	九四
第三章 空運	九六
第四章 通信	九九
第一節 序説	九九
第二節 郵便	九九
第三節 電信及び電話	一〇一
第四篇 商業	一〇五
第一章 世界の商業	一〇五
第一節 商業の種類	一〇五

第二節 世界の貿易	一〇五
第三節 世界の重要商業市	一〇七
第二章 我が國の商業	一〇九
第一節 内國商業	一〇九
第二節 外國貿易	一一〇
結論 世界に於ける我が國の産業及び交通上の地位	一一四

挿入多色刷圖版目次

日射と景觀 附雨量・氣温	卷頭
ブラジルに於けるコーヒー果實の採取	三一三
マレー半島に於けるゴム液の採取	三一三
世界植物景觀圖	三六—三七
陸上交通機關分布及び帆船航路圖	六四—六五
世界主要定期航空路圖	六八—六九
世界商業區域圖・世界通貨分布圖	一〇六—一〇七
世界産業交通地圖	卷末

現勢地理通論 實業學校用

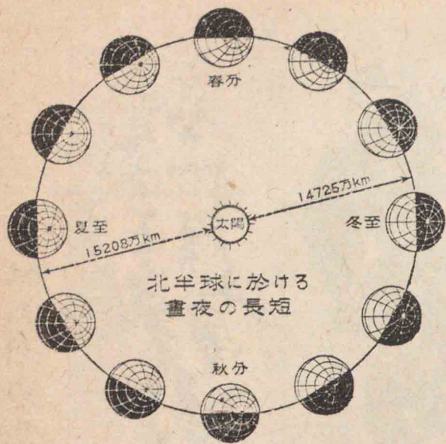
文學博士 石橋 五郎 著

緒言

世界の各地に住する人類は、文明人と未開人とを問はず、何れも生存に必要な衣食住の資料を得んがため、種々の産業に従事する。即ち或は天産物を奪取する狩獵、漁業、鑛業に従ひ、或は植物を栽培し動物を飼育する農業、林業、牧畜を營み、更にこれ等の産物を原料とし、これに加工する工業に勤めるものもまた少くない。

然るに個人または國民が、かかる産業によつて生産する物資は、場所によつて種類と量とを異にし、従つて餘剰を來たす所と、缺乏を告げる地とがある。これ等兩者の間に立つて、相互の便益のために物

*天産物を奪取するのみで、これを増殖しない經濟を奪取經濟といふ。



各季節に於ける地球の太陽に對する位置を示す。白色部は晝間を、黑色部は夜間を表はす。冬至と夏至とに於ける地球と太陽との距離の差は気温に殆んど影響しない。

*經度はイギリスのグリニツチを通る本初子午線を零度とし、東西經各六十度に及び、緯度は赤道を零度として南北緯各六十度に及ぶ。

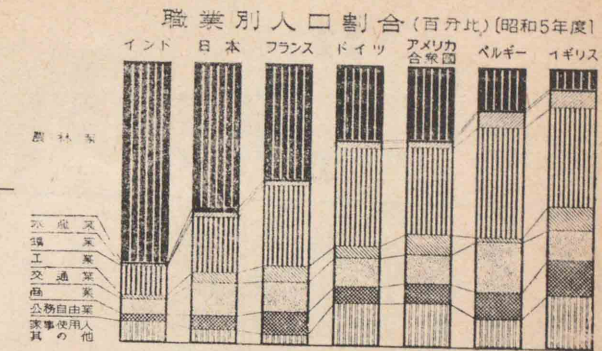
【地球】 地球は實に我々人類の住家であつて、その自然状態は人間の生活に最も重要な基礎となつてゐる。例へばそれが球形であるため、我々は地表上に經度及び緯度を設定して、あらゆる地點の位置を示し得られ、また世界一周の交通路をも計畫することが出来る。更に地球が自轉及び公轉する結果、晝夜四季の區別を生じ、月の盈虚と相俟つて我々に時の觀念を與へ、各種の産業に適する季節も定まり、また早くから人類に曆を作らせるに至つた。

【陸界】 人類の生存は地球表面に限られ、そこに陸界・水界・氣界の三界があり、その中、陸

第一篇 地理的環境

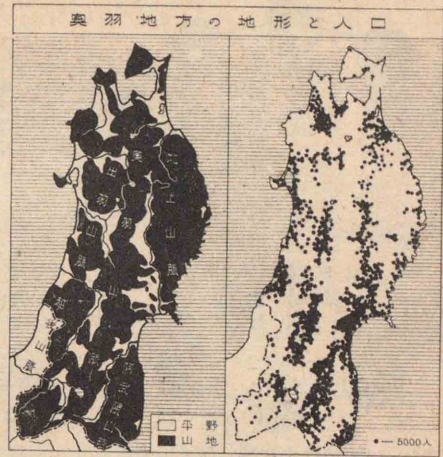
第一章 自然的環境

本書は、初めにこれ等自然・人文の環境を概觀し、次に經濟生活の各部門につき、世界的にこれを綜合し、我が國を本位としてその現勢を明かにし、且つこれと地理との關係を説くを以て目的とする。



資の交換を司る業務が即ち商業であつて、一國內に於ても、國際間に於ても行はれる。而して商業には常に水陸の運輸・通信等の交通を伴ふ。

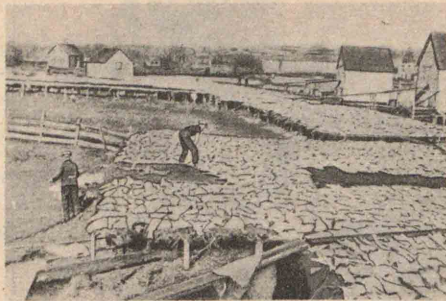
諸種の産業及び商業・交通等は、所謂人類の經濟生活であつて、世界の住民は皆これを營むが、その發達の程度に至つては各地方一様ではない。これが差異を來たす原因は、先づその自然的關係、即ち各國の位置・地形・氣候等に基づくが、またその人文的關係、即ち各國民の人種的特質・國民性・政策等によることも多い。最近に於ける我が國の經濟發展も我が國民の優秀なる素質と努力とに負ふところが少くない。



— 界は人類の生活に最も重要である。その面積は地球表面の約三割に過ぎないが、海洋に隔てられて種々な形の大陸をなし、またそこに働く種々な自然力の作用によつて、平野・山嶽・半島・島嶼・海岸線の屈曲等の變化を來たし、人類の活動地として適不適がある。例へば海岸線の屈曲に富む地方や平野は、交通が便利で産業も興り、經濟的發展に極めて有利であるが、山地は交通が妨げられ、産業の發達も制限される。この外、陸界には火山の噴出や地震等、種々の自然現象が絶えず起つて、人類生活に多大の影響を與へる。

* 暖流の主なものは日本海流（黒潮）・メキシコ湾流等があり、寒流には千島海流（親潮）・ラブラドル海流等がある。

【水界】 海洋は地球表面の約七割を占め、太平洋・大西洋・インドの三大洋を初め、更に多くの屬海（内海・灣等）に分れる。またその水は或は潮汐の現象を起し、或は暖流・寒流等の海流となつて、一定の方向に流れる。海洋は直接人類の住所には役立たないが、雨の源となり、氣温を調節

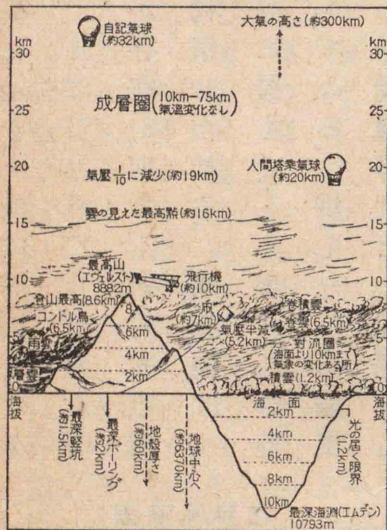


ニューファンランドバンク附近の鱈の乾場

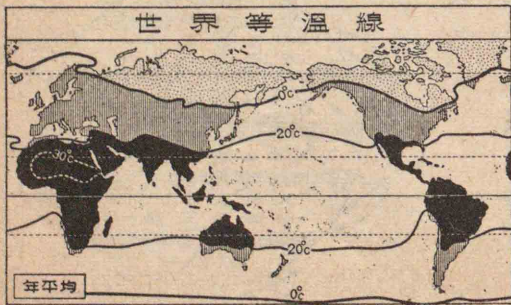
し、生物を育成して我々に魚類その他の産物を提供する。海洋は昔時は交通を妨げ、大なる障害物であつたが、今日では却つて自由な交通路として、商業や文化を發達させてゐる。大陸内の大湖もほぼ海洋と同じ關係に立つてゐる。

【氣界】 地球の外部は空氣の層、即ち大氣で包まれてゐる。大氣は太陽と共に、すべての生物の生存を可能ならしめる根本要素であるが、その

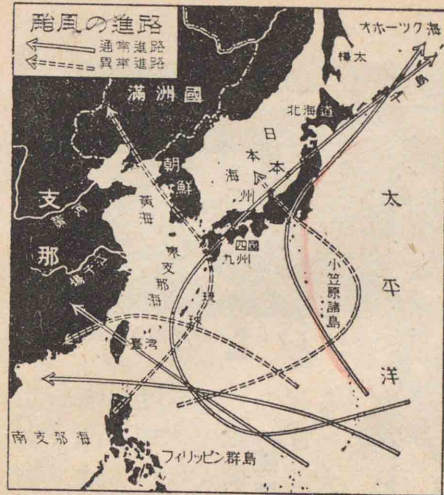
温度即ち氣温は地表上各地で異り、これによつて生物の分布を支配する。大氣はまた氣



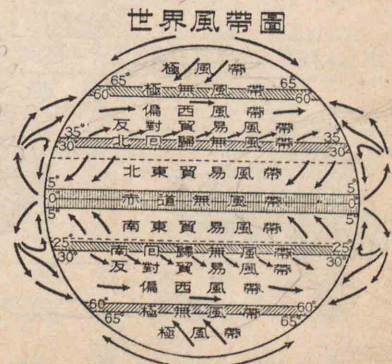
氣界・陸界及び水界の高低とその限度



颶風は赤道以外の地方に起る大規模の旋風である。

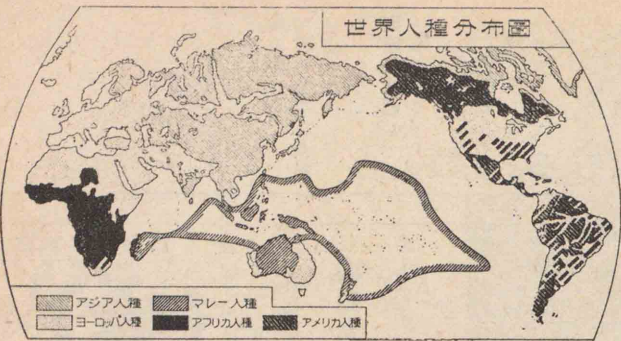


壓の差によつて風を起す。風には種々のものがあるが、地球上には貿易風、反對貿易風、偏西風等の各風帯が存在し、何れも帆船、航空機の航行その他に利用せられる。季節風はインド、南東アジア等に最も著しく現れ、この地方の農業を支配してゐる。併しながら颶風や颱風等はその通過する地方の人類生活に大損害を與へる。



大氣中の水分は雨雪等となつて地表に降下するが、雨量は地理的位置、地勢によつて各地に相違があり、その多少は植物の生育を左右し、直接間接に人類生活に大なる影響を及ぼす。各地のこれ等の大氣の状態を長年月に互つて平均すれば、その地の氣候が定まる。世界で經濟文化の最も進

*人類の場所的起源に關しては、中央アジアとする一元説と、中央アジア・マレー・濠洲等數箇所とする多元説とがある。



んでゐる地方は、溫和にして且つ變化と刺戟とに富んだ氣候を有する。

【災害防止】

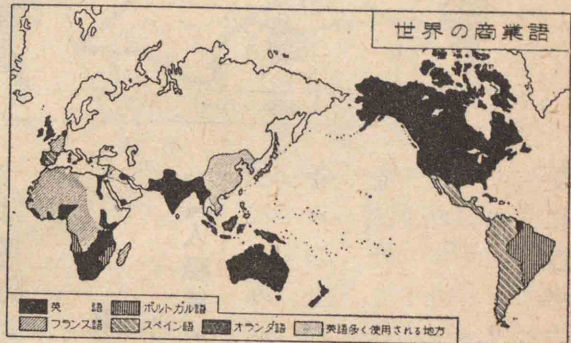
地震、津浪、暴風等は、時として産業、交通に大害を與へ、貴重な人命と財産を奪ふ。これ等の災害防止に關しては、一は豫防對策を立て、一は避難對策を講ぜねばならぬ。

第二章 人文的環境

【人種民族】

人類が地上に出現した當初は、限られた場所のみ居住してゐたのであらうが、やがて四方に擴つて各々の土地の環境の影響を受け、體格、皮膚色、容貌等に相違を來たし、所謂人種の別を生じ、以て人文的環境の根本條件となつた。人種は普通體質、容貌からアジア、ヨーロッパ、アメリカ、メロカ及びマレーの五大人種に分たれる。人種は更に幾多の種族に分れ、またそれ等種族の混種がある。大

イギリス	百萬
全領土	百萬
本國	百萬
支那	四二
ロシア全土	二五
米國	一五
全領土	三三
本國	三三
フランス	三三
全領土	三三
本國	三三
日本	三三
全領土	三三
内地	三三



他方に住民の歴史・生業等、政治・經濟的關係の如何により、地球上到る所て相違を來たし、世界全體では西歐を始め、我が國・南東アジア・米國・東部等が特に稠密である。

人口密度が大で、土地の割合に人口過多の地方の住民は生活が困

體同一種族から成つて、その風俗習慣の相似た人類の集團を民族と稱し、相集つて國家を形成するものが多い。また各種族や民族は各々固有の言語を有するが、商業・學術・外交等に於ては、或る數種の言語が共通に使用せられる。

【人口】 人口は政治・經濟の要素であつて、今日世界の人口總數は二十一億を超えるが、國家別に見れば著しく多少があり、以て國家の盛衰・産業の發達に影響するところが少くない。またその密度は、一方にその地方の自然的環境と、



支那移民の出發

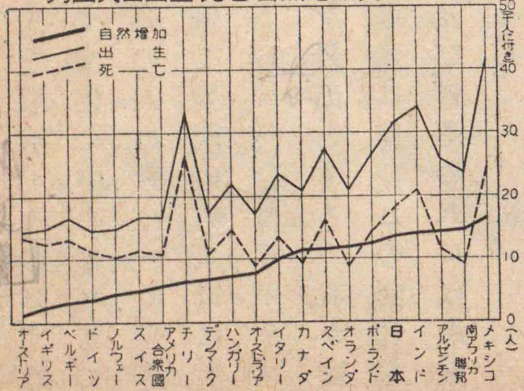
*我が國の人口増加率は、昭和十年、千人につき、四九人であつて、同年は近年の最高率を示した。

または領土の増減によつても變動する。

【聚落】 人類の住所は生活の如何によつて集合形態を異にし、村落・都市の區別を生ずる。村落は食料・用水等の便を選んで發生し、住民の大多數は農・牧・林業に従ふ。村落はやがて交通・經濟・文化・政治等の諸原因により漸次發達して都市となる。都市には初めより計畫せられたものもあり、小

難なため、人煙稀薄な沃土を求めて移住することが多い。これを移民といふ。移民には、我が本州より北海道に移るが如き内地移民と、ブラジルの如き外國に出る海外移民との別がある。而して一國の人口數は、出生・死亡の差による自然的増減の外に、これ等の移民や

列國人口出生・死亡・自然増加表(昭和8年度)





最も幼稚なる村落(上、東アフリカ)と整備した都市(下、ウィーン)

地域に多数の住民を收容し、その多くは商工業に従事して文化の中心をなしてゐる。従つて聚落の人口數は一般經濟發達の狀態に比例し、列國中、總人口に對する大都市(人口十萬以上)の割合はイギリスの三割九分八厘を最高とする。我が國は近時商工業の進歩に伴ひ、この割合も一割七分八厘に及び、村落の人口は漸減の傾向を示してゐる*。

*昭和十年の國勢調査によれば、我が國の全市部人口は總人口の三割二分七厘を占むるに至つた。
▲國家は主權の所在によつて君主國と共和國とに分れる。

【政治】

同一目的を有する住民が一定の地域を限つて統一ある政治生活をなす時は、これを國家といふ。國家は人類最高の社會組織であつて、その成立には主權、領土、國民の三要素を必要とする。従つて未開人中には未だ國家を形成しないものが多い。

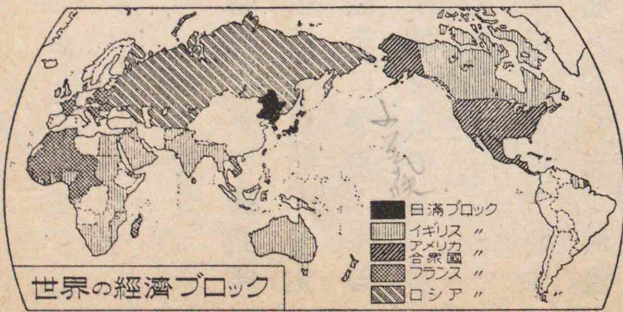
國家の力が増進すれば、本國以外に領土を求め、特殊の法律を設け



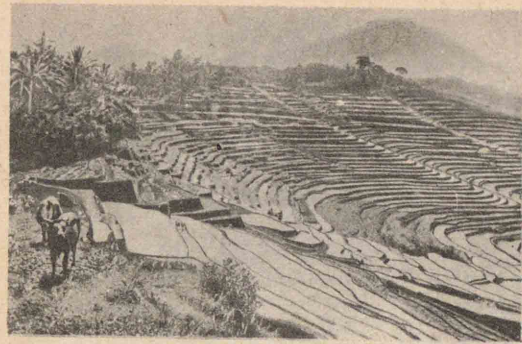
ジャバのゴム園(投資植民地の一例)

て統治するのを常とする。これを植民地といふ。植民地には政治的に自治植民地、直轄植民地、保護地、租借地、委任統治領等の別があり、また經濟的には移住植民地、投資植民地、栽培植民地等に分たれる。

國家の經濟政策も重要であつて、從來各國はその貿易上概ね保護政策と自由政策との何れかを採り來つたのであるが、世界大戰後はその苦い經驗から、何れも物資の自給自足(これをアウタールギーといふ)を理想とし、互に關稅を引上げて國內の産業を保護し、外國品の輸入を防止せんとするに至つた。これがために、自國の勢力範圍の諸地方を糾合して、所謂經濟ブロックが生れた。日滿ブロック、英帝國ブロック等はその例である。



*世界に於ける農産物の價額は他の天産物に優り、天産物總産額の約七割六分を占める。



ジャヴァの耕地(傾斜地と段丘)

【耕地】

第二篇 農業

第一章 農業及び農産

第一節 世界の農業

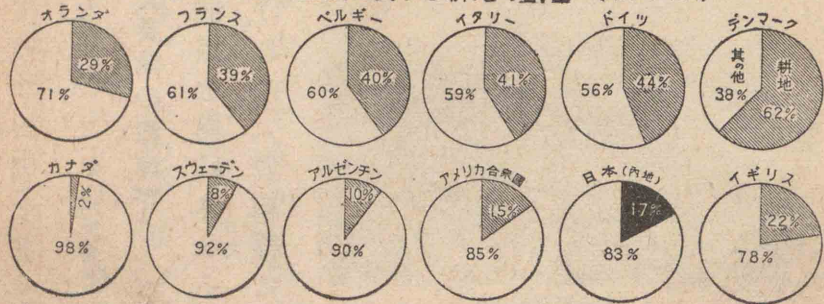
人類の經濟生活は、狩獵時代より牧畜時代を経て農業時代に進み、初めて一定の耕地に定住し、生活の自給と安定とを得るから、世界の住民は最も多く農業に従事してゐる。我が國內地でも農民は總人口の半數を占める。農業は實に世界に於て最も重要な産業である*。

耕地には水利と耕作の便との多い平坦な土地を要する。故に人類文化の初期に於ては耕地として先づ河邊の段丘を選ぶを常とし、次に水利のよい平野を耕作して餘地がなくなれば、更に沼澤を干拓し、或は森林・丘陵等の地を開墾する。また適度の雨量のない場合には、河川・鑿井ほりなきによる灌漑を以て不毛むぎの地を耕地とすることもある。耕地に水田・畑の二種があり、水田は多く河湖の沿岸の低地にあつて沖積層から成り、畑は洪積層の臺地に多い。

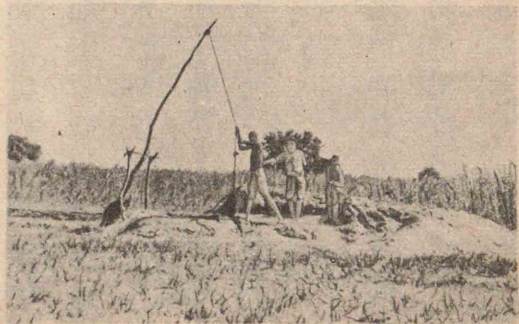
*世界の陸地面積に對し

耕地 六・七%
森林地 三〇・〇%
草原 三〇・六%
不毛地 三〇・七%

世界主要國の面積に對する耕地の割合 [昭和9年度]



井きによる灌漑を以て不毛むぎの地を耕地とすることもある。耕地に水田・畑の二種があり、水田は多く河湖の沿岸の低地にあつて沖積層から成り、畑は洪積層の臺地に多い。

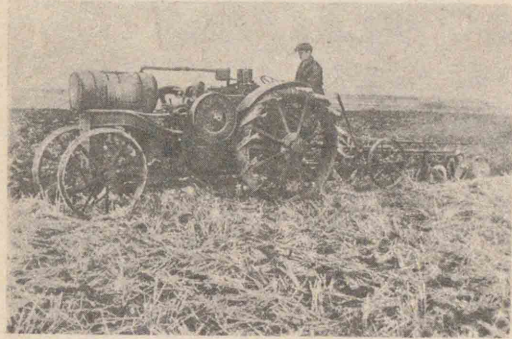


インドに於ける耕地の灌漑

現今世界の耕地*全面積は地球陸地の約一割九分であつて、各國に於ける耕地がその國土の面積に對する割合は國土の地勢地質及び文化發達の如何によつて區別である。歐洲諸國は國土の全面積に對し、概ね二割以上の耕地を有するが、我が國殊に内地

我が國の耕地面積
 内地 五七(一六)
 朝鮮 八二(三三)
 臺灣 八二(三三)
 樺太 三〇(八)
 關東州 二〇(五)
 (括弧内は全面積に對する比率)
 將來我が國に於て開墾し得べき耕地は二〇〇萬ヘクタールに過ぎぬ。

農民一戸當り耕地
 米 國 一(一)
 英 國 一(一)
 ドイツ 一(一)
 フランス 一(一)
 日本 一(一)



カナダの疎放的農業

の耕地は田畑を併せて約六百萬ヘクタールであつて、僅かに一割七分に過ぎない。これは専ら地勢上の關係に基づくものである。

【農業の種類】 耕地の廣狹はその地方の人口密度に應じて、農業の種類を異にさせる。カナダ米國ロシアの如く、人口に比し耕地が廣ければ、大農組織による疎放的農業が行はれ、日本ジャヴァの如く耕地が少い時は、小農組織による集約的農業が行はれる。農法に於ても前者では主として機械力を用ひ、後者は専ら人力を以てする。

この他農法精緻で専ら人力による園藝農業、熱帶地の土人を使役して外國の資本主により營まれる栽培農業及び未開人の原始農業等の種類がある。

【農業地方】 農業は適度の溫度と雨量とを要するので、世界の農業地方は溫帶熱帶にある。アジア洲では季節風帶である南東部



インド支那の水牛による米田耕作

に盛んで、支那・インド等は最も著れる。中部及び西部地方はステップ或は沙漠があり、シベリアの北部は氣候が寒冷なため、何れもこれに適しない。ヨーロッパ洲は比較的平原が多く、偏西風が絶えず灣流上の濕氣を送つて來るので、到る所に農業が行はれる。ただ北歐地方は氣候不良で、土地が瘠せてゐるために盛んではない。南北アメリカ洲は耕地は甚だ大であるが、農業の盛んなのは米國・カナダ・ブラジル・アルゼンチン等である。アフリカ洲は周圍の高地に濕氣を遮られて、北部のエジプトの外、農業に適しない。濠洲では土地が一般に乾燥し、人口が少いので、僅かに南東部に行はれるに過ぎない。

第二節 農産

【米】 溫暖濕潤の地を好む。故にアジア洲南東部の季節風帶なる支那・インド・日本・佛領インド支那・蘭領東インド・シアン・フィリピンはその主産地である。その他ブラジル・米國・イタリー・エジプト・スペイン

米輸出額 萬噸

インド及び	五六
ビルマ	三三
シヤム	三〇
朝鮮	三〇
佛領インド支	三三
那	三三
(但し朝鮮は内地への移入額とす)	
米輸入額	
支那	三〇
英領マレー	三〇
蘭領東インド支	三〇

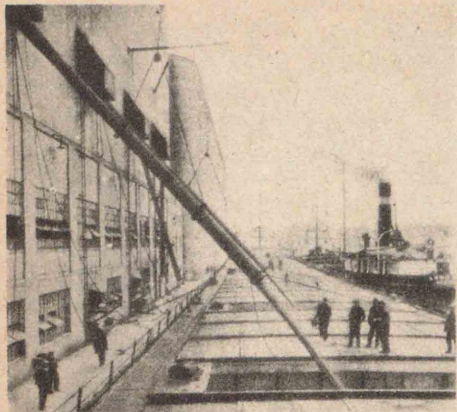
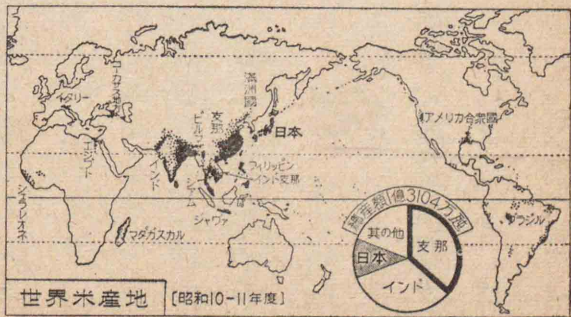
▲日本内地に於ける米の消費量は人口一人につき、年約一交珣である。また昭和八年我が政府は米穀統制法を發布して米價の調節を計ると共に外米の輸入を禁止した。

ンロシア等にも移植栽培せられる。世界の總産額は約一億三千萬噸で、市場に現れるのはその約一割に過ぎない。主なる輸出國はインド、ビルマ、シヤム、佛領インド支那等で、輸入國は支那、英領マレー、蘭領東インドの外、ドイツ、イギリス等の歐洲諸國である。歐洲では輸入米の一部を食料に供し、一部を工業原料に使用する。

我が國は古來豊葦原瑞穂國と稱せられ、全國殆んど米を産しない地はなく、また近時人口の増加に伴つて産額も増加し、朝鮮、臺灣の産米を加へれば、ほぼ自給自足の程度にある。

【麥類】 小麥、大麥、燕麥、ライ麥等の種類があり、米に比すれば比較的寒地に適し、且つ降雨の少い地を可とする。

小麥は温帶の原産で、氣候馴化の性質が強いため、現今では世界各地に分布してゐる。産額は米よりやや少く一億二千萬噸で、産地は

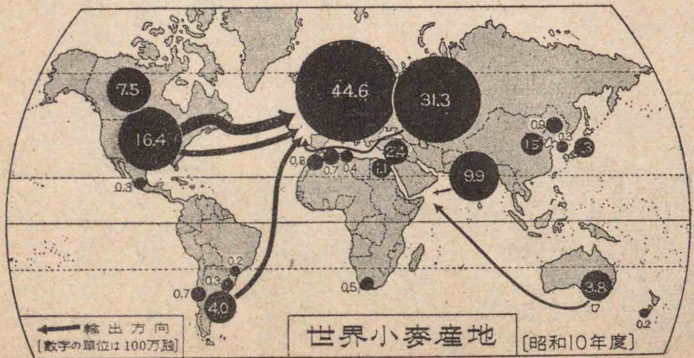


米國の穀物庫(エレヴェーター)と輸送船

歐北米の二洲を主とする。歐洲では何れの國にも産するが、ロシア及び南東部のダニエブ河流域地方のみは餘剰があり、西歐諸國は概ね不足である。北米では米國の中部、カナダの南部に産する。その他アジアの東部及び南部、南米のアルゼンチン並びに濠洲の南

東部にも産し、共に西歐諸國へ輸出せられる。概して小麥はその産地も廣く、これが消費地方も大なるため、世界の市場に現れるものは總産額の二割五分に及び、世界的商品として米に比すれば遙かに重要である。

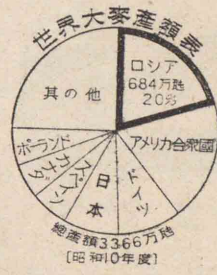
我が國は氣候が濕潤なため、一般に良好なる小麥産地とはいひ難



*我が國の小麥は質軟かく色純白を缺き、米・藻諸洲のものに比すれば不良である。
▲穀物中最も低温寡濕に耐へる大麥は年平均温度攝氏三度以上、年降水量二五〇以上以上の地に生育する。

●世界に於ける燕麥の産額は約三〇萬噸であつて、ロシアはその二分の一を占める。

×ライ麥は小麥・大麥に比し瘠地に生ずるが、寒冷の地方には適しない。世界に於けるライ麥の産額は約四〇萬噸で、ロシアはその半ば近くを占める。

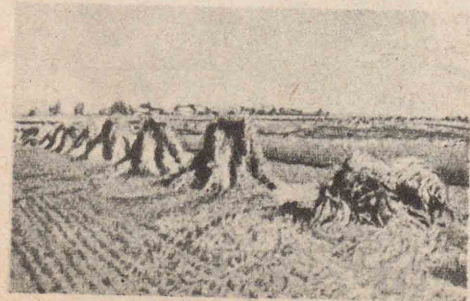


いが、關東地方及び福島福岡岡山兵庫の諸縣朝鮮の北部等を主産地として近年はかなりの増産を示しつつある。併しながら、麥粉醬油の原料として年々需要も増加し、カナダ米國濠洲より輸入するものも少くない。

大麥は短日月で成長し、寒冷の地にも産するので、その分布が廣く、

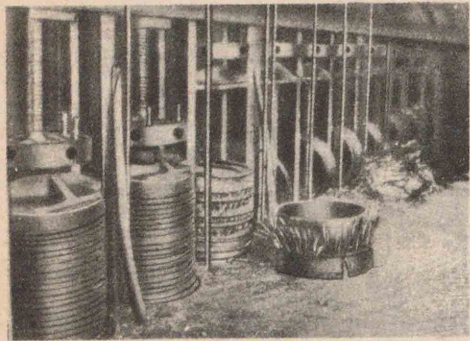
ロシア・米國・ドイツ等を主産地とする。食料としてよりはビートルの原料、馬糧に用ひられるから、世界市場の貿易額は小麥に比して少い。我が國に於ける産地は、主として關東の諸縣であつて、別に朝鮮にも産する。我が國では大麥を食用とする。

●燕麥はロシア及び北米の濕氣の多い地方北西歐諸國に於て盛んに栽培せられ、我が國では殆んど北海道朝鮮に限られる。粉末とし、或はオートミールとして食用に供する外、飼畜にも用ひられる。ライ麥は歐洲の特産物ともいふべ

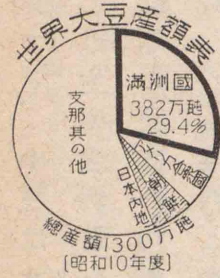


北ドイツに於けるライ麥の收穫

*落花生も製油原料として知られ、インド・米國・支那等に産する。この他支那の胡麻・荳蔻(蘇ともいふ)・荳蔻(アラナ)等も製油原料として名がある。



滿洲國に於ける油坊の内部



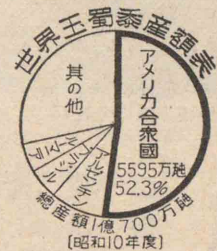
く、ロシアドイツポランドに於て盛んに栽培せられる。黒バンの原料となる外飼畜用に供せられる。我が國では東北地方に少しく産するのみである。麥類の莖は眞田として製帽の原料となる。

【雜穀】 豆類主蜀黍粟稗蕎麥等であつて、概ね地味を選ばず、山地瘠地にも生育し、凶歲にも實るものが多いので、地方によつては米・麥に代るべき重要食料の一つである。

豆類に大豆・小豆・豌豆等の種別があり、共に東洋諸國に産し、その中大豆は製油原料として世界的需要がある外、我が國では直接食用に供し、また豆腐を造り、味噌醬油等の製造に用ひる。製油後の豆粕は肥料に供する。我が内地に於ては北海道及び奥羽諸縣に多く、朝鮮にも産する。滿洲國は世界最大の大豆生産國であつて、その大部分は我が國及び歐米諸國へ輸出される。近時

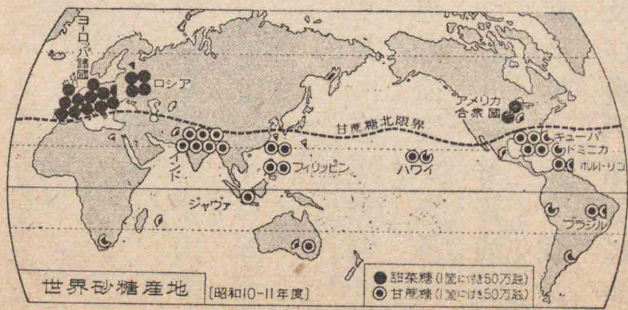
*玉蜀黍は寒暑を選ばず各地に生育するが、その最も適當してゐるのは溫和にして雨量に富む地方である。我が國では北海道及び朝鮮を主産地とする。

米國にも産する。小豆は北海道朝鮮に産し、内地では製餡の原料となり、朝鮮では主要食料となる。



玉蜀黍は専ら家畜の飼料として生産せられるが、また澱粉・酒精の原料ともなる。南北アメリカ並びにアフリカでは食料に供せられる。世界總産額一億七百萬噸の半ば以上は米國に産し、國內の消費を充たすは勿論、餘剰を西歐諸國に輸出する。アルゼンチン・ブラジル・ルーマニア等にも産する。

【甘蔗及び甜菜】 共に砂糖の原料であつて、甘蔗は熱帯及び亞熱帯に産する。世界に於ける甘蔗の産地はインドを第一とし、キューバ・我が臺灣・フィリピン・ハワイ・ブラジル・ポルトリコ等がこれに



第二十世紀の初までは、甜菜糖の産額は甘蔗糖の上にあつたが、ブラジルセル砂糖條約の結果、甘蔗糖の凌駕するところとなつた。

砂糖國民一人當り年消費量

デンマーク	五・一
濠洲	五・一
イギリス	四・六
スイス	四・三
スウェーデン	四・五
米國	四・二
カナダ	四・四
キューバ	三・七
オランダ	三・九
日本	一・〇

次ぐ。濠洲・蘭領東インドその他熱帯の各地にも産し、その大部分を輸出する。インドのみは皆、國內で消費せられる。

甜菜は氣候がやや寒冷で適當の濕氣ある地方に産し、ロシア・ドイツ・フランス・チェコスロヴァキア・ポーランド等の歐洲諸國よりその大部分を出す。米國もまた近時著しくその産を増加するに至つた。砂糖の消費は、各國民の生活程度を推知する材料と稱せられるものであつて、文明諸國に於て最も需要多く、熱帯・亞熱帯の甘蔗糖は殆んど全部歐米諸國及び我が國の消費に供せられる。

我が國に於ては、甘蔗糖の大部分は臺灣から産し、沖繩鹿兒島の二縣及び南洋群島もまた少くない。甜菜糖は北海道朝鮮に産するが、その産額は多くない。近年製糖業の發展に伴ひ、國內で自給可能となつたのみならず支那その他へ精糖を輸出するに至つた。



ドイツに於ける甜菜の集積



ブラジルに於けるコーヒー果實の採取



マレー半島に於けるゴム液の採取

磚茶は主にロシアに輸出せられ、下層民の飲料となる。茶の一種にマテがあり、南米に野生する植物から採取するものであつて、土人の飲料となる。年産額約一萬噸に及ぶ。



セイロン島に於ける茶摘み

世界茶輸出額表 (總額42.1万噸)

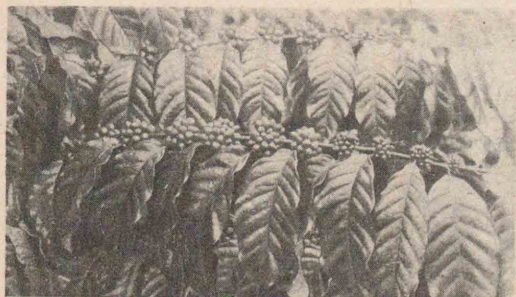
其の他	日本	支那	蘭領東インド	セイロン	インド
					15.6万噸

[昭和10年度]

茶磚茶綠茶の産がある。我が國は内地に綠茶を、臺灣に烏龍茶包種茶を産する。茶は生産地に於ける消費の外、純消費國として英・米・濠・加・露等がある。英國は主にインド紅茶を消費し、米國は我が國の綠茶を用ひる。

【コーヒー・ココア】 コヒーは熱帯の産であつて、

【茶】 茶は温暖多雨の地に適し、アジア洲の南東部を主産地とする。茶はその製法によつて紅茶と綠茶との別を生ずる。一般に亞熱帯の茶は紅茶に適し、温帯の茶は綠茶に適するので、インド・セイロン・蘭領東インド等では紅茶を出し、支那には紅



ジャヴァのコーヒー樹とその果實

*世界に於けるコーヒーの總産額は年々大いに變化するが、最近の年産額は約五百萬越である。我が國の輸入高は最近約三百萬圓に上る。

▲ココアの世界總産額は約九萬越である。



コスタリカに於けるココアの果實採取

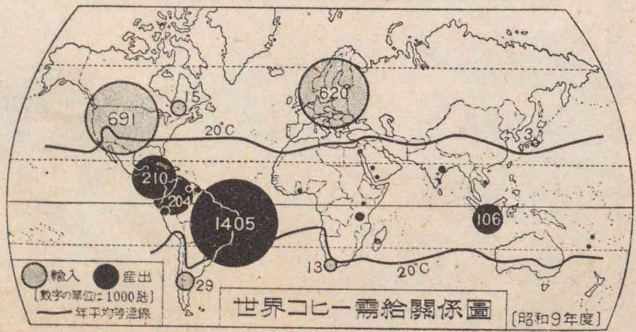
世界産額の六割以上はブラジルから出る。コロンビア、蘭領東インド、サルヴァドル、グアテマラ、ヴェネズエラ等がこれに次ぐ。主なる消費地は米國及びフランス、ドイツ、イタリー、オランダ等であつて、我が國の消費も年々増加してゐる。

ココア（カカオ）もまた熱帯に産し、中米及び南米の原産であるが、今はアフリカ洲が世界産額の六割以上を占め、ギニー灣沿岸が主産地である。アジアではセイロン、ジャヴァに産する。主

【棉花】

棉花（綿）は氣候乾燥にして高温な地方に適する。世界に於

なる消費地は米國で、歐洲諸國がこれに次ぐ。原料のまま飲料とする外、チヨコレートに製する。

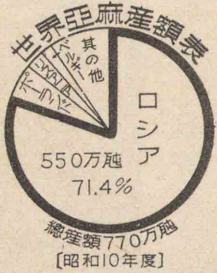
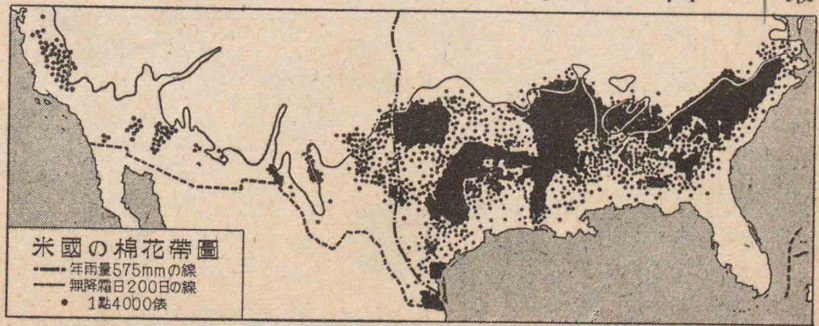
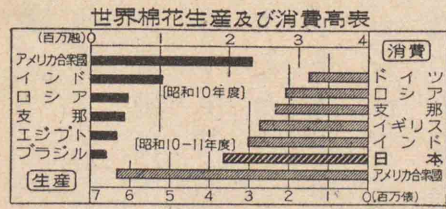


*米國の棉花産地は南部の諸州で所謂棉花帯を形成してゐる。

世界に於ける棉花の産額は近年増減常なく、世界大戰前は約200萬俵以上を産し、戦後は減少して一九二二年には一五〇萬俵となつたが、一九三五年には三〇〇萬俵を數へた。棉花の一俵は約一〇乃至三〇疋である。所謂棉花飢饉は時時棉花の純消費國に起るものであつて、専ら米棉の供給不足から生ずる。棉花栽培事業とは米國以外の地に於て棉花を栽培せんとするものであるが、その成績は未だ十分でない。

ける棉花の産額は約五百萬噸(約二千四百萬俵)で、米國を最大産地とし、インド・ロシア支那・エジプト・ブラジル等がこれに次ぐ。而して米國はまた世界消費國の首位に居り、我が國が第二位を占める。更にインド・イギリス支那・ロシア・ドイツ等を主なる消費國とする。

近時我が國は紡績工業の大發展と共に棉花の需要もまた激増したが、我が國の棉花は氣候の關係上纖維が太く短くて細絲を紡ぐに適せず、且つ産額も極めて少いから紡績原料の大部分は米國・インド支那・エジプトから輸入し、その額實に我が國總輸入額の三割餘を占める。世界に於ける棉花の需要は年々激増し、英佛等の純消費國では各々その領土内で棉花の栽培を奨励し、



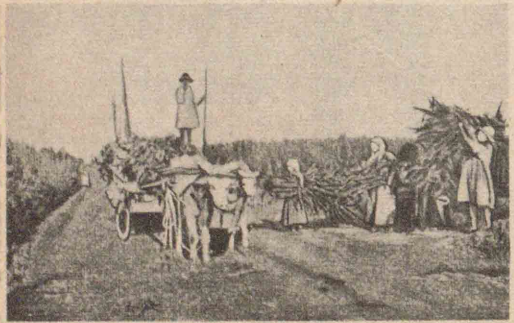
我が國でも朝鮮の南部に米棉種を植ゑ、やや優良なるものを産するに至つた。

【麻類】 麻類には亞麻・大麻・黃麻・苧麻等の種別がある外、マニラ麻・シーザル麻等の別種がある。*亞麻は多く新舊兩世界の冷和帶に栽培され、その大部分はロシアを中心とする東歐諸國に産する。その纖維は、リン



ネルに製せられる。亞麻仁を主とするものは温暖な地方に適し、これより工業原料たる亞麻仁油を製する。アルゼンチン・ロシア・インド等から出る。

大麻は温帶地方に産し、ロシアを初め南東歐洲諸國に多く、アジアではシベリア・支那・日本等を主産地とする。イタリー及び我が國



大麻の收穫

*亞麻は西歐諸國に於ける最古の衣料である。我が國に於ては亞麻は僅かに北海道に産するのみである。

■我が國に於て麻と稱するのは、主に大麻であつて、栃木・廣島・長野三縣を主とし、朝鮮にも産する。漁網・蚊帳・上布等に製せられる。

*黄麻は我が國では臺灣に産する。

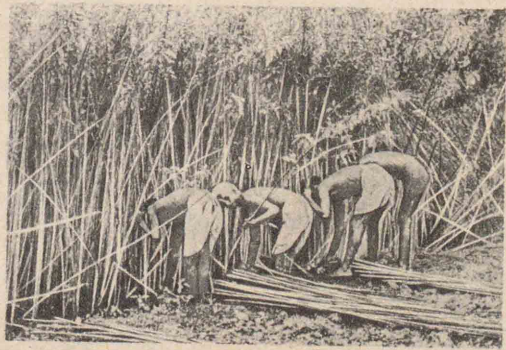
▲ラミーの優良なものに光澤があつて時として蠶絲の代用品となることがある。ラミー工業は英國に盛んである。

のものは良質を以て名がある。この纖維より織物綱索絲類を製する。

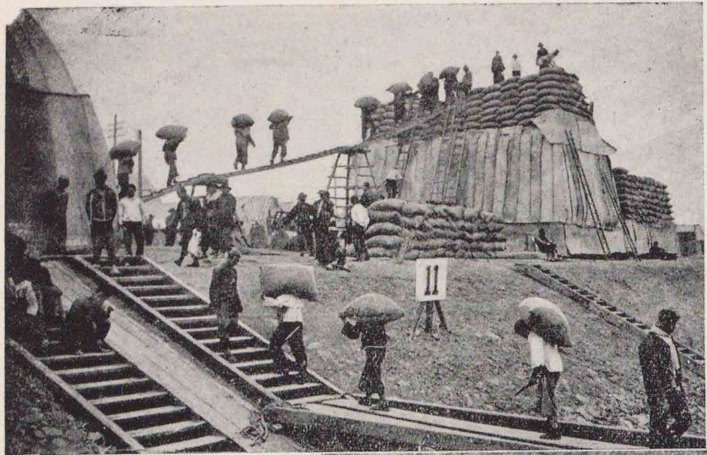
*黄麻は殆んど大部分が北部インドの特産で、主として農作物の袋に製せられ、また粗布の原料となる。産額の半ばは歐米諸國に輸出せられ、滿洲國でも近年大豆の袋用としてこれを輸入する。

芋麻(ラミー)は一に支那草とも稱せられ、支那インド及び臺灣の山野に自生する。その纖維は強靱で且つ耐水性であるから、帆布綱とする外、精製して上布類を造る。

マニラ麻はフィリッピンの特産で、アバカ樹の樹皮から採取せられた纖維である。性强靱であるから、綱索織物の原料となる。我が國へも麻真田の原料として多額の輸入がある。



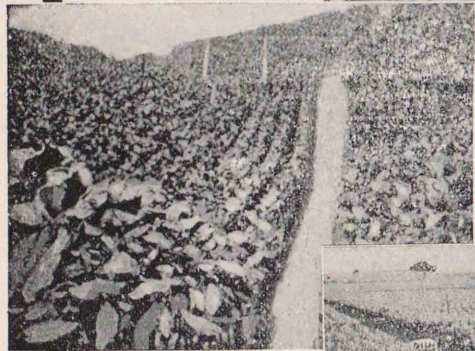
インドに於ける黄麻の刈取



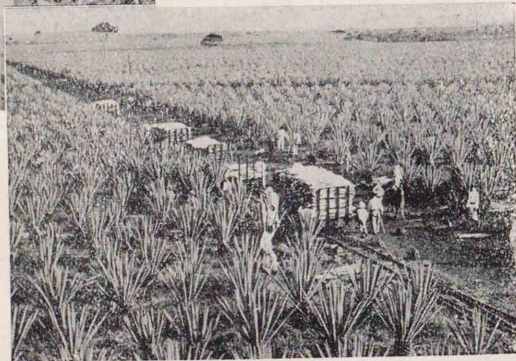
← 北滿洲平野に於ける大豆の野積



⇒ アメリカ合衆國の玉蜀黍畑

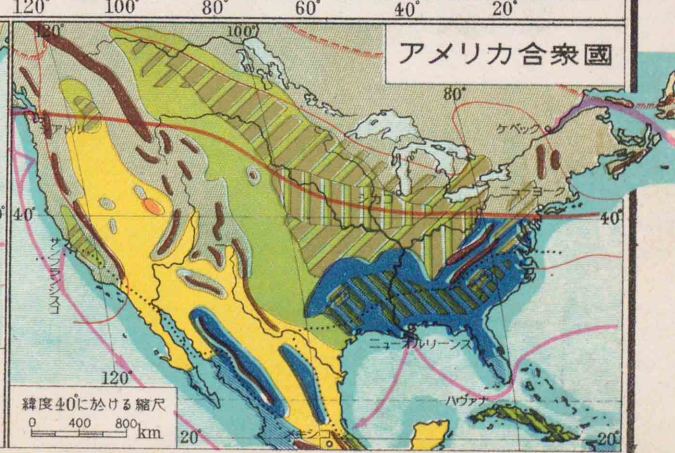
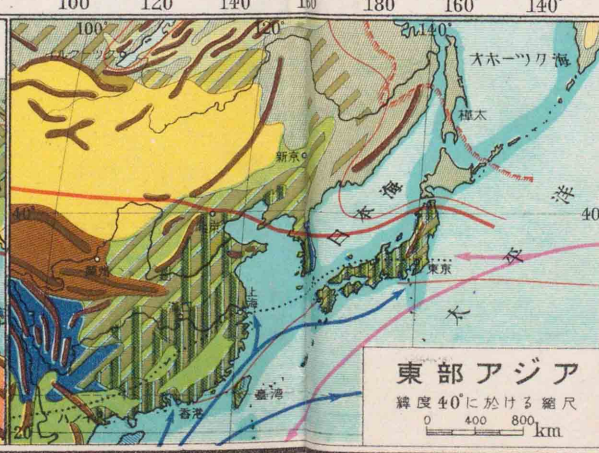
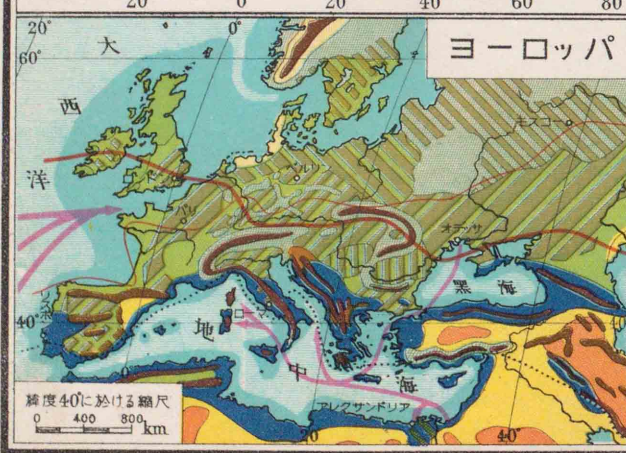
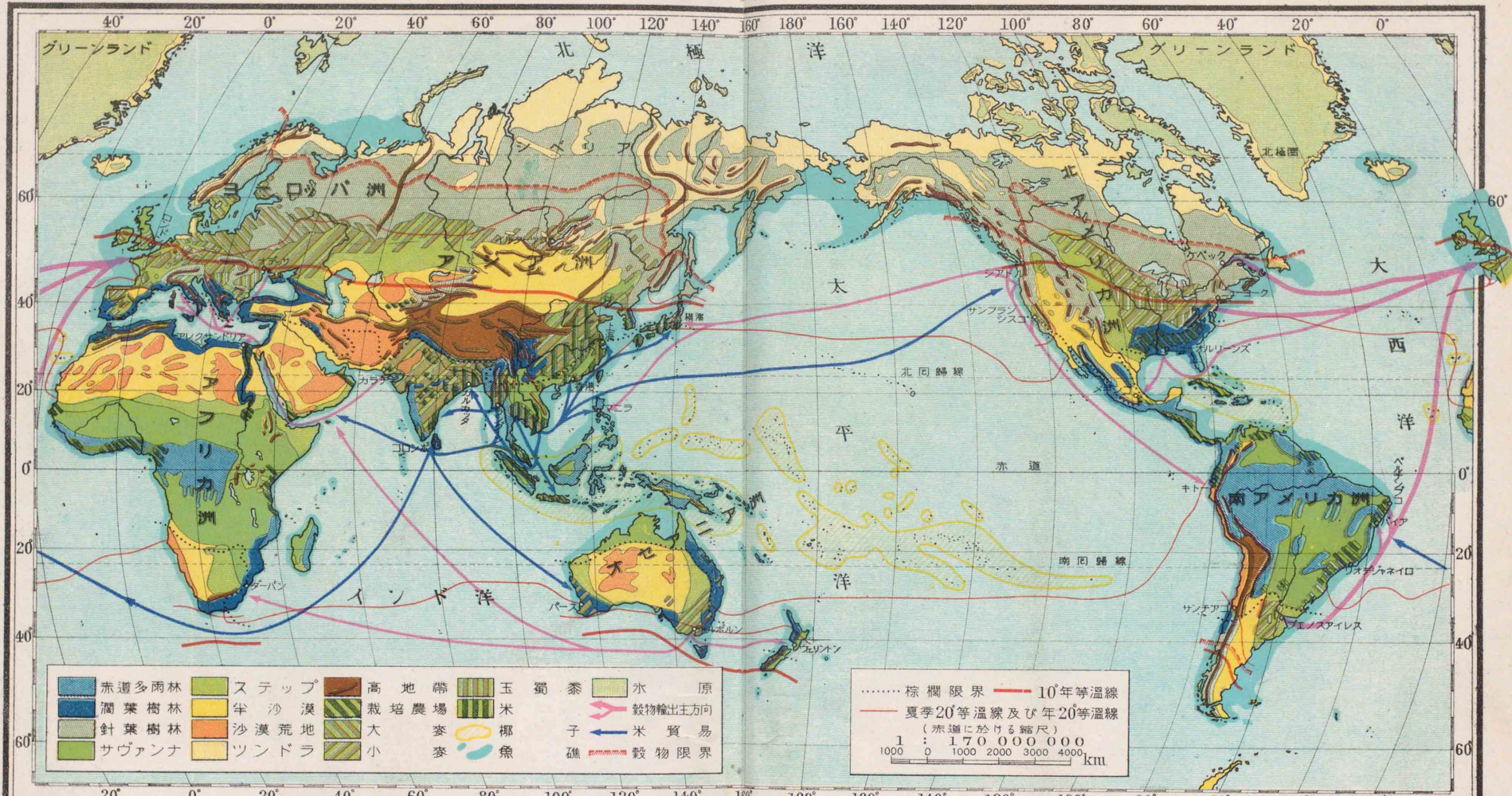


← キューバの葉煙草畑



⇒ ユーカタン半島に於けるシーザル麻の刈取

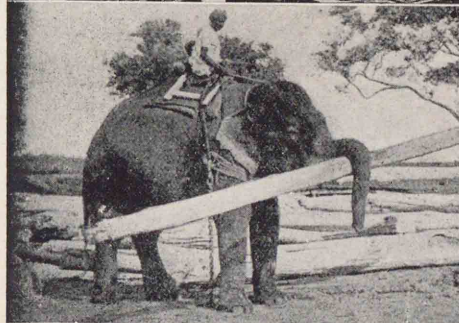
世界植物景觀圖



↓南洋に於けるココ椰子の林
←マカッサルに於ける藤の積出



←アルジェリアに於ける
コルクの採取



↑シナムに於ける
チーク材の運搬



シベリアのタイガ森林



ノルウェーに於けるパルプ用材の集積

*シーザル麻はサイザル麻とも呼ばれる。

▲米国内に於ける主なる産地はケンタッキー及びヴァージニア州である。煙草は我が國に於ては、關東・九州・四國等に多く栽培せられるが、なほ消費の割餘を輸入する。

国名	0	1	2	3	4	5
インド	0	1	2	3	4	5
アメリカ合衆国	0	1	2	3	4	5
ブラジル	0	1	2	3	4	5
日本	0	1	2	3	4	5
暹羅	0	1	2	3	4	5
東インド	0	1	2	3	4	5
シベリア	0	1	2	3	4	5
ギニア	0	1	2	3	4	5

シーザル麻はヘネケンとも稱し、龍舌蘭の一種アゲイヴから採取せられる。メキシコのユーカータン地方に多く栽培せられ、シーザル港より輸出せられる。綱袋紙等を製する。近時熱帯の各地に移植せられ、我が臺灣にも産するに至つた。

【葉煙草】 中米の原産であるが、今は熱帯及び温帯の各地に栽培せられ、インド、米國をその主産地とする。キューバのハヴァナ煙草、フィリッピンのマニラ煙草及びバルカン半島南部のトルコ煙草は良質を以て知られる。煙草の主なる消費國は英、獨、佛、米の諸國で、市場としてはマニラ、ハヴァナ、ルイスヴィル、セントルイス等がある。

第二章 林業及び林産

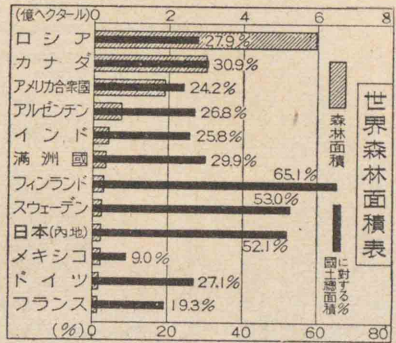
第一節 世界の林業

【森林地方】

樹木は草類よりも氣候に對する關係が自由である

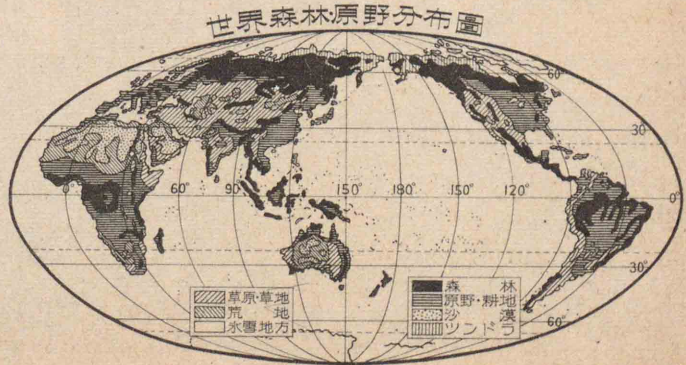
世界森林面積

内 譯
アシア
北アメリカ
南アメリカ
アフリカ
オセアニア
ヨーロッパ



からその分布が廣く、世界の森林は地球陸地の約三割を蔽ふ。殊にユーラシア及び北米大陸の冷帯に屬する地や、南米及びアフリカの降雨の多い赤道附近には廣大な森林があり、森林面積の大なる國の主なるものは、ロシア、カナダ、米國、アルゼンチン、インド等である。

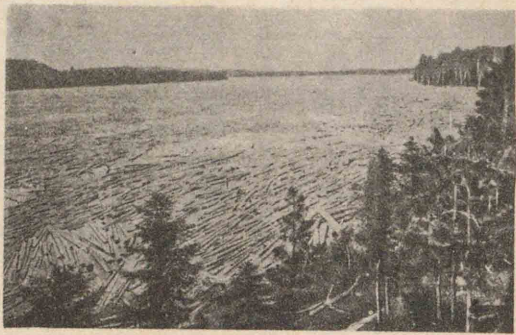
我が國は氣候溫暖で雨量に富むが故に、天然に森林の繁茂する特色がある。内地の森林面積は約二千萬ヘクタであつて、全面積の約五割二分を占める。併し地形が急峻であるから、國土保安の必要上、濫りに伐採を許さないのと、過半は官有林で伐



米國・カナダ・ロシア・スウェーデン等は世界有数の木材輸出國である。

我が國內地で立木地面積の大なるは、茨城・岩手・静岡・長野諸縣で、小なるは東京・大阪の二府である。現在我が國內地の森林面積の約一割は保安林である。

我が國(内地)の森林 (昭和十年)
面積 百萬ヘクタール
伐採用材 百萬圓
伐採薪材 百萬圓



カナダに於ける木材の河上運搬

第二節 林 産

【熱帯樹】

主に濶葉樹から成る。木質美麗で堅緻なものが多い。マホガニーは中米・西インド諸島に産し、歐米諸國に於ては最も貴重な工藝用材である。白檀紫檀及び黒檀は南東アジア及びマダガスカル等に産し、家具を製する。熱帯樹にはまた染色若しくは鞣の原

木が少いのと、その地形が運搬に不利であるのにより、森林の面積の廣い割合には林産物の産額が大でない。現今は北米西岸及び南洋産の木材を多く輸入使用する。

【森林の種類】

林相によつて分つと、天然林、人工林となり、樹種によつては針葉樹林、濶葉樹林の別があり、また所在地によつて熱帯林、亞熱帯林、温帯林、寒帯林等に分たれ、種別の方法は頗る多い。

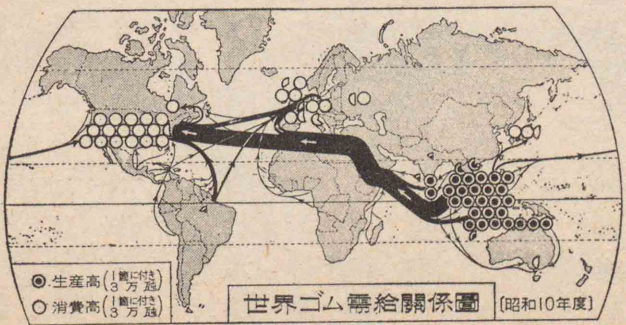
料となるものが多い。中米の蘇枋南洋群島の檳榔樹阿仙木等の如きこれである。竹及び籐も南アジアの重要林産物である。熱帯樹に属するゴム樹の乳液からゴムを採取する。もと野生樹



ジャヴァに於けるゴム液の採取

*野生ゴムの主な産地は、北ブラジルであつて、パラ港から輸出するのてパラゴムの名がある。一九三五年には約一萬三〇〇〇噸を産した。
▲最近我が國のゴム消費額は七萬三〇〇〇噸に及んでゐる。

ある。ゴムは海底電線タイヤ諸器械等の用途が甚だ多く、近年需要が激増した。米國の消費は最も多く、イギリスがこれに次ぎ、我が國もゴム工業の進歩に伴ひ、消費國として世界第三位に上り、海峽植民地マレー諸島から年々多額



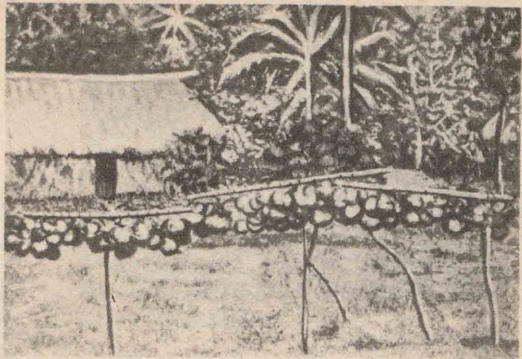
を輸入する外、これ等の地方に於ける邦人の栽培事業も漸く盛んとなつた。

ココ椰子の果實を乾燥したコブラからは椰子油を製する。ココ椰子は熱帯の到る所に生育してゐるが、コブラの生産はアジアの南部及び太平洋諸島に最も多い。

【亞熱帯樹】 常緑潤葉樹を

特色とする。この帯の木材は適度の硬度があつて、建築用となし得る外、その樹幹または果

實から樹脂を採取する。楡は前者に属し、樟・オリーブ樹は後者に属する。チークはビルマ・シアン等の南西アジアに産し、材質堅緻で腐蝕すること少く、且つ浮力が強い。ため造船用材となる。濠洲のユーカリ樹



コブラの乾燥

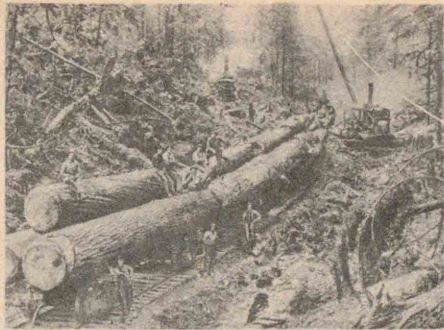
*椰子油は石鹼・蠟燭等の原料として重要である。



オリーブの果實採取(左下はその果實)

地中海岸のコルク樹等もこの帯に屬する。

*我が國へ輸入する所謂メリケン材は米檜・米榿・米松・米杉等の名で呼ばれるが、寧ろオレゴン松とダグラス樅等を主とする。



カナダに於ける木材運搬列車

【温帯樹】 落葉潤葉樹と針葉樹とに富む。山毛櫸は我が國温帯林の代表的樹木であつて、奥羽地方に多い。松は種類が多く、建築用材としては杉・檜に及ばないが、安價であるため薪材として需要が多い。松類中、世界的商品として著名なのは北米西海岸に産するオレゴン松で、我が國にも建築用または造船用として多く輸入される。*

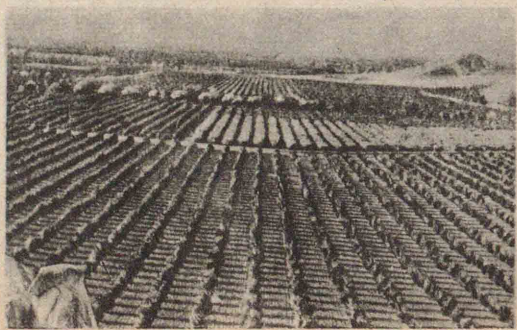
杉は我が國では近畿以北に多く、吉野・熊野・木曾・秋田等を主産地とする。米國産の紅杉は鉛筆用材として名高い。

【寒帯樹】 白檜・榎・松・蝦夷松・偃松・落葉松等の針葉樹を主とする。概ね製紙や人造絹絲の材料たる木質パルプの原料となる。シベリア・スカンデナヴィア・カナダ等は主なる産地であつて、我が國では北海道樺太に産する。

現今世界のバルブ輸出國としてはカナダ・スウェーデン・ノルウェー・フィンランド等を挙げ得る。我が國製紙業に於ては北海道樺太産のバルブを大部分使

用するが、なほ需要の約三割をカナダ・ノルウェー等から輸入する。近時滿洲國にも木質バルブの製造が興りつつある。

【林産の副産物】 林産物はこれ等の用材・薪炭・バルブ・樹脂・樹液等の外に、副産物として諸種の果實があり、世界的商品として知られるものが少くない。熱帯にはバナナ・パイナップル等を産し、西インド諸島・中米・ハワイ等から歐米諸國へ輸出される。また温帯には柑橘類・葡萄を産し、比較的冷涼な地方には苹果・櫻桃等の産がある。



米國カリフォルニア州のオレンジ畑

*我が國の林産副産物は諸種の果物の外、重要なものは椎茸・木蠟・樟腦・漆等である。

第三章 牧畜業及び蠶業

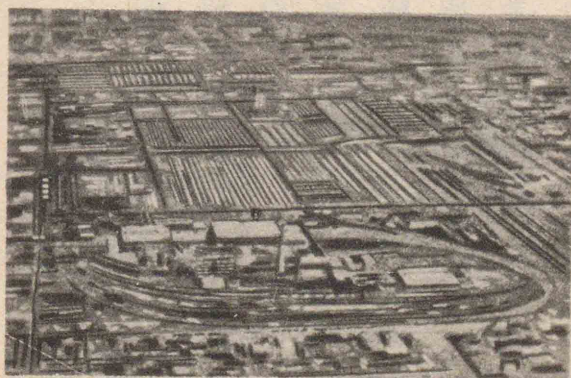
第一節 牧畜業

【牧畜地方】 家畜は氣候に馴化する力が強いから、その多くは世界各地に移殖せられるが、綿羊は濕潤な地を好まず、馴鹿は暖地に適

せず、象は寒地に生育しないやうに、種類によつてその馴化力を異にする。一般に牧畜業は氣候の乾燥した地方に行はれ、熱帯には家畜の生育は困難である。亞熱帯は氣候乾燥に過ぎるが、綿羊・馬等の飼養に適する。温帯は諸種の牧草に富み、牧畜が盛んである。寒帯には僅かに馴鹿・犬があるに過ぎない。

地形もまた牧畜に影響する。豚の如きは狭い土地にも生育するが、綿羊・馬・牛の如きは広い土地を要するから、人口稠密な地方では一般に不振である。故に牧畜に有望な地方は何れも新世界であつて、北米の大平原、南米のパンプス並びに濠洲の南東部はこれを代表する。

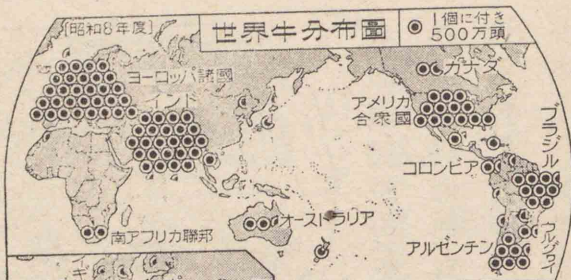
【牛】 牛は歐米人の重要な食料であつて、アルゼンチン・米國は牛肉・牛酪の二大供



シカゴの屠牛場大観

*牛は温帯に適し肉を主とするものは廣い原野に放牧するを可とするが、搾乳を主とするものは舍飼を妨げない。デンマーク・オランダ・スイスは乳牛を以て知られる。

▲山羊は綿羊よりも氣候に對してやや自由であるから、我が國でもその数は綿羊よりも多い。毛用の羊と肉用の羊とは多少その適地を異にする。



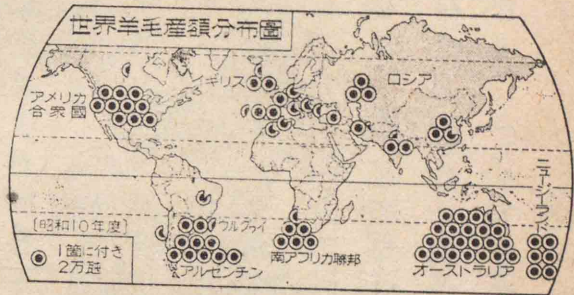
給國である。世界に於ける牛の主なる飼養地はインド・米國・ブラジル・ロシア・アルゼンチン等である。

【馬】 馬は主として駄用に使用せられ、ロシア・米國・アルゼンチン・ブラジル・ポーランド等に多く、アラビアには良馬を産する。我が國では北海道東北諸縣及び九州に多い。米國・南米・南歐・支那には騾驢がある。

世界馬頭數表 (數字の單位は万頭) (昭和9年度)

フランス	カナダ	ドイツ	ポランド	ブラジル	アルゼンチン	アメリカ合衆國	ロシア
284	293	336	376	683	986	1186	1565

【綿羊】 綿羊は太古から飼養せられ、殊に温帯地方の住民に衣食の料を供するが故に、その分布からいへば、ヨーロッパ・アジア等文化の古い地方に廣く存するが、その頭數よりすれば、人口少き新開地方に多い。世界の主なる牧羊國中、羊毛を最も多



く産するのは濠洲で、米國・アルゼンチン・ニュージーランド・南阿聯邦・ロシア・ウルグアイ等がこれに次ぐ。併しながら、歐洲諸國及び米國の生産はその消費を充たすに足らず、輸入が甚だ多い。羊肉は特に歐米諸國に於て盛んに需要せられる。

【豚】 農産物の残滓によつて養はれ、支那・米國・ドイツ・ブラジル・ロシア等に多い。回教の行はれる所では、教義により豚の飼養は禁ぜられてゐる。

【我が國の牧畜業】 これ等種々の畜産は、我が國では未だ諸外國に比して發達してゐない。これ

*最近各農家に於て若干の家畜を飼養すべき所謂畜農業が獎勵せられつつある。

▲我が國の牛頭数は全額土を併せて三〇萬頭である。

我が國民が古來肉食を疎んじ、毛織物を使用しなかつたことによる外、我が國の地形氣候が牧畜に適しないのもまたその原因である。

近來食用・使用・軍用の必要から、牛・馬は豚と共にやや増加する傾向がある。緬羊は殊に我が國の氣候に適せず、従つて牧羊業は振はな

*我が國へ輸入する羊毛は昭和十一年度二億圓に達した。

いが、近年羊毛の需要が激増し、濠洲・ニュージーランド・南米・南阿・支那等から多額を輸入する。

第二節 蠶業

【我が國の蠶業】 蠶業は地味が桑の栽培に適し、氣候の溫暖な地方に發達するが、人の勞力を要することが甚だ多いから、勞銀の低廉な地方でなくては榮えない。

現今世界の市場に現れる生絲總額は約五萬噸であつて、その八割餘は我が國が占める。我が内地では、繭三十二萬噸、生絲約四萬一千噸を産し、長野縣は全國生絲産額の約五分の一を出し、愛知・群馬など東海・關東の諸縣がこれに次ぐ。我が生絲の輸出額は生産額の約三分の二であつて、その八割以上を米國へ出し、他はフランス・イタリヤへ輸出する。生絲



我が國の蠶業

▲歐米諸國に於て養蠶の振はないのは、主として勞銀の高價なるに因る。

■近時朝鮮にも蠶業が興つてゐる。

●米國で需要する生絲の約九割八分は我が國から供給する。近時世界的不況と人造絹絲發達との影響によつて生絲價格が低落し、以て我が國斯業を不安ならしめつべきである。注意すべきである。



柞樹と柞蠶

は嘗て我が國輸出品の王座を占めてゐたが、今や綿織物に凌駕せられた。

【世界の蠶業地方】 我が國の外、支那に於ては江蘇、浙江、廣東地方を主産地とする。外に山東地方と滿洲國とに柞蠶絲の産がある。何れも品質が我が生絲に及ばず、發達の程度が低い。

日本、支那に次ぎ、イタリーの蠶絲はポー河流域に産し、品質優良を以て知られる。フランスもまた嘗て蠶業が盛んであつたが、今は僅かにローヌ河谷に行はれるに過ぎない*。

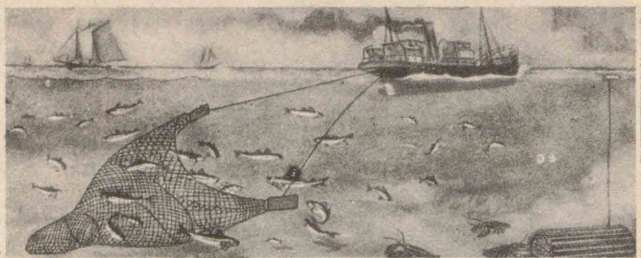
*この外、東歐・西歐諸國にも若干の産出がある。

第四章 漁業及び漁獲物

第一節 世界の漁業

【漁業の種類】 漁業(水産業)は海洋漁業、河湖漁業に分たれ、海洋漁業は更に沿海漁業、遠洋漁業に分たれる。遠洋漁業中動力船を用ひ

▲沿海漁業は主として、各國領海内に行はれるものであつて、領海は海岸を距る三哩以内である。



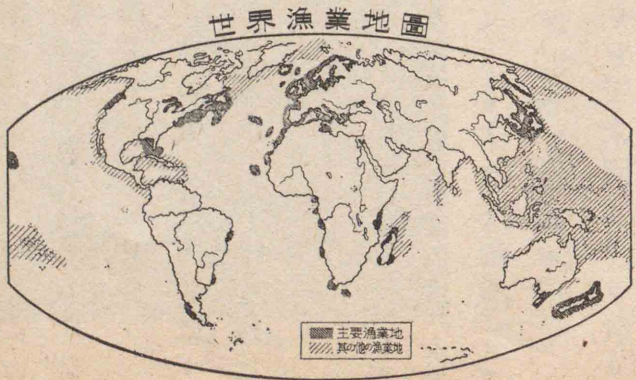
トロール船とトロール網

*淺海中、殊に淺くて魚類の集合する所を、魚礁と稱する。

て大規模の曳網をなすものにトロール漁業がある。

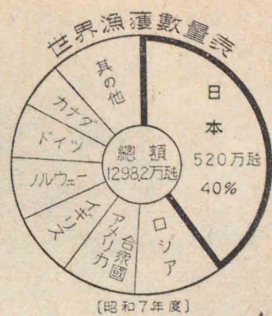
【漁業と漁獲物】 漁業は主として温帯、殊にその寒冷地方の大陸棚に行はれる*。

北半球の大漁場としては北海漁場、北米北東岸漁場、北太平洋漁場があり、世界の三大漁場と稱せられる。北海漁場はノルウエーの北端からビスケー湾に互る間であつて、鯧、鱈を産し、南部には鯖、鰹、鯡、鮪の産が少くない。北米北東岸漁場はラブラドル海岸から、ニューファンドランドを含んで、米國東岸の南部に至り、鯧、鱈、鰻を主とする。北太平洋漁場は即ち我が近海であつて、北は樺太カムチャツカより南は支那海に至る。北部は鯧、鱈、鰹、蟹を産し、南部は鰹、鯡、鮪



世界漁業地圖

■ 主要漁業地
▨ 其の他の漁業地

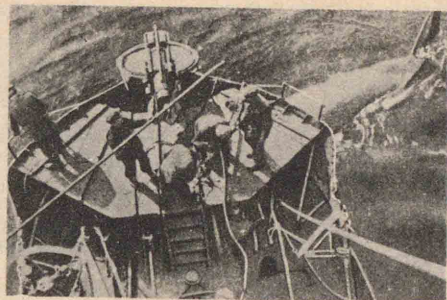


鯛等の暖流魚に富んでゐる。

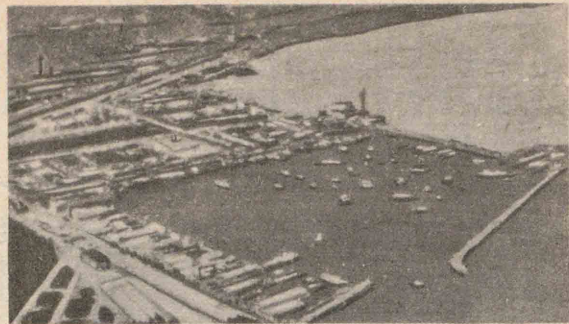
この外、シベリアの東岸、樺太及び北米の西岸の諸河川には、鮭を産し、共に邦人の出漁するものが多い。北方のベーリング海峡から北太平洋に至る間、また大西洋のグリーンランド附近及び南極洋方面には、鯨の産が多く、膾炙及及び海豹は、プリピロフ群島並びにコマンドル群島を主産地とし、南半球に於ては南米及び南阿の南端に棲息する。

地中海の東岸からは海綿を出し、熱帯地方の海には真珠貝及び珊瑚礁を産する。また我が国には真珠貝の養殖が行はれ、大西洋沿岸で灣流の流れる所には牡蠣の養殖が盛んであつて、中にも米國のロングアイランド海峡、チーザピーク灣、フランスのアルカシオン、イギリスのテムズ河口等が著名である。

世界の主な水産國は、我が國を初めロシア、米國、イギリス、ノルウェー、ドイツ、カナダ等で、消費國はこれ等生産國の外、南歐及び南米諸國の如くローマ舊教の行はれる地方である。



ノルウェーの捕鯨船



米國ロスアンジェルス

*漁港に必要な設備は、船溜・網乾場・漁獲物製造場・陸上交通機關との連絡等である。

【主なる漁港】

世界の主要漁場には、それぞれこれに伴ふ漁港がある。北海漁場に於てはロフォーデン島(ノルウェー)、ゲーステムンデ(ドイツ)及びベルゲン、コーペンハーゲン、アムステルダム、ハルヤーマス等が、また北米北東岸漁場に於てはグロスター(米國)、セントジョンズ(ニョーフランド)等が著名である。また北太平洋漁場に於ては北米側にロスアンジェルスがあり、アジア側では小樽、函館、新潟、釜山、ニコライエフスク等が附近漁業の根據地である。

第二節 我が國の漁業

我が國は自然的條件に恵まれて、世界屈指の漁場をなす。且つ國民は古來好んで魚肉を食する風習があり、漁業が夙に開



釜山の魚市場

*昭和十年末の本邦漁船数は三萬餘隻に上るが、五噸若しくは五十石以上のものは僅かに約一萬五〇〇隻に過ぎない。動力を有するものは年々増加しつつあるが、なほ五萬七〇〇隻である。

▲内地に於ける漁獲物の産額は北海道を第一とし、長崎・三重・山口・静岡の諸縣これに次ぎ、製造物は北海道及び静岡・東京・千葉・宮城の諸府縣を主とする。

■我が國では鮮魚輸送設備が未だ完全ではないために、輸出品は概ね製造品に限られる。

けて近時益々隆盛となり、漁獲高約四億圓弱に達し、これが製造物も三億四千萬圓に上り、水産國として世界第一位を占める。漁業は多く沿海漁業であるが、近時政府の奨励によつて、トロール漁業捕鯨業が発達

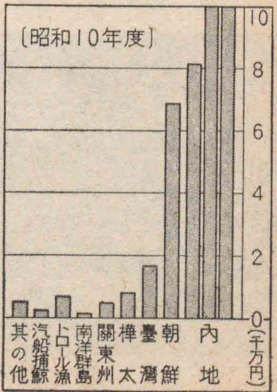


北海道に於ける鮭の養殖(孵化室)

し、遠洋漁業も大いに興り、また海苔・鰻・鮭・牡蠣・鮑・鮑等の養殖業も盛んとなつた。

【漁獲物】 漁獲物の主なるものは、鰻・鯛・鯉・鮎・鰻・鮭・鱈・鰯・鰱・鰻・鮎・鰻・鮭等の魚介と、昆布・紫菜・石花菜等の海藻であつて、製造物には鰹節・鰯・煮乾鰻・乾海苔・蒲鉾・貝柱及び鹽引(鰻・鮭)等の食料品が多く、肥料としては搾粕・胴鯨・乾鰻等がある。水産製造物には輸出せられるものも多

本邦漁獲高表



*フィッシュミールは主として鰹類を乾燥せしめて粉末に製したものであつて、家畜の飼料に用ひられる。

▲我が國の鹽需要高は、年二〇萬噸である。

く、近年總額八千萬圓に及ぶ。鮭罐詰・フィッシュミール・鰹魚油・鯨油・昆布・乾貝・寒天等を重要なものとする。

この他の水産物に食鹽があり、四國中國の沿岸に産し、政府の專賣に屬する。近時工業原料としての需要増加に伴つて内地産のみでは不足を告げ、東アフリカ支那關東州エジプト滿洲國臺灣等から移輸入する。その額は全消費の六割にも達してゐる。

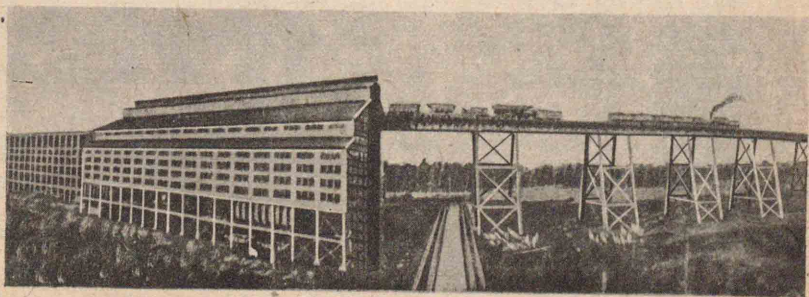
第五章 鑛業及び鑛産

第一節 世界の鑛業

【鑛物の生成】 鑛物は主に地殻を構成する岩石の内に存在し、金・石油・石炭の如くその原形のまま存するものもあるが、その多くは數種の鑛物の集合から成る。故にその大部分は冶金・精鍊と相俟つて初めて利用せられる。地質學上からいへば、鑛物殊に金屬は主に迸發・陥没等による地殻の變動の多い所に發見せられる。また多くは

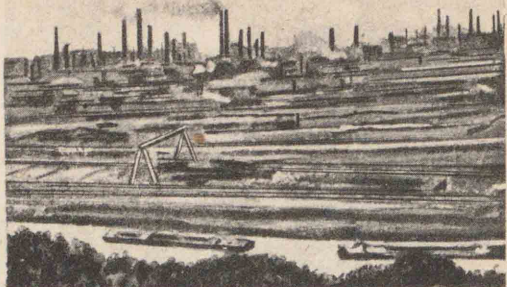
古い地層間に含まれるが、中には石炭・石油・砂金の如く新しい地層中に存在するものもある。而してこれ等の有用礦物は、地殻の一部に所謂鑛床をなして介在する。鑛床は概ね地下深部の岩漿若しくは他の迸發物が地表に上昇して、岩石中に結成したものである。

【世界の鑛業地方】 鑛業は鑛物の原産する所に發達するを當然とするが、他の農商業に比すれば多くの知識及び資本を要し、また交通の便あるを利とするから、現今鑛業の行はれる所は主に文明國か若しくはその領地である。世界に於て鑛業の最も盛んな地方は南北アメリカ洲であつて、米國は鐵石・炭石・石油・銅の産額が世界に冠絶し、メキシコ・カナダ・ペルー・チリ等の諸



米國に於ける製鐵原料の大輸送

*支那の如きは、鑛物の埋藏量は豊富であるが、鑛業は未だ進歩しない。



ザール地方の精鍊場

國には銀・銅の産が多い。歐洲もまた鐵・石炭の産に富み、英・獨・佛・白の諸國は鑛業國として知られる。イタリーののみは鑛産乏しき憾みがある。歐米二洲以外で鑛業の盛んな地方は、我が國を除き、概ね南阿・濠洲・インド等英國の植民地であつて、多く金を産する。

【我が國の鑛業】 我が國は地質の變化に富み、且つ火成岩の迸發が多いから、鑛物生成の機會が多く、従つてその分布も廣く、その種類もまた少くない。ただ地形が狹長であるのと地殻の變動が多いのにより、連続した大鑛脈に乏しい。また古來鑛業を危険視し、これに投資するものが少く、採掘法も幼稚であつたから鑛業は振はなかつたが、近年は地質調査事業も完備し、採鑛・冶金法の進歩と相俟つて甚だ盛んとなつた。而して我が國に於ける鑛業の分布を見るに、九州・北海道には二大炭田があり、羽越には油田が存在し、本州・九州及び四國地方には金・銀・銅等の鑛物が

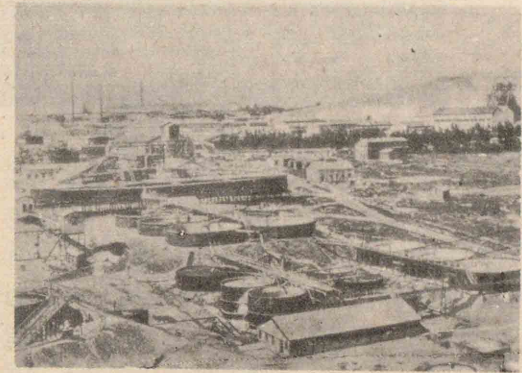
*鑛物中、産出多量であるのは非金屬であつて、金屬は少く、金屬中では更に少い。

南洋の地

我が産額 (昭和十年)
 内地 五、四三三萬圓
 朝鮮 八、八〇四萬圓
 臺灣 三、〇四九萬圓
 樺太(九年) 九二二萬圓
 南洋群島 二六六萬圓

*金銀より金を採取する技術は、近年大いに進歩し、現今では鑽石百萬分の五までの金を採取することができさる。

▲金の工藝用消費は米國に於て最も多く、インド・支那これに次ぐ。併しインド及び支那では死蔵する量もまた多い。



南阿ヨハネズブルグの金坑

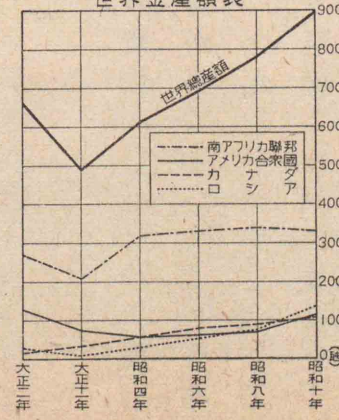
多い。内地に於て産額の最も多いのは石炭であつて、銅・金・鐵・銀・石油・硫化鐵・鉛・亜鉛・硫黄等がこれに次ぐ。全國總産額は六億圓を超える。

第二節 鑛産

【金】 山金は主に石英に伴ひ、金*となつて産出し、砂金は概ね河川に於てそのまま採取せられる。現今世界に於ける産金

年額は約九十萬担であつて、産出國の主なるものは南阿を第一とし、ロシア・カナダ・米國・濠洲・日本・ローデシア・メキシコ等がこれに次ぐ。金の消費は世界諸國に於ける正貨準備及び貨幣鑄造用を主とし、工藝用消費もまた少くない。我

世界金産額表

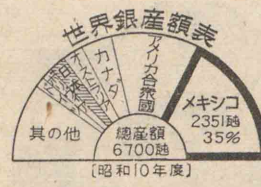


*我が國內地の金産高(昭和十年)は一萬二、九四九噸で世界第六位である。朝鮮の金産高は一萬二、四二二噸である。

▲世界に於ける銀總産額は約三〇〇萬噸である。その中、我が國內地の昭和十年度は二、五六三噸を産する。

■支那の如き銀貨國にあつては、銀價の騰落が貿易に及ぼす影響が甚だ大であつた。

が國內地に於ては、大分・茨城の二縣と北海道に多く、主なる鑛山は日立・鯛生・串木野・佐渡・小坂・鴻舞・國富・別子等である。朝鮮の産額は近時内地産額に匹敵せんとし、専ら内地へ移入せられて、正貨準備用に供せられる。



【銀】 鉛・銅その他の鑛石に随伴して産出する。メキシコ・米國を主とし、カナダ・濠洲・ペルー・日本等に産する。銀の用途は多く貨幣鑄造用であるが、工藝用消費もまた大である。金・銀の需給關係は屢々平衡を失ひ、銀價の騰落が甚だしく、銀貨國の幣制を紊すことが大きい。我が國に於ける銀は金銅と共に、日・立・足・尾・小坂・神岡・串木野・佐渡・生野等は著名な鑛山である。



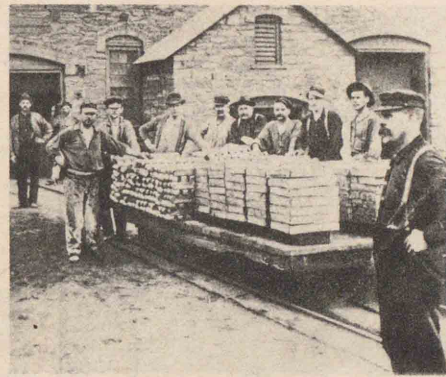
メキシコの銀山

【銅】

主として硫化物の銅鑛から採取せられるが、往々金・銀を隨

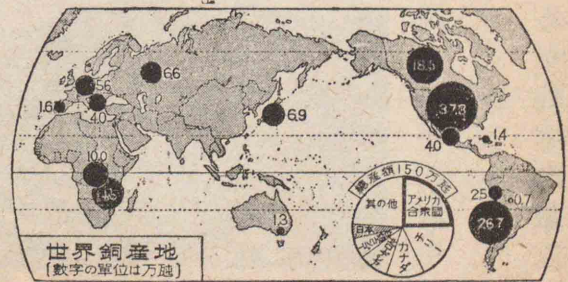
*世界に於ける銅の總産額は約二五萬噸である。米國は從來世界産銅額の第一位を占め、銅の市價は屢々米國によつて左右せられる狀況であつたが、近年米國の銅産は生産統制の結果頗る減少した。

我が國內地の銅産額は昭和十年度七萬六千噸である。



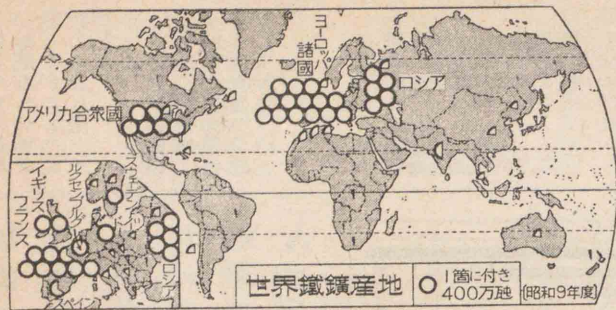
米國ミシガンの銅山内部

伴する。世界に於ける銅の産地は米國・チリ・カナダ・北ローデシア等を主とし、我が國は第六位にある。その他ペルー・メキシコも産銅國として知られる。歐洲ではユーゴスラヴィア・ロシア・ドイツ・スペイン・ポルトガル等にも多少産するが、その額が少く、需要の大部分を他洲に仰いでゐるのは注意すべきことである。消費の半ばは電氣事業に用ひられ、その他は眞鍮工業・造船業の材料となり、また兵器・日用品・器具・貨幣・鑄造・化學工業にも使用せられる。我が國に於ては秋田・栃木・愛媛・茨城・大分の諸縣に産するが、近時輸入が増加した。



(昭和九年度)

*ドイツは世界大戦によつて、その埋藏鐵鐵の三分の二を失つた。



世界鐵鐵産地 (昭和九年度)

【鐵】

鐵鑛より直ちに冶金したものは銑であつて、更にこれを再製して鋼を造る。世界に於ける銑の産出は年額約七千三百萬噸に及び、米露獨英佛の産額は群を抜く。その他ベルギー・日本・ルクセンブルグ等にも産するが、その額は未だ前者に及ばない。銑は概ね再製せられて鋼となり、建築用材・造船・兵器その他の工業原料となる。鋼の世界産額は約一億噸であつて、米國はその三割五分を占め、獨露英佛日の諸國がこれに次ぎ、この五箇國で世界總産額の八割餘を産する。

世界銑鋼産額表 (昭和10年度)

國名	銑 (百萬噸)	鋼 (百萬噸)
アメリカ合衆國	2.5	1.5
ドイツ	1.5	1.0
イギリス	1.0	0.8
フランス	0.8	0.6
日本	0.6	0.4
ベルギー	0.4	0.3
ルクセンブルグ	0.3	0.2

鐵鑛の世界埋藏量は約二百三十億噸と稱せられ、その大部分はヨーロッパ・北米の二大洲に偏在する。

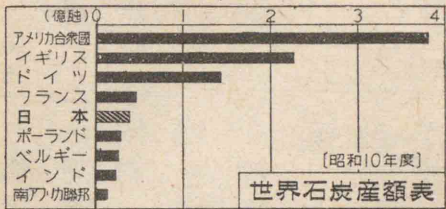
我が國は鐵鑛に乏しく、製鐵業はなほ米露英等に比して遜色があるが、近年軍需工業の發達によつて産額が増加し、最近

*我が政府は民間の製鉄業を保護奨励せんがために種種の方法を講じつつある。

▲近時滿洲國昭和製鋼所の擴張等により我が國は鐵鑛の自給自足を目的としてゐる。

列國石炭消費高
米 國 百七十九萬噸
ドイツ 二七三萬噸
イギリス 二三四萬噸
ロシア 二〇六萬噸
フランス 一〇〇萬噸
日 本 四〇萬噸

下の石炭産額表にはロシア(約一億噸)が省かれてゐる。



は銑の年産額二百二十五萬噸、鋼は四百六十萬噸に及び、その大部分は日本製鐵會社の産である。原料は主としてマレー半島支那に仰ぐが、釜石、載寧、殷栗等の國産品もまた使用せられる。その他滿洲國には我が邦人の經營する製鐵所がある。併しながら、國內に於ける鐵類の需要は遙かにその生産額を超過するので、米國、英國等より輸入せられるものも甚だ多く、我が國輸入品中の重位を占める。

【石炭】 歐米諸國に産するものは主として黒炭、無煙炭、褐炭であつて、北歐諸國には泥炭を産する。我が國には黒炭は少く、褐炭がその大部分を占める。世界に於ける石炭の總産額は十一億餘噸であつて、米國はその三割餘、英國は二割、ドイツは一割二分を占めるが、我が國は僅かに三分六厘を産するに過ぎない。支那の炭田は將來有望である。その他ロシア、フランス、ポーランド、ベルギー、インド、南アフリカ等にも産する

*我が國の石炭埋藏量中、經濟的に採掘を許されるものは約二億噸に過ぎない。

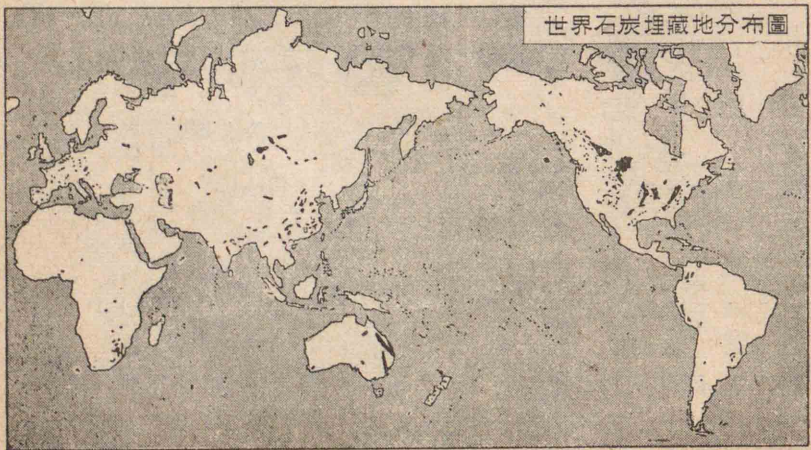
内地主要炭田別産額 (昭和十一年度)
九州 三九六萬噸
北海道 七三三萬噸
常磐 二五九萬噸
山口 二六六萬噸
全國合計 一、〇七〇萬噸

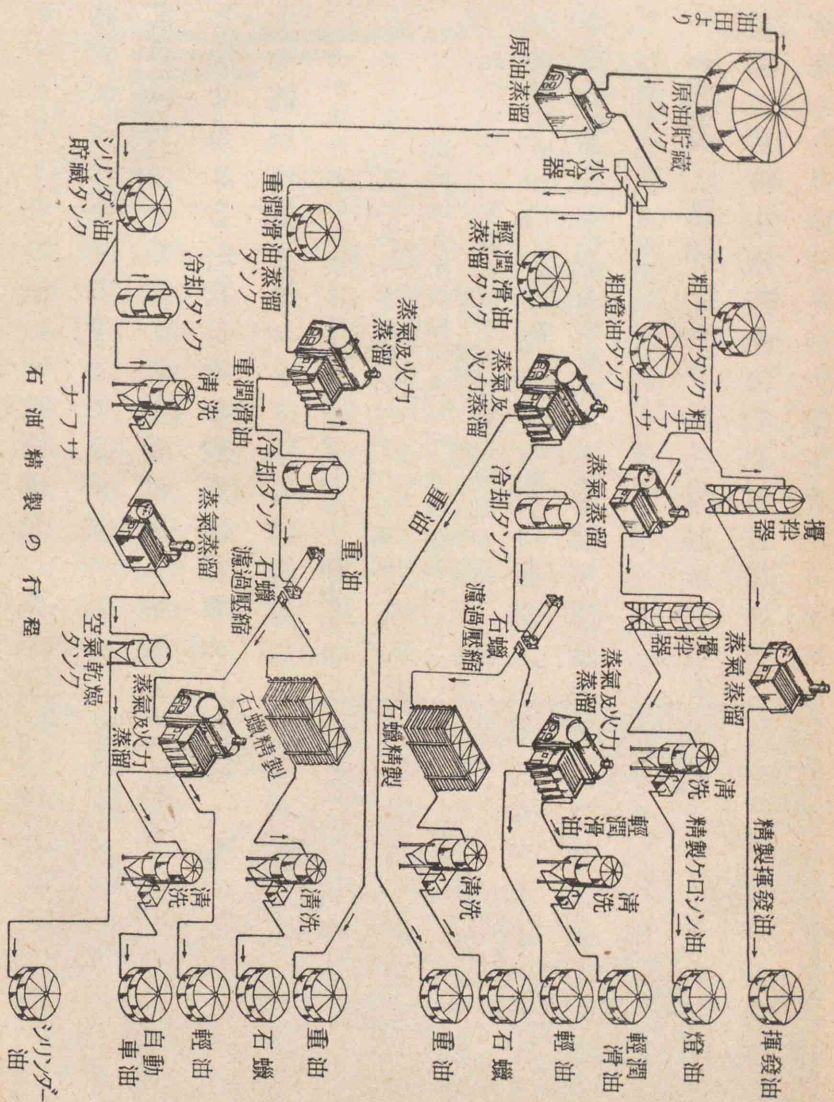
▲東洋市場に於ける我が石炭の競争炭は専ら支那炭であつて、ホンゲイ炭・インド炭・カーヂフ炭もまた侮れない。

が、イタリ―その他の南歐諸國及び南米諸國にはこれを産することが甚だ少い。世界に於ける石炭の埋藏量は約八兆噸と稱せられるが、我が國の炭量は約百六十七億噸に過ぎない。*

我が國內地の石炭は現今鑛産價額の五四割を占めて第一位にあり、年産額約三千八百萬噸に及び、主なる炭田は九州炭田であつて、北海道炭田がこれに次ぐ。常磐炭田や山口縣の炭田も近時その産額を増した。輸出货量も嘗ては相當の額に上つたが、現在は國內需要の激増によつて減少し、總計に於て石炭入超國となつた。

【石油】 原油(石腦油)から精製せられ、世界に於ける總産額は約二億二千萬噸である。米國はその六割を産して世界

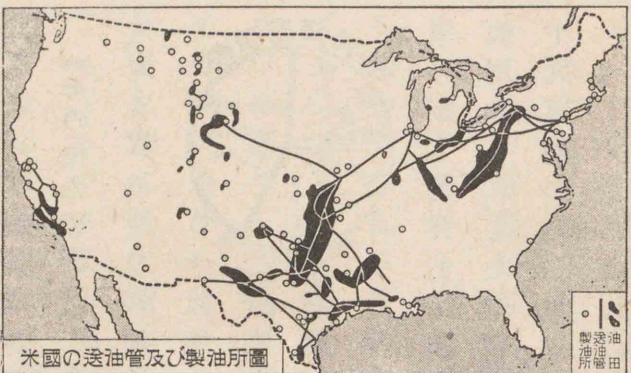




*ロシアは、日露戦役前は石油の産額が米國と伯仲していたが、戦後大いに衰へた。併し近年は再び次第に産額を復活して來た。

現在世界の石油市場は殆んど英・米二國の石油會社によつて獨占せられる。その最も大なるものは英のロイヤルダッチシェル會社と米のスタンダード會社の二つである。

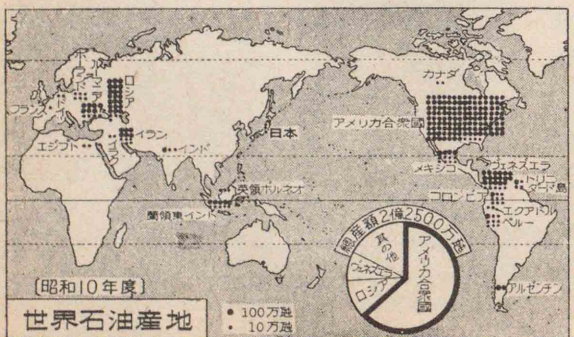
▲現今列國が爭奪に熱中しつゝある油田は、メソポタミア地方・メキシコ・蘭領東インドを主とする。



米國の送油管及び製油所圖

故に列國は世界各地に於て油田の爭奪に熱中し、往々政治上の事件をも誘發する。

我が國は石油の産が少いが、新潟・秋田の二縣



【昭和10年度】
世界石油産地

の市場を獨占し、ロシア・ヴェネズエラ・ルーマニアがこれに次ぐ。その他イラン・蘭領東インド・メキシコ・コロンビア等にも産する。燈火用の外、近時軍艦・商船及び各種工場に於て、原油或は重油を燃料として盛んに使用し、また瓦斯發動機の發達に伴つて、輕油の需要が激増したから、石油は今や工業上國防上必要缺くべからざるものとなつた。

近時滿洲國撫順に於て油母頁岩から石油を採取しつつある。

*世界の白金産額は約四割である。

▲我が國の錫産額は三〇〇噸に過ぎない。

■錫と銅との合金は即ち青銅であつて太古既に存した。

我が國への鉛・亜鉛の輸入は濠洲・カナダの二國よりする。



には油田がある。この他、北海道、臺灣には將來有望な油田がある。併し到底國內の需要を充たすことが出來ず、實に消費量の九割を輸入に仰がざるを得ない。現今では、燈油、重油、揮發油を米國・ロシア・領東インド・英領ボルネオから輸入する。

【その他の鑛産物】 金屬に於ては白金があるが、その産額は頗る少く、ロシアのウラル地方及びコロンビア・カナダを主産地とする。錫

は太古に於て發見せられた鑛物であるが、分布狭く、マレー半島、イギリス、オランダ、領東インド、支那等が主産地である。鉛は及ぶ鋳力合金、鍍金用に用ひられる。鉛は

概ね銀と隨伴して出で、容易に風化しないので諸種の管に使用せられ、また塗料の原料となる。米國は世界總額百三十九萬噸の約二割五分を産し、濠洲・メキシコ・カナダ・ドイツ・スペイン等がこれに次ぐ。亞鉛は鉛・鐵・銅等の鑛石と共に

産地	産額 (萬噸)
アメリカ合衆國	38.1
その他	94.9
合計	133.0

(昭和10年度)

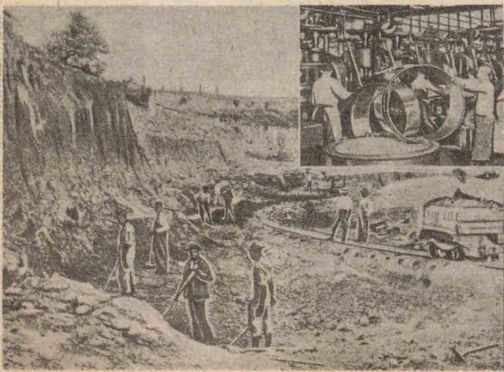
*我が國では亞鉛は需要の六割を輸入する。

▲世界に於けるアルミニウムの産額は約三萬噸である。我が國へ輸入せられるアルミニウムは専ら米國より來る。

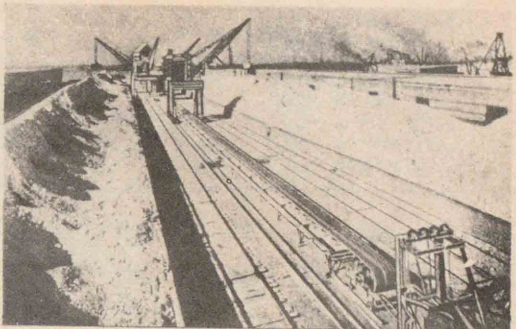
■航空機材として用ひられるアルミニウムはアルミニウムと銅・マグネシウム・マンガンの合金である。

産し、軍需品等として用途廣く、また塗料となる。米國を初め、ベルギー・カナダ・ドイツ・ポーランド等は著名な産地である。水銀は古來スペインの特産と稱せられたが、今はイタリヤ・米國にも産出多く、メキシコ・ロシアからも出る。アルミニウム(輕銀)は地上に最も廣く存する鑛物であるが、鑛業原料として採取せられるものはボークサイトであつて、ドイツ・米國・ロシア・フランス・カナダ等に産する。電氣分解による冶金法が用ひられるので、水力の豊富な國に於て精鍊せられる。アルミニウムは所謂輕金屬の代表とせられ、近時航空機その他の器具用材として極めて重要で、我が國にも最近漸く産出するに至つた。

産地	産額 (萬噸)
アメリカ合衆國	1.5
カナダ	1.2
ドイツ	1.0
フランス	0.8
その他	0.5
合計	5.0

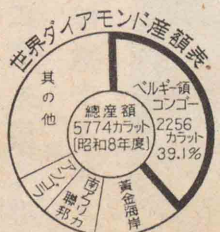


米國に於けるボークサイト採取とアルミニウム工場



米國に於ける硫黄の堆積

非金屬の中、硫黄は火山地方の産であつて、米國・イタリ
 及び我が國はその主産地で、マッチ・火薬・硫酸製造その他に用
 ひられる。燐礦は鑛物肥料の原料である。多くは氣候の
 乾燥した米國の南東部やチニス・モロコシアの如き
 地方に産し、また太平洋諸島に多い*。岩鹽は主に中歐・米國
 に産し、精製して食用に供する外、諸種の工業原料となる。
 チリ硝石はチリの特産物で、火薬肥料の原料として輸
 出せられる。寶石類では南アフリカのダ
 イアモンド(金剛石)、セイロンの青玉、クイーン



*我が南洋群島ではアンガウル島に産する。
 一カラットは約三瓦に當る。

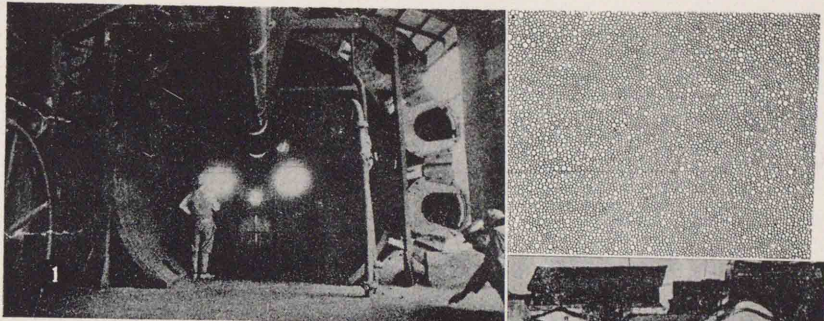
第六章 工業及び工産

第一節 世界の工業

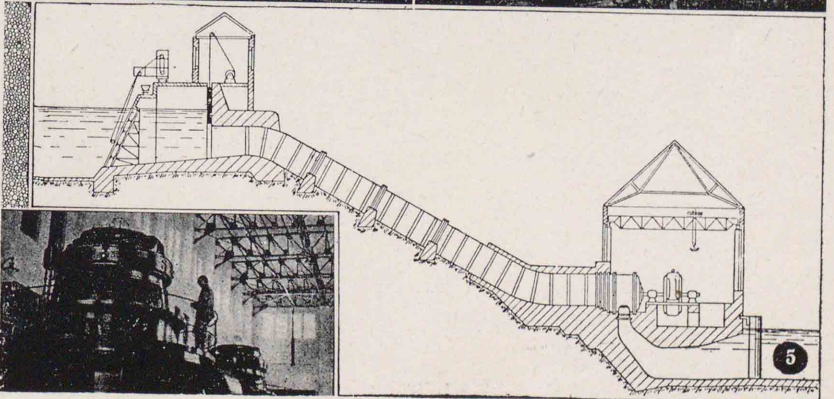
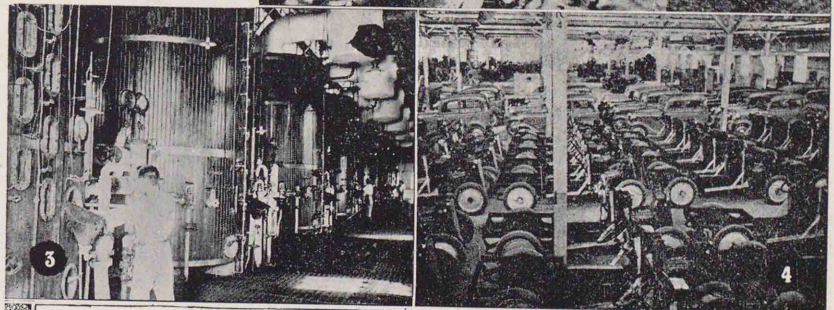
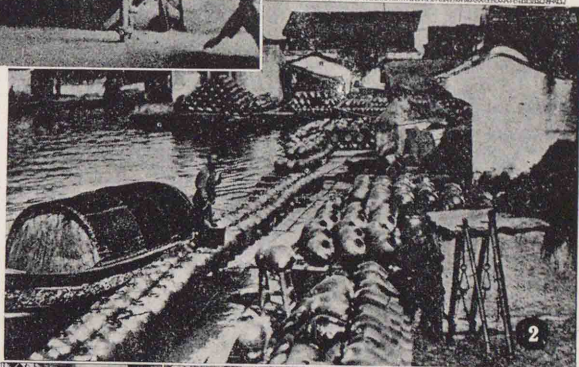


1 曳網中のトロー
 ル船
 2 同獲物の引上
 3 同甲板に上げら
 れた漁獲物

4 英領コロンビア
 に於ける砂金の
 堆積
 5 南アフリカの
 ダイヤモンド坑



1 セメント工場の廻轉窯
2 支那紹興の老酒
3 製糖工場の精糖冷却室
4 國産自動車製造工場内部
5 水力發電装置の模式とマ
ーピン



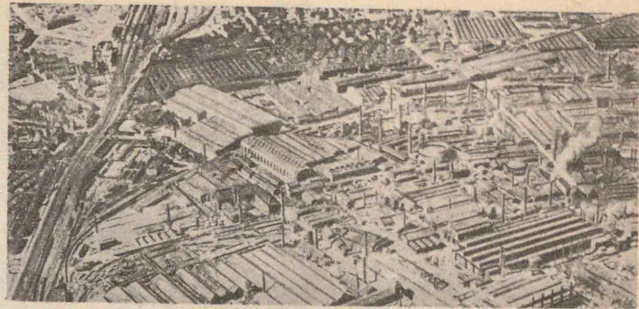
【工業の種類】

工業をその作業の形式によつて分つと、手工業・小工業・大工業となる。手工業は日用品と美術品とに分れ、日用品は簡単な細工品を主とし、多くは文化の幼稚な地方に行はれる。美術品は熟練な職人によつて少量の精巧品を造るものであつて、文化の傳來の古い所に發達する。京都市パ・ローマの如きはその適例である。小工業は多少の機械力を藉りて工作するものであつて、企業上からいへば市場生産に屬し、廉價にして一般民衆の需要に應ずるを目的とする。従つて職工の如きも熟練なるよりは寧ろ勞銀の低廉なのを要する。ドイツの玩具及び我が關東地方の織物の如きは、即ちこれである。大工業は近世の發達であつて、動力によつて機械を運轉し、劃一な製品を同時に多量に生産するものである。この種の工業は大工場と莫大な資本及び多くの勞力を要するから、我が近畿・京濱・東海・北九州または英國の

京都市の京人形製作



*現時の工業組織に於ては、大量生産によつてのみ低廉な製品を得るから、大工業は益々盛んならんとしてゐる。



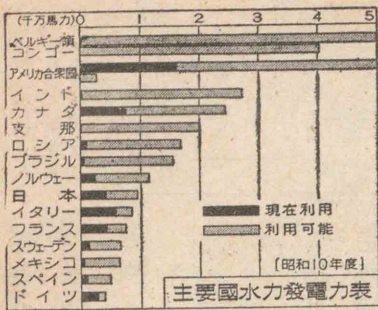
ドイツのクルップ工場大観

ランカシアの如き、この事情に適應した地方に發達する。次に工業を工産物の種類によつて分てば、紡織化學食料品機械器具金屬等の諸工業に分類せられる。その中、紡織工業機械器具工業金屬工業等は、工業の先進國たる英・米・佛及び近年躍進した我が國等に盛んであつて、化學工業は世界大戦前ドイツがこれを獨占した觀があつたが、今は他の諸國にも大いに發達した。食料品工業はその原料を産する國に盛んであつて、醸造業のフランス・イタリアに於ける、製粉業の米國に於けるが如きである。

【工業の所在】 工業の發達は人智の進歩と密接な關係があるから、現今これの盛んな地方は、何れも文明國ならざるものはない。併し、各種工業の所在は、その工業の要素によつてもまた支配せられる。今、この兩者の關係を示せば次のやうである。

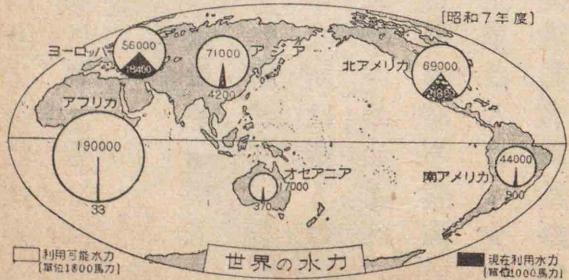
(一) 原料 古來からの工業は、概ねその原料産地附近に發達した。

* 諸種の織詰業の如きは、その原料が變質し易いため、醸造業・染色業の如きは、その用水が特殊の性質を要するため、必ずそれ等原料産地に制限せられる。



我が瀬戸市有田に於ける如く、製陶業が陶土の産地に發達し、ドイツのチューリッゲン及びエルツ森林地方に玩具木製品の發達した如きは、この例である。近世交通の進歩によつて、工業は必ずしも原料産地に限らないが、なほ原料所在地に存するものが多い。

(二) 燃料及び動力 近世の工業は機械の助けを藉ることが多いから、その動力源たる燃料を供給する石炭産地は、また工業地たるの觀がある。近世發達した歐米諸國の主なる工業地は、概ねこれに因つてある。近時水力が石炭に代つて電氣動力の源泉となりつつあるから、將來工業の隆盛は水力の豊富な地方に俟つことが大である。而して現在利用の水力電氣は米國に最も多く、カナダ・イタリアがこれに次ぎ、我が國は四百二十萬馬力



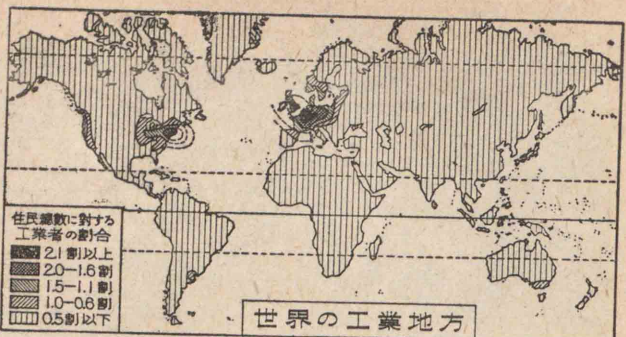
一九〇一年の調査によれば世界の現在利用水力電氣は五百萬馬力であつて、利用可能水力は三億三萬馬力といはれてゐる。

*大工業に最も便なのは、陸運よりも水運である。これは専ら運賃が低廉なるためである。従つて近時の大工業は努めて水運の便のある所を選ぶ。

で世界第四位にある。一般に現今工業の盛んな西歐諸國は將來の利用可能水力に乏しく、これに反して現在工業の幼稚であるアフリカ洲はその最も豊富な地方である。

(三) 勞力 近世に於ける世界的工業は、主として大量生産であるので、勞力が多く勞銀の廉い地方はまた工業の發達に適する。従つて諸外國に於ても我が國に於ても、近世工業の盛んな所は皆人口密度の大なる地方であつて、英國の南部、我が京濱近畿地方の如きはこれである。併しながら、特殊の工業は勞力の多いよりも、寧ろ熟練で精巧であるのを必要とすることがあり、これ等の工業は人口の少い山間僻地に於てもよく發達する。スイスの時計製造業、我が長野縣の製絲業の如きこれである。

(四) 交通の便否 往昔交通の不便な時代にあつては、工業の發達は主に原料燃料勞力の所在によつて左右せられたが、これ等は何れも運搬し得べきものなるを以て、現今の如き時代に於ては、工業地の



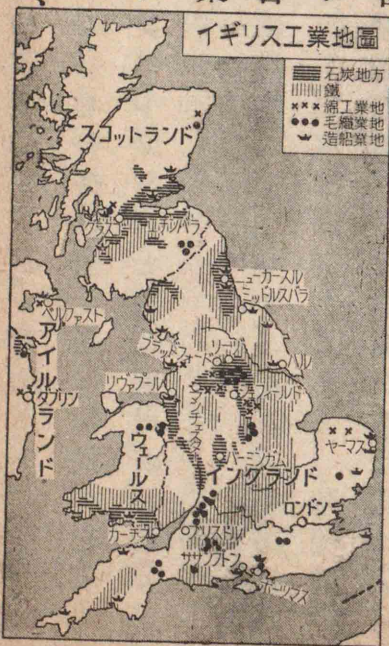
*ヨークシアの毛織業はその起原が古く、他の英國工業の基礎をなしたものである。

發達を左右する第一の力は交通の便否にあるといふべきである。殊に大工業に於て然りとする。近時米國の五大湖地方及び我が瀬戸内海附近に大工業の勃興したのは、主としてこれに因るのである。

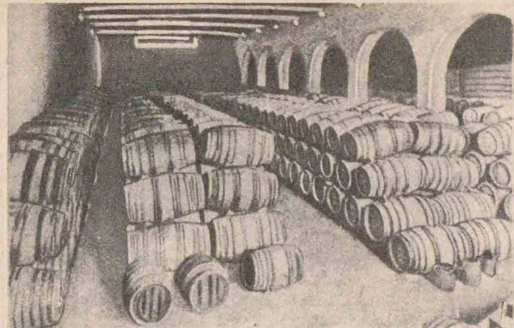
【世界の工業地方】 現今世界に於ける主なる工業地方は、西歐の英、佛、獨、白の諸國、北米及び我が國等である。

イギリスでは諸織物業及び鐵工業が最も盛んで、ランカシアの綿工業は久しく世界に覇を唱へ、ヨークシアの毛織業は英國最古の工業である。鐵工業

はバーミンガムを初め各地に行はれ、鑄鐵、造船、鐵道用具並びに機械器具等の製造を主とし、



*フランスに於て諸種の美術品・奢侈品の生産せられるのは、この國が中世以來長く世界文化の中心であつたが故である。



フランスの葡萄酒倉庫

就中造船業は東西の兩海岸地方に盛んである。英國工業の盛大は、科學の進歩、鐵・石炭の豊富とその産地の接近、全世界に植民地を有し各種原料の供給及び製品の需要の十分なこと、及び國民が勤勉にして企業心に富むこと等に基因する。

フランスは古來織物業、殊に絹織物に秀で、ローヌ河上流地方に行はれる。毛織物、綿織物も北東部に盛んである。葡萄酒の醸造は世界第一で全国各地に産するが、北西部は殊に著れる。またパリを中心として各種の裝飾美術品、化粧品、生産に長ずる*。この國は世界大戰前、石炭の缺乏により、工業の發達を阻碍せられたが、戦後ドイツから鐵鑛に富むアルサス・ロレーン二地方を獲得したから、工業は將來大いに發展するであらう。

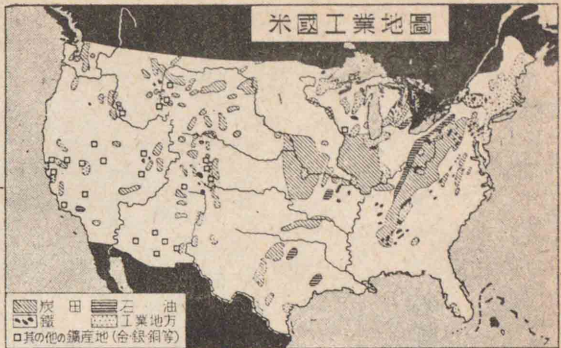
ドイツは大戦前、英米と共に世界三大工業國をなしたが、大戰後、鐵・石炭産地の大部分を失ひ、その工業は一時苦境に



第六章 工業及び工産

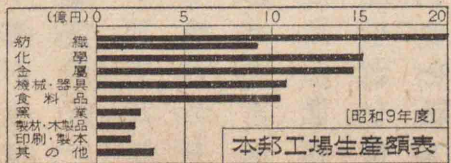
あつた。最近は國民の努力により、漸くその力を恢復してゐる。戦前には製鐵業が甚だ盛んで、ルール炭田を有するライン地方及びケムニッツを中心とするサクソニー地方が主であつた。機械製糖醸造等がこれに次ぎ、化學工業は獨特の長所を有し、染料・藥品は世界獨歩の觀がある。この國の工業は學理を實際に應用し、低廉質實な製品を供するを以て聞える。

米國の工業の特色は、同國に産する莫大な原料と鐵・石炭の豊富さとに關聯し、規模宏大で生産の多額なる點にある。食料品工業は最も重要で、肉類の罐詰、麥粉、バター、チーズ、煉乳の産額は世界第一である。また製鐵業も



近時世界第一となり、機械的工業も隆盛の域に達し、先進國たる英國を凌がんとしてゐる。主要工業地は東部の所謂ニューイングランド及び五大湖地方である。

【我が國の工業】 我が國民は古來手工に秀でてゐるから、織物・陶磁器・漆器等の製作などの手工業・小工業を以て特色としたが、明治維新以後、西洋文化の輸入と海運の進歩とは漸次機械的工業の發達を促し、工業の規模を大ならしめた。殊に勞銀の低廉及び近年の爲替相場の變動は、我が工業製品を世界に進出せしめるに最も有利な條件を與へ、最近の各種工業の發達は眞に驚くべきものがある。今や我が國に於ける工業製品の總價額は百八億圓、職工數は約二百四十萬人に及ぶ。特に製絲織物・紡績等を主とし、先進諸國を凌がんとしてゐる。工業地としては大阪灣附近が最も盛



んで、綿工業・造船業・化学工業・醸造業等が行はれる。次は東京灣附近で、主に國內消費の日用品工業が發達し、この他名古屋市附近は紡織工業に於て、北九州は金屬精鍊に於て著れる。

第二節 工業

【諸織物類】

綿絲紡績業は世界の諸國に行はれ、英・米・佛・獨・印・日・伊が群を抜く。英國は紡績業濫觴の地として従來世界綿業界に覇を唱へ、現時なほ世界總鍾數の約三分五占を占め、原料を米國・エジプト・インドより仰ぎ、マシキスターを中心とするランカシア地方に於て製せられる。米國の綿業はもとフォルリヴァー附近に興つたが、近時南部の棉花産地に發達し、その進歩が甚だ著しい。併しその製品は概ね不良である。

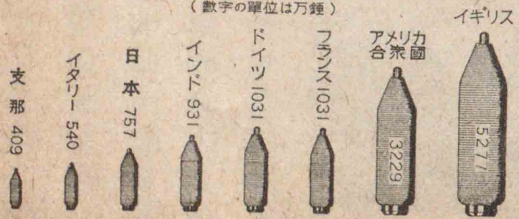
我が國の綿工業は諸種の工業中最もよく發達し、

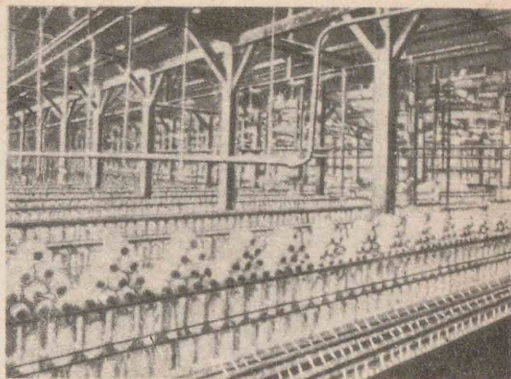
昭和十年に於ける世界棉花消費量に關しては二十四頁を參照せよ。

*世界に於ける紡績鍾數の總數は昭和十年に於て約一億五、三〇〇萬本である。

▲米國の綿工業が先づ棉花産地に遠い北部に發達したのは、主として需要上の關係に因る。

主要國紡績鍾數表 (昭和10年度) (數字の單位は萬鍾)



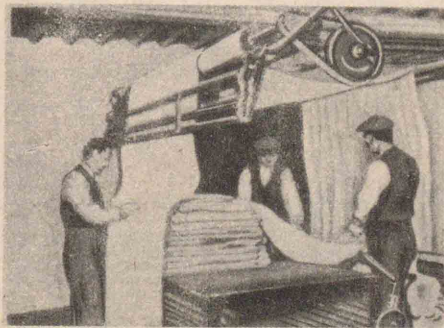


鐘ヶ淵紡績工場の内部

*昭和十一年の我が國に於ける綿織物の産額は約一億圓、輸出額は約五億圓である。

今や我が國の棉花消費高は米國に次いで世界第二位となり、紡績は大阪・愛知・兵庫・和歌山・三重・岡山・静岡・東京の諸府縣に特に盛んである。綿織物の生産も紡績業に伴つて發達し、これ等綿製品の輸出は近時盛大を極めて我が國總輸出額の首位を占め、輸出高に於て英國品を抑へ、海外各市場で優勢な地歩を獲得しつつある。併しこれを阻止せんとする各國との抗争もまた漸く深刻となつて來た。

毛織物は羊毛・駱駝・アルパカ等の毛を原料とする。世界に於ける著名な毛織物業地は先づ英國で、原料を植民地に仰ぎ、ヨークシア地方に盛んに行はれる。米・佛・獨・白等がこれに次ぎ、何れも輸出が盛んである。我が國で



英國の毛織工場内部

羊毛の代用品として人造羊毛(纖維)(ステープルファイバー)が製造せられ、我が國に於ても漸次盛んならんとしてゐる。

*我が國の毛織物の中、セル洋服地は總額の四割以上を占め、これに次いでモスリン・ラシヤ・セル着尺等が多い。

イタリーのミラノ地方、スイスのパルセル、ドイツのクレーフエルトに於ても各種の絹布を製織する。

▲ジャカードは有名な絹織機の發明者である。

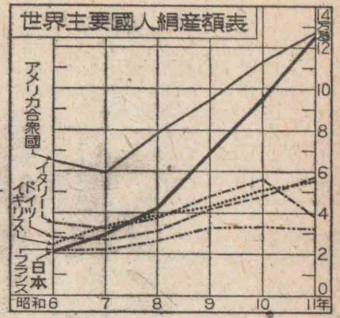
は原料を濠洲・アルゼンチン・南阿聯邦等に仰ぎ、愛知・兵庫・東京・大阪等の諸府縣で盛んに製せられ、總産額二億六千萬圓に達し、海外製品の輸入は漸次減少する傾向にある。

絹織物の主なる産地はフランス及び我が國であつて、支那・米國・イタリーもまた有名である。フランスのものは品質優秀で、リオン・サンテチエンヌを主産地とするが、原料はイタリー・支那及び我が國等より巨額を輸入する。

我が國の絹織物總産額は約五億五千萬圓に及び、福井・京都・群馬・石川・東京の諸府縣を主産地とする。なほ歐米諸國・インド・南洋方面への輸出が約六千八百萬圓に及ぶ。支那に於ては江蘇・浙江・四川・廣東地方から綾緞子・襦子等を産する。米國の絹織物業地は殆んどバタールソンに集中せられ、その原料の大部分を我が國に仰ぐ。



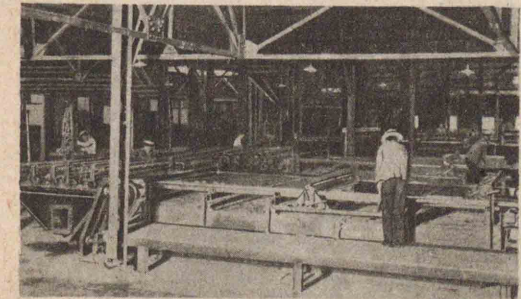
リオンに於けるジャカードの銅像▲



人造絹絲(レーヨン)は主としてパルプを原料とする。近時被服原料として急激に需要が増加し、従つて生産額も急速に増大しつつある。米國の産額は從來世界第一位であつたが、我が國の著しい發展は將にこれを凌がんとし、年産額十二萬餘疋である。人絹織物の輸出高も一億五千萬圓に達し、綿布生絲に次ぐ重要輸出品となつた。その他イタリー、イギリス、ドイツ、フランス等にも盛んに行はれる。

麻織物は綿織物業の發達に伴ひ、漸次衰退の傾向があるが、英、白獨米等を主産地とし、亞麻、大麻、黃麻より被服或は包装用布等を製作する。

【硝子】 硝子工業は概ね珪土、曹達等の原料産地、或は石炭、木炭の如き燃料の所在地附近に發達する。米國の硝子工業は最近急激の進歩



我が國に於ける板硝子の製造

*我が國の硝子工業は年産額五〇〇萬圓を超え、福岡、大阪、兵庫、東京、神奈川の諸府縣を主産地とし、板硝子、燧、コップ、鏡、電球等を支那、インド、南洋、濠洲、米國方面に輸出する。

▲チラコスロヴァキアはカールスバード、フランスはセーヴル・ル・モーリエ、英國はダービー、ウイスマーを主産地とする。支那の景德鎮、博山もまた名がある。

陶業地の多いことでは我が國は世界列國中に冠たるものがある。昭和十一年度の陶磁器輸出額は三三〇萬圓に及ぶ。

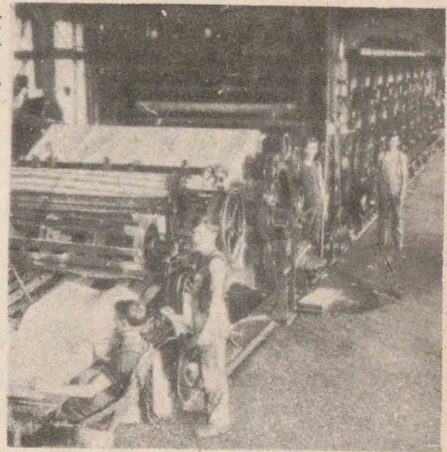
をなし、その産額は世界第一である。ベルギーは板硝子に秀で、チエッコスロヴァキアにはボヘミア硝子の産があり、ドイツのエナ産のレンズは名聲世界に冠たるものがある。我が國の硝子工業も最近その發達が著しく、板硝子の製造に於ては世界第一位を占める。

【セメント】 石灰を原料とし、石炭を燃料として製造するので、この兩者の得易い地に發達する工業である。米國は世界第一の産出國であつて、我が國は第二位を占め、英獨佛がこれに次ぐ。

【陶磁器】 陶業は原料たる陶土の産地に近く、薪炭若しくは石炭等の燃料の得易い地に興る。最も早く支那に發達したが、現今世界の主産地は米國、英國、ドイツ、日本、フランス等である。英國のものは堅牢を尙び、ドイツのマイセン製の磁器は古來著れ、フランスの



支那景德鎮の陶器製造



米國の製紙工場内部

*世界に於ける紙類總産額は約三〇萬噸である。

支那紙は竹を原料とし、葦・桑皮等を加へる。主産地は福建・江西・安徽で浙江・湖南・廣東にも多少産する。

陶器は華麗を以て鳴る。我が國の陶業は昔時から國內各地に發達し、近年機械力を應用し、石炭を用ふるに至つて著しく産額を増した。米國・インド・蘭領東インド・濠洲等に輸出し、その額は世界第一位にある。

【紙類】 洋紙は主として木材の纖維パルプから製せられる。米國は世界總産額の約四割を占め、カナダ・ドイツ・英國・フランスがこれに次ぎ、我が國は第六位にある。我が國では樺太・東京・北海道・静岡・兵庫・大阪・熊本の諸地方を主産地とする。和紙は楮・三楮・雁皮・桑等の樹皮から製し、その質強靱なるため、歐米諸國にも賞用せられる。近時和紙にもパルプを原料に使用することが増加した。

【肥料】 動物性肥料中、魚類肥料は水産國たる我が國を初め、英國・ノルウェー等に多く、骨粉・乾血等は米國・濠洲に産する。植物性肥料は

我が國の肥料は最近自給高を増大したが、なほ輸入額約七〇〇萬圓に及ぶ。

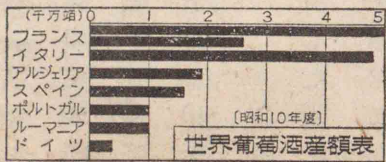
我が國に於ける葡萄酒の醸造は、山梨・長野・新潟等の諸縣にやや見るべきものがあるが、優良な葡萄酒・三鞭酒は主としてフランスから輸入する。我が國のビール年産額は約一〇〇萬石、八五〇萬圓である。強性酒に我が國の焼酎・泡盛、英國のウイスキー、オランダのジン、フランスのブランデー、ジャマイカのラム等がある。滿洲國の高梁酒は支那紹興の老酒と共に著名である。

主に油粕であつて、豆粕は滿洲國から多く輸出せられる。鑛物性肥料は主に燐礦・加里鹽・硝石・石灰等を原料として、過燐酸石灰・硫酸アンモニア等の肥料が造られ、獨米・佛等に盛んである。近年水力電氣を應用して、空中窒素から硫酸アンモニア・石灰窒素の肥料を造るに至り、ドイツ・ポーランド・カナダ・日本等に盛んである。

【醸造品】

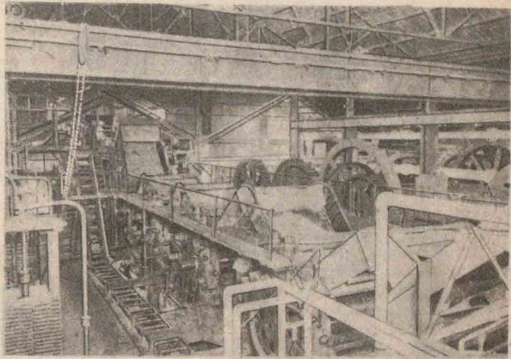
葡萄酒の主産地はフランス・イタリア

ジェリア・スペインであつて、世界總産額の七割弱を占め、葡羅獨がこれに次ぐ。ビールは歐米人を初め、廣く諸國民に飲用せられる。ドイツは世界最大の醸造國であつて、イギリス・フランス・ベルギー・チエッコスロヴァキアがこれに次ぐ。我が國に於ても近時その産額が増大し、支那・滿洲國・インド・香港等に輸出するに至つた。清酒は我が國の特産で、年産額四百萬石、價額二億六千萬圓に達し、兵庫・京都・福岡・廣島・愛知・北海道・岡山の諸地方を初め、全國到る所に産する。殊に兵庫縣の灘・伊丹、京



臺灣には耕地白糖の産があり、支那に輸出する。なほ我が國の精糖については二十一頁参照。

*グラスゴーはケライド造船地方、ニューカースルはタイン造船地方の中心をなしてゐる。



臺灣に於ける製糖會社工場内部

都市の伏見、福岡縣、廣島縣は最も著れる。
【精糖】 歐米諸國に産する甜菜糖はその地方に於て精製せられるが、熱帯地方の甘蔗糖は専ら温帯地方に送られて精糖となる。従つて精糖業は主に歐米の文明諸國または我が國に於て行はれる。世界産額は約二千六百萬噸で、その中、甘蔗糖は六割五分を占める。

【藥品染料】 共に科學の進歩した國に發達し、ドイツが最も盛んである。英國に工業藥品、米國、スイスに藥劑の産出が少くない。我が國でも近來大部分の藥品染料は自給し得るに至つた。

【船舶車輛】 世界の造船業は、近時經濟界不況の影響を蒙り一般に不振であるが、造船能力の最も多いのは英國で、グラスゴー、ニューカ

*米國の造船業は東岸のニューヨーク地方に近年著しく發達した。
▲ドイツではステチーンが最も盛んで、キールがこれに次ぐ。

■昭和十年の我が國進水船舶累計一六隻、總噸數一四萬噸。

●世界自動車の年製造數は五七萬臺（昭和十年度）であつて、米國はその八割を占める。

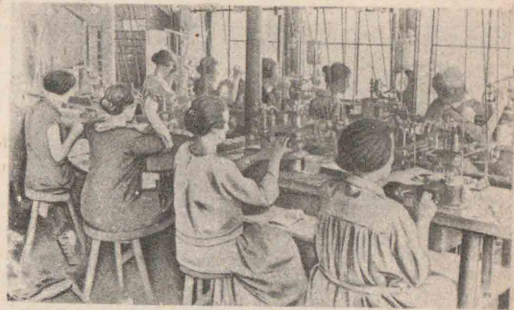
*我が國では大阪・名古屋・小倉の諸市の陸軍造兵廠、吳・横須賀・佐世保の海軍工廠等が著れる。

世界造船高表(昭和10年度)

イギリス	49.9万噸
ドイツ	
日本	
デンマーク	
スウェーデン	
オランダ	
フランス	
その他	
總噸數	130.2万噸

ースルはその中心地である。これに次ぐは米國、日本、ドイツ、オランダ等で、米國は世界大戦中に非常な進歩をなしたが、今は却つてその過剰に苦しんでゐる。世界の造船年額は百三十萬噸で、我が國の造船高は世界第三位にある。車輛中、鐵道機關車の製造は米國及びドイツが最も著れ、自動車の製造は米國に殊に盛んである。

【機械類】 機械類製造及び輸出の最も多いのは米、英、獨の三國であつて、その中、農業機械は米國が群を抜き、鑛業機械は米、英、獨に著しく、紡織機械は日、英、獨、佛、電氣機械は獨、英、米が著れてゐる。裁縫機、タイプライター類は米國の特技であつて、學術機械はドイツが最も秀で、航空機の製作は米、英、獨に盛んである。我が國でも近時大いに發達し、各種機械類は大體に於て國內で製造せられ、一部は歐米諸國へ輸出せられるが、優秀品には未だ輸入されるものが多い。兵器の製造は殊に英、佛、米、露及び我が國に盛んであつて、英國のアー



スイスの時計製造

ムストロング會社、ドイツのクルップ會社は世界に名高い。

【時計】 スイスのジュネヴは懐中時計の産に著れ、米國のボストンには有名なウォルサム時計製造會社があり、ドイツの柱時計もまた著れる。我が國に於ては、名古屋、東京の兩市に柱時計懐中時計の産がある。

第三篇 交通

第一章 陸 運

第一節 通 路

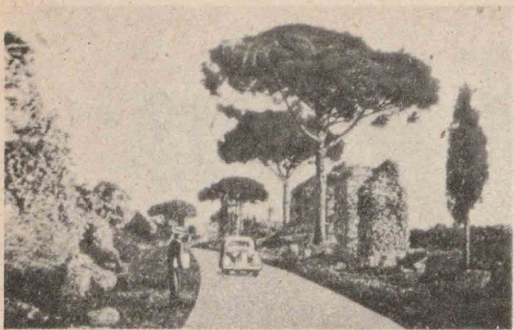
*米國の如き大陸國にあつても、鐵道の八割は河流に沿うて造られたといふ。

【通路の種類】 陸上の通路に道路と鐵道とがある。これ等の通

路は一般に地勢に影響せられることが多く、河流・山脈等の方向に沿ひ、或は海岸線と並行する。各種の通路が相連絡して主要なる都市を連ねるものは幹線となり、それから數多の支線を出す。通路の状態如何は人口及び都邑の分布に密接な關係を有し、またその地の文化及び政治・經濟上にも影響するところが甚大である。鐵道の發達により道路は一時閑却せられたが、近時自動車の勃興は再び道路を重要ならしめるに至つた。

【道路】 人類文化發

よつて種々の別があつ



ローマの古道路グイアアピア

乗客一人一軒	平均運賃
米 國	三・四
フランス	一・九
ドイツ	一・五
日本	一・二
貨物一噸一軒	平均運賃
米 國	二・四
ドイツ	二・二
フランス	二・二
日本	一・六

*米國の州際商業委員は米國鐵道の運賃率を定める等重大な権限を有する。

世界各國間に國際鐵道協定なるものがある。これは交通運輸を一層便利ならしめんがために設けられたものであつて、歐洲諸國が鐵道法規を統一し、また接壤國間に於て急行列車の連絡貨物の連帶運輸をなすが如きこれである。米國が各州内の鐵道を統一するたため州際商業委員を設けたのもほぼ類似の趣旨に基づく。

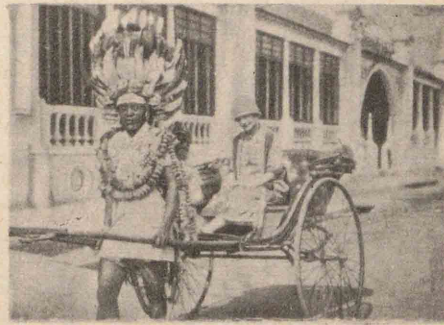
第一節 陸上交通機關

人類交通の初期に於いては、荷物は擔夫によつて運ばれるに過ぎなかつたが、次第に獸類使用の途を悟り、或は獸背を藉り、或は獸車を用ふるに至つた。かかる舊態の交通機關は今なほ世界の或る地方で用ひられる。例へば擔夫は中央アフリカ南アジア、濠洲中部に行はれ、支那の轎もまたこれによる。獸背中、最も多いのは牛馬背であるが、北部アフリ



アフリカの擔夫

運搬能力比較	
擔夫	三〇〇
牛・馬	三〇〇
一輪車	二五〇
駱駝	三〇〇
象	四〇〇
馬車(一馬)	四〇〇
汽車(一列車)	四〇〇
日本	一四〇
米 國	五〇

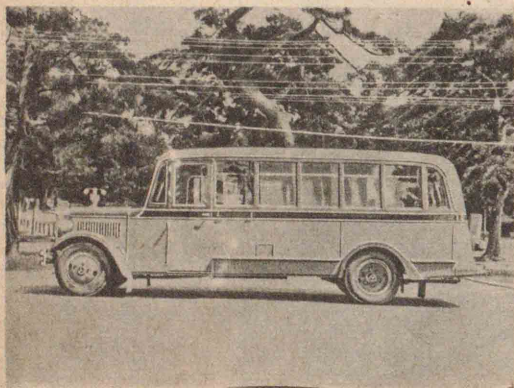


南アフリカに於ける人力車

カ、中部及び西部アジア、北支那等では駱駝による。西藏では犛牛を用ひ、南米アンデス山地に於ては特有のリヤマを使用する。獸車は馬車、牛車を普通とし、熱帯地方には水牛車があり、寒帯地方の橇には馴鹿或は犬を用ひる。所謂人力車は我が國に於て初められ、今や東洋の各地及

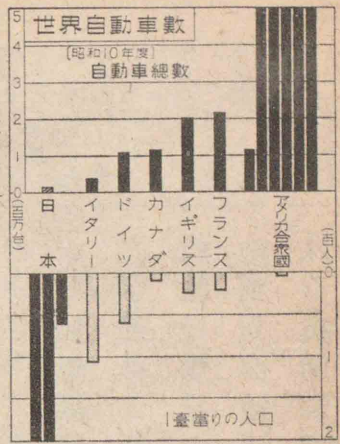
び南アフリカ附近まで行はれる。

而して近時文化の發展に伴ひ、軌道上に汽車、電車を走らしめ、また自轉車、自動車は軌道の敷設なき道路をも自由に馳驅するに至り、交通機關は偉大なる進歩をなした。殊に自動車は近時道路の整備に伴ひ、都市



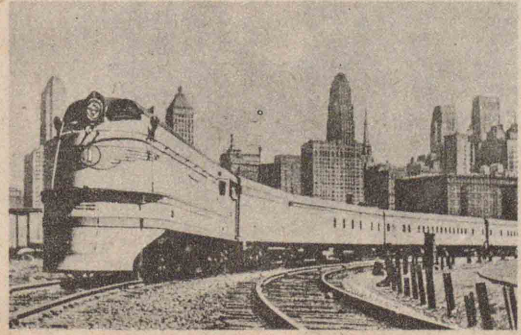
我が國の鐵道省營自動車

速力比較	
(一日速度)	
擔夫	三六
牛・馬	四八
駱駝	三〇
リヤマ	六
汽車(歐洲)	一〇〇
自動車	一〇〇
電車	三〇〇
電車	三〇〇



昭和十一年末に於ける我が國の自動車数は、乗用車萬六〇〇〇台、荷積用車五萬六〇〇〇台、その他合計約二五萬台である。
 *赤道の周圍に比較すれば約三倍となる。

中、敷設延長の最大なのは米國であつて四十萬軒を越え、世界總軒數の三割五分に當る。ロシアの八萬軒、インド・カナダの各七萬軒等がこれに次ぐ。鐵道延長の國土面積に對する比率はベルギーが最大で、次に英獨佛等の順序である。而して人口に比し鐵道延長の大なるは多く新開地方であるが、舊文化國ではまた經濟的進歩の状態を語ることもある。



米國の流線型機關車を持つた列車

【世界の鐵道】

現今世界に於ける鐵道の延長は約

第三節 世界の鐵道及びその幹線

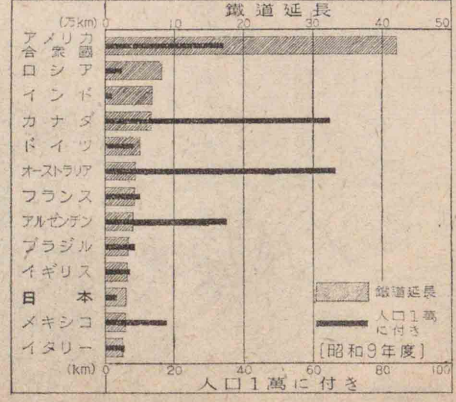
及び近距離交通に於て次第に汽車電車に代らんとする傾向がある。米國の如きはかなりの遠距離まで自動車による貨客の運輸が行はれる。

汽車速力 (急行一時間)

国	速力 (km/h)
イギリス	100
フランス	100
米國	100
ドイツ	100
日本	100
ロシア	100
ベルギー	100
スイス	100
イギリス	100
ドイツ	100
米國	100
日本	100
ロシア	100

その比率の最大なのは濠洲で、カナダ・アルゼンチン・米國がこれに次ぎ、舊世界の諸國にあつてはフランス・ドイツ・イギリス等の諸國も比率が大きい。我が國はこの點ではなほ歐米諸國に及ばない。
 【世界の幹線鐵道】 アジア大陸横斷線に所謂シベリア鐵道があり、ウラヂオス・トクに起り、歐露のモスコーに至る。亞歐間の最短路をなし、この間約九日を要する。シベリア鐵道へはまた滿洲國鐵道濱洲線により、滿洲里を経て接續する。東アジアの縦貫線と見るべきものに、哈爾濱より南行する京濱線及び南滿洲鐵道連京線があり、途中奉天より安奉線及び京義線・京釜線によつて釜山に至り、日滿連絡の大動脈をなしてゐる。また支那に於ける縦貫線としては西に平漢線があり、これに接續する粵漢線

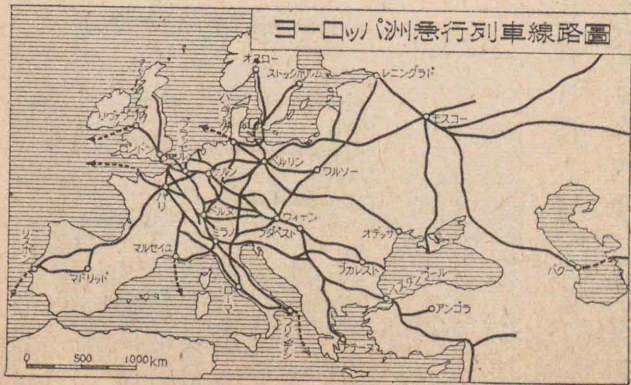
世界鐵道延長比較表



平漢線 北平・漢口間 三三三軒
 津浦線 天津・浦口間 二〇五軒
 ▲バグダード鐵道は全長約三〇〇軒で、全通の曉には北歐とインドとの交通を便にし、スエズ經由に比し約五日間を短縮するを得る。

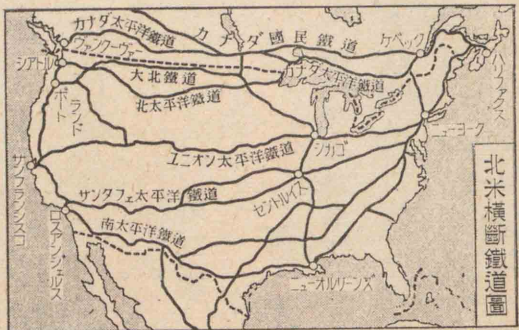
も最近全通した。東には津浦線があり、滬寧線に連つて上海に至る。中央アジアに於てはシベリア鐵道より分岐してトルキスタン鐵道に連るトルキスタンシベリア鐵道(トルクシブ鐵道)がある。小アジアのアナトリア鐵道、バグダード鐵道は既に大部分完成してゐる。

歐洲の鐵道網中、急行列車の通ずるものを幹線とする。從來横斷線としては北方急行線(モスコー及びレニングラド・ベルリン・パリ間)、南方急行線(パリ・マドリッド・リスボン間)、縦貫線としてはインド急行線(ロンドン・バリ・ブリンヂシ間)等があり、また東方急行線(ロンドン・バリ・ミュンヘン・ウィーン・サロニカ・イスタンブール間)もあつたが、近時は種々變更せられた。これ等の鐵道は多くの國境を通過するのであるが、平時は國際管理の下に運



*現今未竣成の部分は中央湖水地方である。

▲この他、西部横斷線にはサンタフェ太平洋鐵道、西太平洋鐵道、シカゴ・ミルウォーキー鐵道等がある。

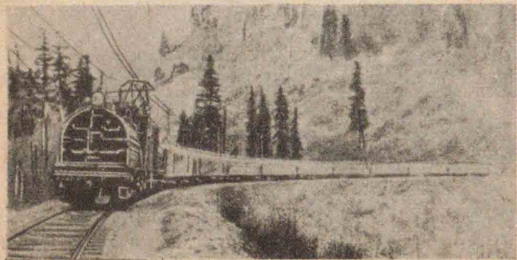


轉する。

アフリカ洲に於てはカイロよりケープタウンに至る大縦貫線が全線約一萬一千軒の中、その過半を竣工した*。

北アメリカ洲には數條の横斷線がある。即ちカナダにはカナダ太平洋鐵道、ケベック・ヴァンクーヴァー間、カナダ國民鐵道(モンクトン・プリンスルパート間)、米國には大北鐵道

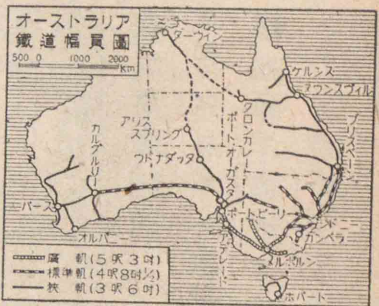
北太平洋鐵道(シカゴ・セントポール・ビュージェット・サウインド地方間)、ユニオン太平洋鐵道(シカゴ・サンフランシスコ間)、南太平洋鐵道(ニューオールリー・ンズ・スコア間)等がある。これ等を總稱してオーバーランド線といふ。東方終點は更に延びてニューヨーク



米國西部山地を走る大陸横斷列車

* テラントベク地
 峽 鐵道 三叉 科 及 び
 パナマ地 峽 鐵道 共
 科 がある。
 ▲ 南米 諸 國 より 米
 國 北 東 部 に 達 す る
 計 畫 線、所 謂 汎 米
 鐵 道 の 約 三 分 の 二
 は 既 成 線 である。
 (濠 洲 鐵 道 の 軌 間
 に つ い て は 七 十 七
 頁 欄 外 參 照)

■ 上海・ブレイメ
 ン 間 の 汽 船 航 路 は
 約 一 萬 〇 〇 〇 科 だ
 る が、帆 船 航 路 は
 二 萬 八 〇 〇 科 だ
 る。帆 船 は ス エ ズ、パ
 ナマ 等 の 運 河 を 通
 過 す る こ と が でき
 ない。ま た 帆 船 は
 逆 風 を 利 用 し 得 る
 が、な る べ く 順 風
 を 待 つ つ で 航 海 日
 數 も 甚 だ 多 い。



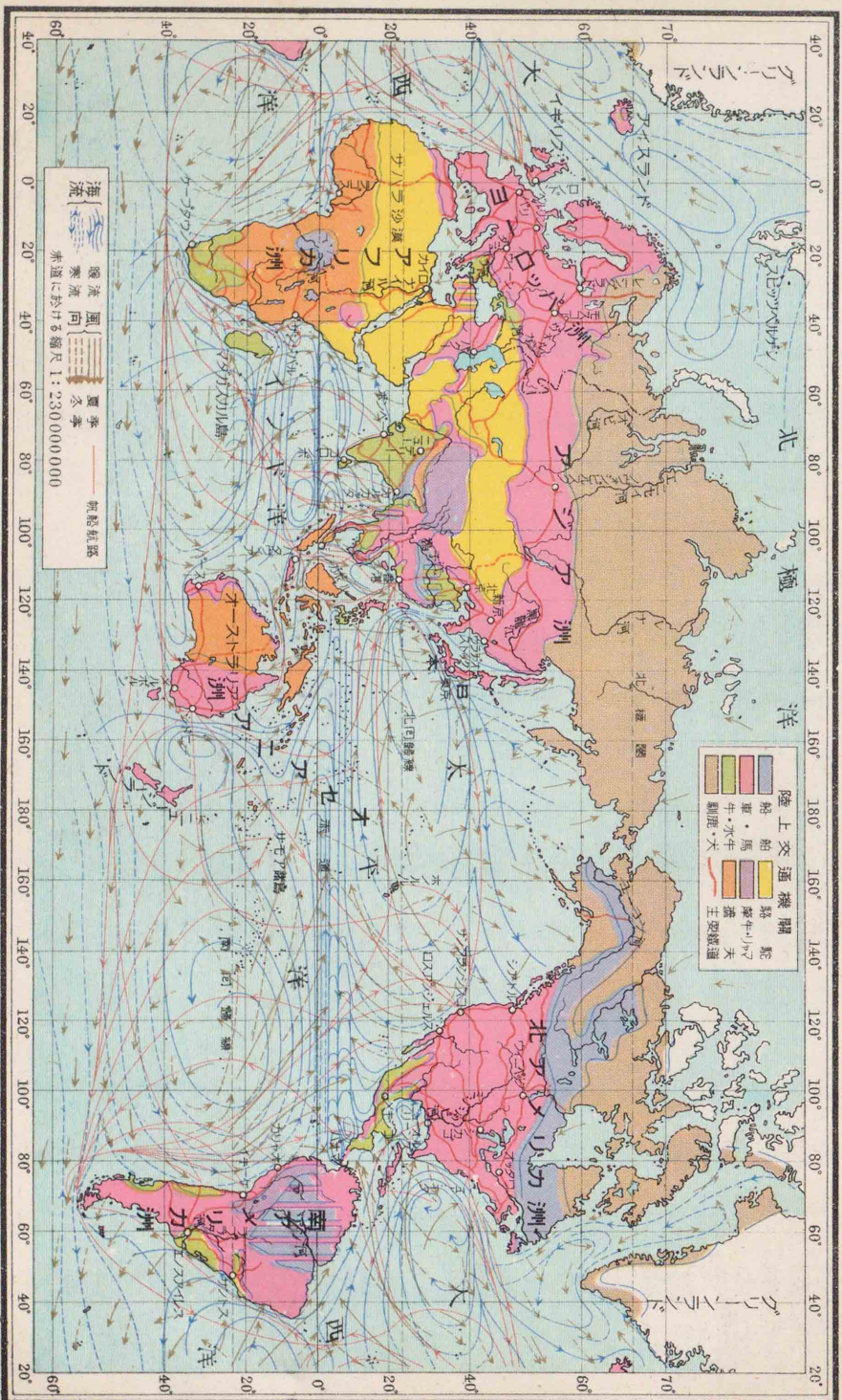
第二章 水 運

第一節 航 路

【航路の種類】 航路を分つて海上航路・内陸航路の二とする。海上航路に帆船航路・汽船航路の別がある。帆船航路は風と海流とを利用する結果、直線的に航路を選ぶことができず、距離の割合に多大の時間と航程とを要する。汽船航路は自由の方向を選び得るを特

クに達する。中央アメリカには二つの小横断鐵道がある。
 南アメリカ洲にはブエノスアイレスよりヴァルパライソに至るアンデス横断鐵道がある。
 濠洲には南部に横断線があり、南東の諸都市と西海岸のパースとを連絡する。縦貫線は計畫線に屬し、南方アデレードより北方ダーウィンに至る。

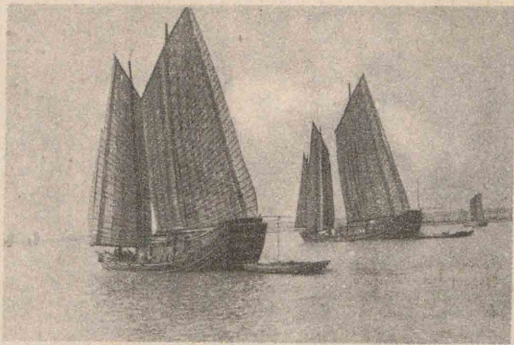
陸上交通機關分布及び帆船航路圖



河上交通の最も盛
んに行はれる地方

- 一、南米アマ
ゾン河流域
- 二、支那の南半
三、北米ミシシ
ッピ河流域

*我が國では利根
川と江戸川とを結
ぶものがある。



支那揚子江の戎克

徴とするが、普通二地點間の最短距離である大圏航路を採る。大圏

航路とは地球の中心とこれ等二地點とを含む假想平面が、地球面と交つて面上に畫く線に等しい航路をいふ。この航路によらず、二地點を同一針路によつて直線に結びつける斜航路は大圏航路より常に延長する。

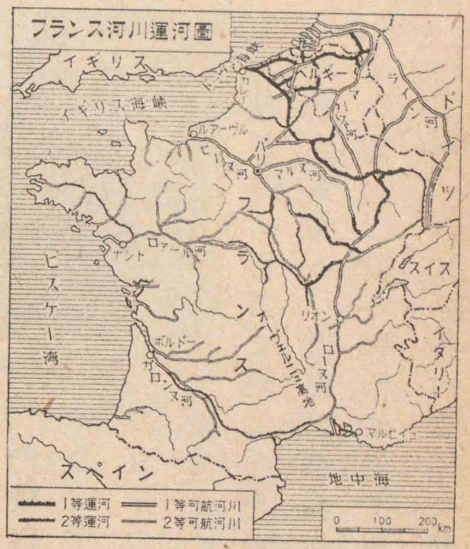
内陸航路に河川及び湖沼があり、水路としての河川は商業、交通上、水深一・二米以上、傾斜も百分の一以下なるを要し、揚子江の如きは最もよくこの條件に適してゐる。河川はまた水量が常に豊富で變化の少いものを可とし、アマゾン河の如きはこれを代表する。湖沼は概ね水深は大きくないが、風波が少いから吃水の浅い船舶の航行に便である。

【運河】

人工を以て造つた航路であつて、數種あり、連河運河は河

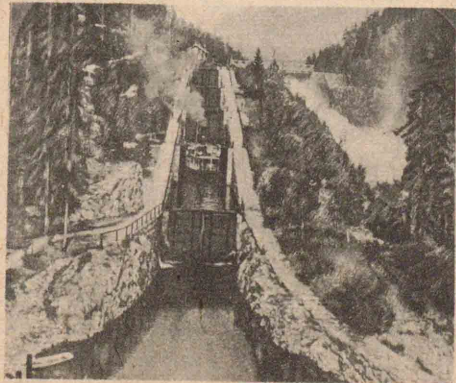
*大運河は二千年前に構築されたものである。今は海運と鐵道津浦線とのために利用が衰へ、土砂で埋つて船を通じない所もある。延長約二、三〇〇浬。

▲マンチエスタール海船運河によりマンチエスタールは海港たるの機能を得た。



流と河流とを結び、従つて間接に海と海とを連ねることを得る。歐洲の諸河川は殆んどこれによつて連絡せられ、支那の大運河は揚子江、淮水、黄河を連ねる。海船運河は海岸より内地へ運河を通じ、海船を引入れて内地の都市を

海港たらしめるもので、マンチエスタール海船運河、北海運河、北蘭運河等はこれである。回避運河は水路の急湍を避け、その側に造られるものをいひ、北米のイーリオンタリ才、兩湖間の運河やスカンヂナヴィアの諸運河はこれに屬する。地峽運河は地峽を開



ノルウェーに於ける回避運河

*スターリン運河はバルチック海と白海とを連絡せしめる目的を以て、最近ロシア政府により完成せられたものである。

- スエズ運河 延長 一六六浬 水深 二〇米
- コリント運河 延長 六・五浬 水深 八米
- パナマ運河 延長 九三浬 水深 一四米
- キール運河 延長 一〇〇浬 水深 二〇米

▲潮汐干満の差は一五米位を適度とする。世界的海港たる場合は水面積約三〇〇ヘクタール、水深二〇米以上なるを要する。

鑿して通ずるもので、スエズ運河、コリント運河、スターリン運河の如き海水面運河と、パナマ運河、キール運河の如き開門運河との別がある。地峽運河の利益は從來の航路に比し、大いに航程を短縮し得ることにある。

スエズ運河の開通は從來の喜望岬經由の航路に比し、亞歐間の航路を約八千九百浬短縮し、世界の交通上に大變革を來したが、その後開通したパナマ運河は南米迂回航路に比して約九千浬短く、北米の東西兩海岸を結びつけた外、我が國と南北兩米の東岸との交通も大なる利便を受けた。

第二節 港灣

【港灣の要件】 港灣の自然的條件としては、陸岸に圍繞せられ、港口は適宜に狭く、港内深淺の差が少く、水底に岩礁が存在せず、泥砂相交り、潮汐干満の差が小で、適度の水面積と水深とを必要とする。而して水結霧等の故障なく、地方風の風位が港口に相對しないのを可とする。この外、背後にはその港灣を養ふべき所謂背域も大でなけ

ればならない。且つ内外交通の便なる所で、世界の大通商路に當らなければ十分な發達は期し難い。港灣の設備の主要なるものは、防波堤、棧橋、繫船岸、船渠等であつて、この他航路標識、燈臺、起重機、上屋、假置場、倉庫、臨港鐵道等もまた必要である。

* 峽灣港は水深が甚だ大であるが、内地との交通が不便である。



スカンデナヴィアのソゲネ峽灣港

【港灣の種類】

自然上よりは次の如く區別することができ、
假泊港 自然の保障極めて少く、已むを得ざる時にのみ

船舶の寄泊する海港であるが、これ等は防波堤の築造によつてマドラス、高雄の如き人口港となることがある。

灣港 海岸線の彎入により港を形成したもので、長崎、シドニー、サンフランシスコ、リオデジャネイロ等がこれに屬し、良港が多い。

峽灣港 氷河によつて生じた峽灣を港となすもので、北歐及び北米の北部に存する諸港の如きである。

珊瑚礁港 大洋中の珊瑚礁を以て圍繞された港灣であ

る。大西洋中のバミューダ、太平洋中のヤルートの如きである。

* 保障港は動もすれば水深を減する缺點がある。
▲ 純粹の河口に發達した港にスラムヤ・大阪の如きがある。



廣東港と珠江

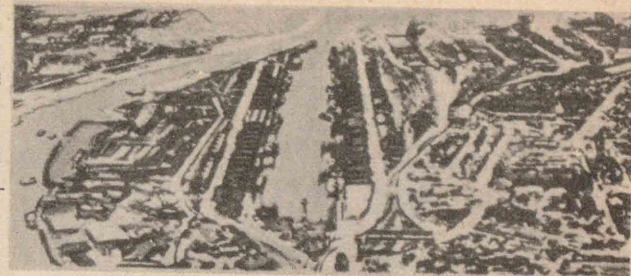
保障港 砂嘴若しくは砂洲等の内側に抱かれた港であつて、ガルヴェストン、ヴェニス、ダンチヒ、ダーバン及び我が境港の如きものである。

河港 河口若しくは中流に位する。河口港中、その發達の古いものは概ね少しく遡つた所にある。廣東、ロンドン、ハンブルグ、アントワープ等の如きである。

これ等の港は近時船形の増大につれ、満潮を和用して入港するが故に前港の發達を見る。ハンブルグはその例である。中流にあるものは往々河流の屈曲部の尖頭に位置する。これは水深を保ち易い故であつて、セントポール、セントルイス、漢口の如きである。なほ中流に於て他河川の合流する地點に發達する合流港がある。

湖港 湖水の沿岸に位するもので、北米五大湖のデールズ、シカゴ、

■ ハンブルグの前港をクックスハーフェンといふ。また吳淞は上海の前港である。



ブレーメン港の自由港区

*自由港に自由港市・自由港区・自由地区の區別がある。

黒海のオデッサ、琵琶湖の大津、霞ヶ浦の土浦の如きはこれである。次に港灣を經濟上より大別すれば、商港・漁港の二種となる。商港は出入船舶に對する制限及びその利用上の性質によつて區別すれば、左の如くである。

内國商港 我が沿岸の小港の如く、自國の船舶のみが出入し得るものをいふ。

開港 外國貿易船の出入を許し、一般輸出入貿易をなす港である。

仲繼貿易港 生産地と消費地との間に立ち、貨物流動の媒介をなす港で、香港、コーペンハーゲン、の如きこれである。

*自由港 仲繼貿易港の中、特に輸出入共に關稅を免除する港をいひ、香港、ブレーメン、ダンチヒ、大連等はこれに屬する。

沿岸貿易港 植民地の港に多く、専ら本國の船舶のために開放せられるものをいふ。我が朝鮮及び南洋群島、フィリッピン等にその例

が多い。

特別輸出入港 その地方の事情により、或る特殊の品に限り輸出入をなす開港である。三池の石炭に於けるが如きである。

飛脚港 旅客郵便物等最も迅速なる輸送を要するものは、半島または岬角の尖端に位置する港を利用して鐵道に乗繼ぐるので、この稱がある。ブリンヂン、サンプトン、カレー等はこれに屬する。

漁港は漁船の避難・碇泊に便であつて、船溜・網干場・水産物加工場・水陸連絡の設備・冷蔵庫等の具備するを要する。

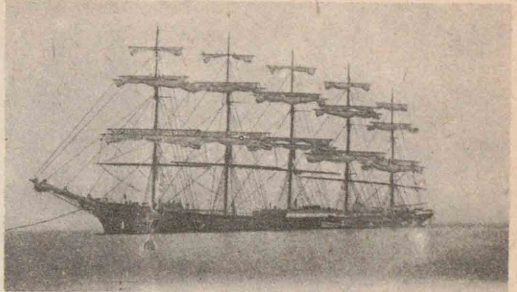
【世界の主なる商港】 世界の商港中、入港船舶年一千万噸以上のものを世界港と稱し、ニューヨーク・ロンドン・ロスアンゼルス・ハンブルグ・ロッテルダム・アントワープ・リヴァプール・シンガポール・香港・上海・フィラデルフィア・サンフランシスコ及び我が門司・神戸・大阪・下關・横濱・大連・名古屋・若松等である。三百萬噸乃至一千万噸の港を大港といひ、百萬噸乃至三百萬噸のものを中港と稱する。百萬噸以下は小港で、その數

商港の一種に工業地帯に近接して直接原料や製品の積卸しをなす工業港がある。

▲世界の主要漁港については四十一頁参照。

第三節 船舶

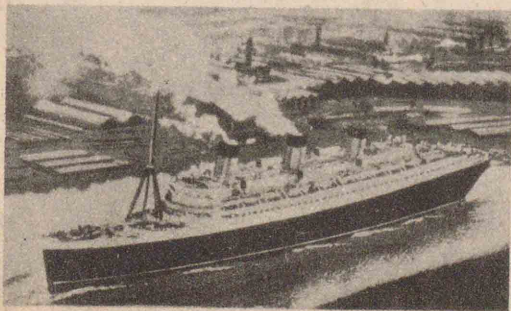
最も多く、我が國の小開港場の大部分もこれに屬する。



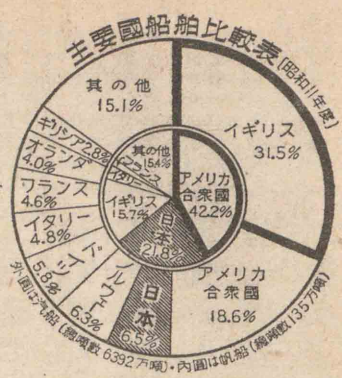
横帆船

水上交通機關中、内陸航路には筏があるが、普通は船舶を用ひる。主なる船舶はその動力の種類によつて、帆船汽船、發動機船、電氣航走船等に分つ。帆船はその装置する帆の縦帆・横帆の如何によつて種々の名稱を生ずる。噸數及び速力は概して小である。汽船は最近科學と造船技術との進歩により、大型高速度の大船舶の建造せられるものが多い。動力用燃料としては、従來は石炭のみであつたが、漸次石油動力時代に入らんとしてゐる。近時電氣航走船の發達があり、また注目すべきである。

第四節 世界の海運



世界最大船クィーンメリー號



帆船噸數 (昭和十一年六月) 米國 五千噸、日本 二千噸、イギリス 二千噸、フランス 二千噸、ドイツ 二千噸、オランダ 二千噸、ソビエト連邦 二千噸、その他 二千噸。汽船噸數 米國 五千噸、日本 二千噸、イギリス 二千噸、フランス 二千噸、ドイツ 二千噸、オランダ 二千噸、ソビエト連邦 二千噸、その他 二千噸。

【世界の海運】

現今世界の船舶總數は約三萬三千隻 (百噸以上) 六千五百餘萬噸であつて、その中、汽船は約二萬九千隻、六千四百萬噸に對し、帆船は約三千七百隻、百三十五萬噸に過ぎない。汽船噸數について見るに、英國は世界總數の約三割二分を有して第一位を占め、次は米國で約一割九分を有する。米國は世界大戰中、異常な發達をなしたものである。次は我が國及びノルウエーであつて、各々世界總數の六分強を占める。これに次ぐドイツ・イタリア・フランス三國はほぼ匹敵し、何れも五分内外である。帆船はその噸數よりいへば、米・日・英・伊等の順序である。

【我が國の海運】

世界大戰前に於ては、我が國の汽船噸數は約百五十萬噸に過ぎなかつたが、戰時中異常なる發展をなし、今や汽船四百二十萬噸を數へ、世界海運國として戰前の第七位より第三位にまで進んだ。この汽船に帆船を加へる時は、我が船舶の總噸數は四百七

亞歐航路の大汽船
會社
日本郵船會社
ピーオー汽船

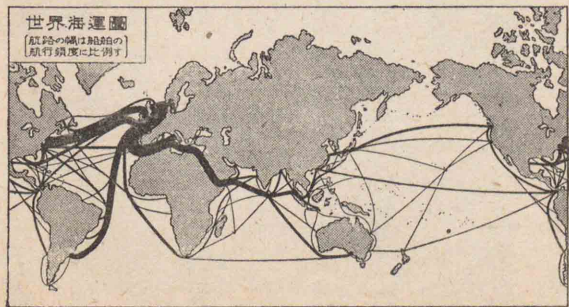
青筒汽船
エムエム汽船

ハンブルグアム
リカ北ドイツ
イド線

十萬噸に達する。我が船舶の從事する内外航路も非常に多數に上り、政府補助航路三（北米航路サンフランシスコ線南米航路東岸線同西岸線、郵便定期航路三（横濱ロンドン線神戸シアトル線横濱メルボルン線並びに一般命令航路二十四線を數へる。この諸定期航路の船舶の外、不定期航路の船舶も甚だ多く、これ等の我が船舶が世界各地に航行して收受する運賃は實に年額三億圓以上に達し、貿易外収入の主たるものとして、我が國際收支を有利ならしめてゐる。

第五節 世界の主要航路

アジア・ヨーロッパ間には地中海經由インド洋航路と喜望岬迂回インド洋航路とがある。前者は北歐より地中海及びインド洋を経て極東に達するものを幹線とし、マルセイユ・ポトサイド・コロンボ・シンガポール・香港・上海等に寄港する。培養



*アフリカ・南米
線の寄航地

名古屋・大阪・神戸・門司・香港・シンガポール・コロンボ・モンバサ・ザンジバル・ダルエスサラム・ベイラ・ローレンソマルケス・ダマン・デラゴア・ベイ・ケープタウン・リオデジャネイロ・サントス・ブエノスアイレス
歐米航路の大汽船會社
キユーナード白星線
ダラー線
ハンブルグアムリカ線
フレンチライン

線が多く、貨物が豊富で有利であるから、各國の大汽船會社は概ね定期航路を有してゐる。この航路の船舶は普通貨客兩用で、その貨物はアジアよりの往航に天産物、復航に製造品を運ぶ。アジア・アフリカ間の航路には我が大阪商船會社のアフリカ・南米線（横濱・ブエノスアイレス間）がある。

歐米間の航路中、特に北西ヨーロッパとアメリカ北部とを連ねる北大西洋航路は、船荷が豊富なる上、旅客の往來も頻繁であるから、各汽船會社は競うて大型の快速船を浮べ、その便宜を圖つてゐる。またヨーロッパと南アメリカとを連ねる南大西洋航路は往航には工業品と石炭、復航には天産物を輸送する外、移民の來往も少くない。

アジア・北アメリカ間の北太平洋航路に、神戸・横濱よりヴァンクーヴァー・シアトル・タコマ等に至る極東北米航路がある。東行には生絲雜貨を運び、西行には木材鐵等を輸送する。またマニラより我が國に來り、更にハワイを経てサンフランシスコに達する航路は、太平洋航

北太平洋航路には我が郵船の外、カナダ太平洋線・アメリカンメー等がある。

*この航路には我が郵船の外、米國のダラー會社線がある。

▲南米線の寄航地

- ハワイ・サンフランシスコ・ロスアンゼルス・マサトラン・マンサニヨ・サリナクルス・バルボア・ベナグエンツラ・カリヤオ・イキケ・ヴァルパライソ

パナマ運河通過船舶數 (昭和九年)

- 米國 三三三
- 英國 二四一
- ノルウェー 五〇九
- ドイツ 三三八
- 日本 二七七
- 總計 五三三

路中の幹線ともいふべく、東行には生絲・陶磁器・雜貨等を積み、西行には石油・棉花・果實等を運ぶ。更にハワイ・サンフランシスコを経て南米・ヴァルパライソに至る南太平洋航路は、我が日本郵船會社の南米線航路を主とする。

パナマ運河開通以後東洋より同運河を経て太平洋・大西洋を結びつけるパナマ航路が開け、極東と北米東南岸諸港との交通が盛んとなり、特に米國棉花の輸入上に大なる利便を與へた。

アジア濠洲間には我が日本郵船の航路があり、復航に船荷多く、羊毛を主とする。

ヨーロッパ・濠洲間には喜望岬を迂回するものもあるが、多くは地中海よりコロロンボを経て濠洲の各港に至る。往航に製造品を、復航に原料品・食料品を積む。

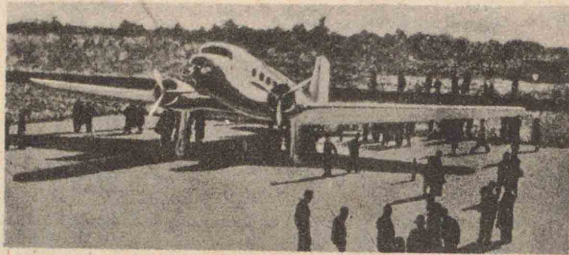
第三章 空 運

航空機には飛行機と飛行船との別があり、兩者とも水平・垂直何れ

*現代飛行機の最大速度は一時間空路を飛ぶ。

世界主要航空港

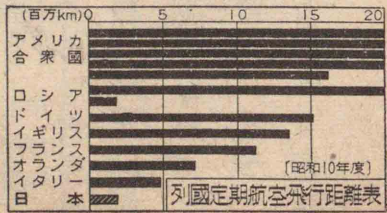
- イギリス (ロンドン)
- フランス (パリス)
- ドイツ (ベルリン)
- 米國 (ロサンゼルス)
- 日本 (羽田(東京))

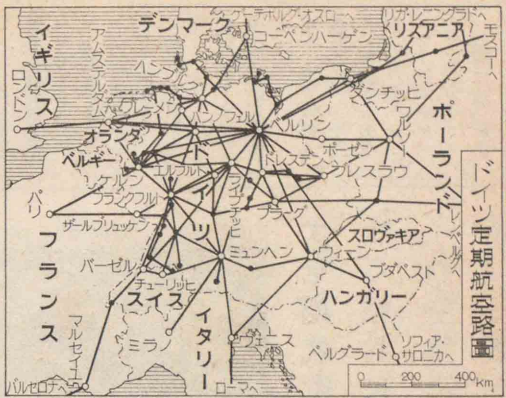


ダグラス旅客機 (福岡・臺北兩市間に使用)

の方向にも運行し得るのみならず、二地點間の最短距離を選び得る便利があり、而もその速度が甚だ大なるを以て、他の交通機關に比して、時間の節約もまた大きい。歐米諸國に於ては大戦中、航空機に多大の研究を遂げ、戦後はその經驗によつて、各國は航空港(飛行場)・航空燈臺・航空無線電局・航空氣象臺等の設備により航空路の設定に努めたから、今や既に世界一周航空も屢々行はれたのみならず、定期航空路は到る所に開設せられ、旅客郵便物・小型貨物等の迅速なる輸送に異常な發展を示すに至つた。

航空路は地形・氣候の影響を蒙ることが大で、雲霧の障害のない平原國は最も良好である。併し一般に航空路の開設は文化の進歩し





列國民間飛行機數
(昭和十年度)
米 國 九、〇三七
フランス 二、一八六
ドイツ 一、八〇九
イギリス 一、七五七
イタリー 一、七六五
日 本 一、七六五

*航空路は他の交通機関のない地方にも發達する。

迅速なる連絡に利用せられるを以て、近時大陸連絡の長距離定期航空路の進歩は甚だ著しいものがある。

我が國に於ては地形氣候等の關係上、未だ航空路の發達は十分ではないが、國內には既に盛となり、アジア大陸及び南洋方面へも漸次航空路の開拓が行はれてゐる。

我が國主要定期航空路

航 空 路	距離 計
東 京—大 連	2132
内 譯	
東 京—名 古 屋	296
名 古 屋—大 阪	139
大 阪—福 岡	500
福 岡—大 邱	330
大 邱—京 城	234
京 城—平 壤	200
平 壤—新 義 州	160
新 義 州—大 連	273
横濱—サイパン—パラオ	4180
東京—米子—京城	1285
大阪—米子	310
京城—咸興—清津	560
福岡—バンコック	4485
内 譯	
福岡—那覇—臺北	1610
臺北—廣東—ハノイ	1875
ハノイ—バンコック	1000
福岡—京城—奉天—新京	1395
福岡—青島—北京	1600
福岡—上海—南京	1220

た地方と一致し、北西ヨーロッパ、米國等は航空路網が最も密である。またその性質上、本國と植民地との間の

第四章 通信

第一節 序 説

通信機關は政治經濟上に緊要な關係を有するので、電氣及び航空等、文明の新利器は先づ通信に應用せられる。また各國は或は保護金を下附して郵便物輸送の命令航路を開き、或は國內に均一料金制度を布き、或は萬國郵便電信聯合に加盟して各々その發達に努めてゐる。かの海底電線の陸揚地を得んがために、實際に政治上の事件を生じたが如き、如何に通信の重要なかを物語るものである。

第二節 郵便

世界に於ける郵便は、千八百四十年英國に於てペンニーポスト制を始めてより現今の如き制度の發達を促した。千八百七十四年萬國郵便聯合



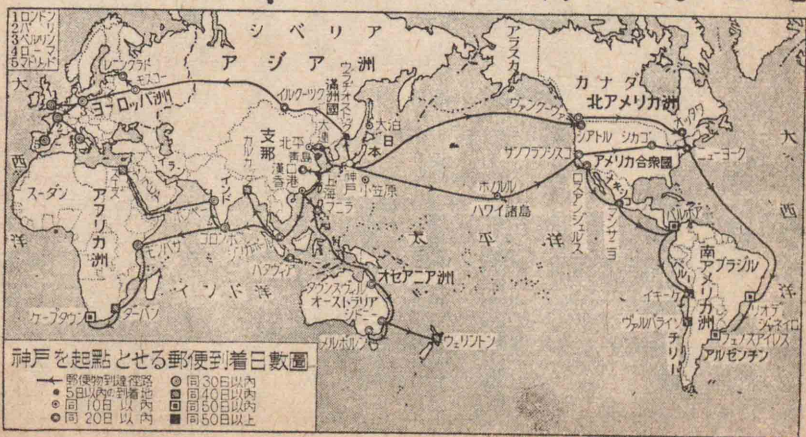
萬國郵便聯合記念碑(ベルヌ)

萬國郵便聯合による外國郵便物料金書狀

一〇五迄三〇錢
以上二〇五毎に二錢
葉書 一〇錢
印刷物 五〇五毎に四錢

が成立し、均一なる郵便制度は國の領域を越えて施行せられ、現今では世界全國がこの聯合に加入し、如何なる僻地への通信も極めて便利になつた。

我が國は夙に歐米の制度を採り、また萬國郵便聯合に加入し、郵便制度は大いに完備してゐる。我が國より歐洲諸國へ差立てる郵便線路には西廻りと東廻りとがある。西廻りはスエズ經由とシベリア經由とがあつて、後者は日歐間の最捷路をなし、東京・ロンドン間約十五日を要する。東廻りは太平洋を越え、アメリカを經由し、ヨーロッパに至るもので、到着日数はシベリア經由より約十日後れる。



世界各國電信線路延長

米 國	千 千
フ ラ ン ス	三 〇 〇
ド イ ツ	二 四 〇
イ ギ リ ス	二 〇 〇
ロ シ ア	一 四 〇
イ ン ド	一 三 〇
濠 洲	一 二 〇
ア ル セ ン チ ン 盆	一 〇 〇
カ ナ ダ	八 〇
イ タ リ ー	七 〇
ス ペ イ ン	六 〇
日 本	五 〇

外國電報も郵便と同じく、發信者に於てその線路を指定するを得る。
長崎・上海間及び長崎・大連間には我が政府所有の電信線路もあり、官報のみを取扱ふ。

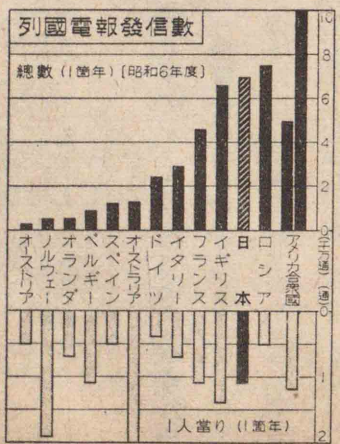
第三節 電信及び電話

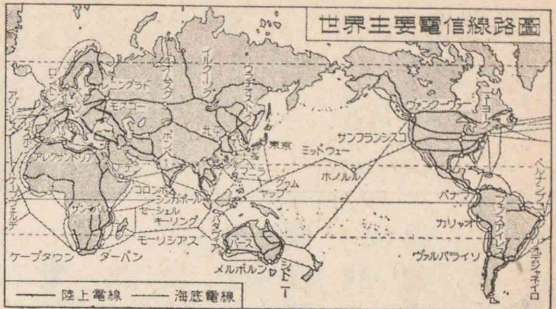
【電信】 第十九世紀の初に發明せられ、米人モールズが電信符號を案出してより、世界各地に長足の進歩をなした。電信線には有線無線の區別があり、有線にはまた陸上線・地下線・海底線等がある。海底電線は約三千七百千毎に伸繼所を要する。世界に於て電線杆數の最も長いのは米國で、佛獨英露等がこれに次ぐ。

各國中、電報發信數の多いのは、新たに開發せられた地方か或は文明の高度に發達した國である。この點に於て、我が國は諸國中第三位を占める。

我が國より外國に至る主なる有線電信線路は左の如くである。

アジア大陸及び歐洲に至るものに上海線と香港線とがある。前者は長崎より大北電信線によつて上海に至り、支那内地及び西方に接續する。後者は東方延長電信線によ





世界海底電線延長

イギリス	二千九百
米國	二五〇
フランス	一五三
デンマーク	一〇六
日本	一〇五
オランダ	一〇三
總延長	六三三

り香港シンガポールインドを経て紅海地中海を過ぎ、ロンドンに至る。この外、香港よりボルネオスマトラを経てジャバに至る線と、シンガポールよりジャバを経て濠洲に至る線とがある。また長崎より大北電信線によるウラヂオストック線はシベリア鐵道に沿つて歐洲に至り、別に上海若しくは北平からこれに連る恰克圖線がある。

北米に至るものに小笠原線があり、米國線によつて、グアム島ミッドウェー島ハワイ島等を経てサンフランシスコに至る。この線はグアム島よりフィリピンに至り、更に上海に達する。グアム島よりはヤップ島セレベス島を経てジャバに達する線がある。

以上の外、濠洲カナダ間にプリズベーンとヴァンクーヴァーとを連ねるものがあり、また南洋及び濠洲とアフリカとを結びつけるものもある。大西洋の横斷

線は現今二十線あり、大部分はイギリスの所有であつて、他は佛米等の所有である。

これ等の世界海底電線は現今延長六十一萬軒に及び、赤道周圍の約十五倍に當る。その中、イギリスは五割弱を占め、米國は二割五分、フランスは一割餘である。我が國はデンマークに次いで第五位に

我が國より外國へ發する電信の多くは、近時無線より無線に變じつつある。無線の電波は短波の方が長距離に利用せられる。

寫真電送も近時實用に供せられてゐる。またテレビジョン(無線電視)も試験的に行はれつつあり、ロンドンでは既に實用化されてゐる。

あるが、僅かに二分四厘に過ぎない。

無線電信は千八百九十七年イタリー人マルコーニの發明に係る。近時大いに發達し、通信有效距離も増大して、その最も強力なものは殆んど全世界に通信するを得、夜は晝に比して通信力がほぼ倍加するが、熱帯地方は温帯地方に比し通信距離が短縮する。

世界各地に多數の**無線電信局**があり、また大船舶は殆んど皆これを有してゐるが、遠距離に通信し得る大無線電信局は現在六十餘に過ぎない。我が通信上主要なるものは東京・大阪兩電信局に屬するものを初め、佛領インド支那のサイゴン、蘭領東インドのバンドン、フィリッピンのマニラ(カヴィテ)、ロンドン(ラグビー)、ベルリン(ナウエン)、パリ、ローマ、サンフランシスコ、ホノルル、ブエノスアイレス等である。

【電話】 **有線式と無線式**とがあり、有線式の通話距離は普通架空線によるものが海底線によるものより大である。最近急激に進歩して通話距離は一萬軒を超え、我が國は歐洲並びに米國とも自由に

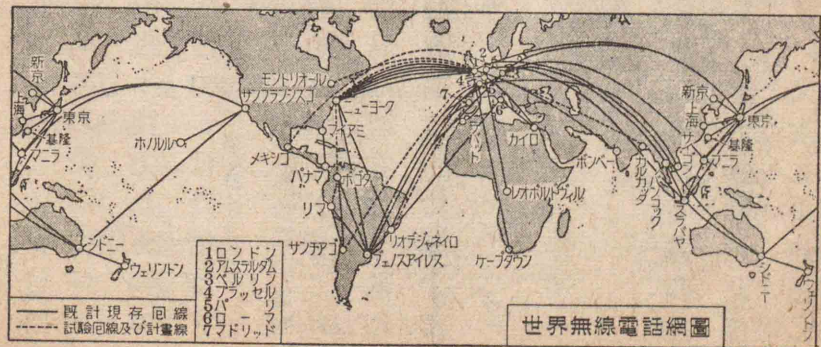
各國ラヂオ聴取者數 (昭和十年)

米 國	三、五〇〇、〇〇〇
イギリス	七、四〇〇、〇〇〇
ドイツ	七、二〇〇、〇〇〇
ロシア	二、八〇〇、〇〇〇
フランス	二、六〇〇、〇〇〇
日本	二、三〇〇、〇〇〇
電話加入者一人につき人口	
米 國	六
デンマーク	九
スウェーデン	二
露 洲	三
ドイツ	三
イギリス	三
日 本	三

*内地の電話加入者は約六萬人、電話機數百萬で、世界の第五位である。

通話し得る。また有線式と無線式とは連絡することを得、これにより國際無線電話網は大いに擴張せられた。更にラヂオ(放送無線電話)の使用が甚だ盛んとなり、各國內は勿論、國際間にも放送が行はれ、我が國に於ても歐米諸國と盛んに放送を交換する。

世界各國中、國民一人當り電話の最も發達してゐるのは米國であつて、デンマーク・スウェーデン・濠洲・ドイツ等がこれに次ぐ。我が國にも重要都邑内及び各都邑間には、殆んど電話の設けのない所はないが、なほ大いに缺乏を感じつつある。ラヂオの世界聴取者は總數四千萬を超える。



第四篇 商 業

第一章 世界の商業

第一節 商業の種類

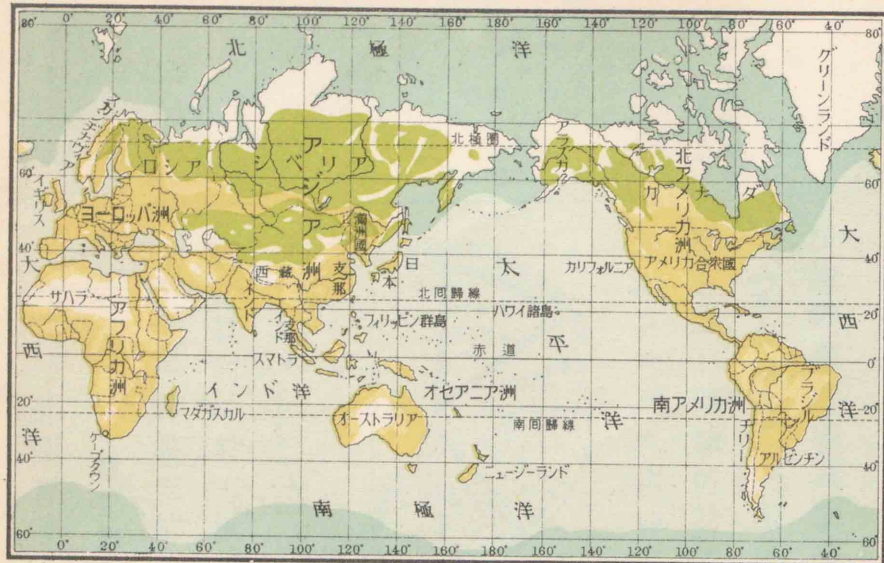
商業が一國內、または同一關稅區域内で行はれる時は、これを内國商業といひ、各國間に行はれる時は、外國貿易或は國際商業と稱する。外國貿易は輸出と輸入とから成るが、自國のためには輸出入をなさず、他國間に物資を仲介する貿易を仲繼貿易または通過貿易と稱する。イギリス・ベルギーの如きは仲繼貿易の最も盛んな國で、香港・シンガポール等の自由港の貿易は皆これに屬する。何れの國でも、その外國貿易中には多少の仲繼貿易を含むが、これを除外したものが特別貿易であつて、仲繼貿易をも併せて一般貿易と稱する。

第二節 世界の貿易

【貿易額】

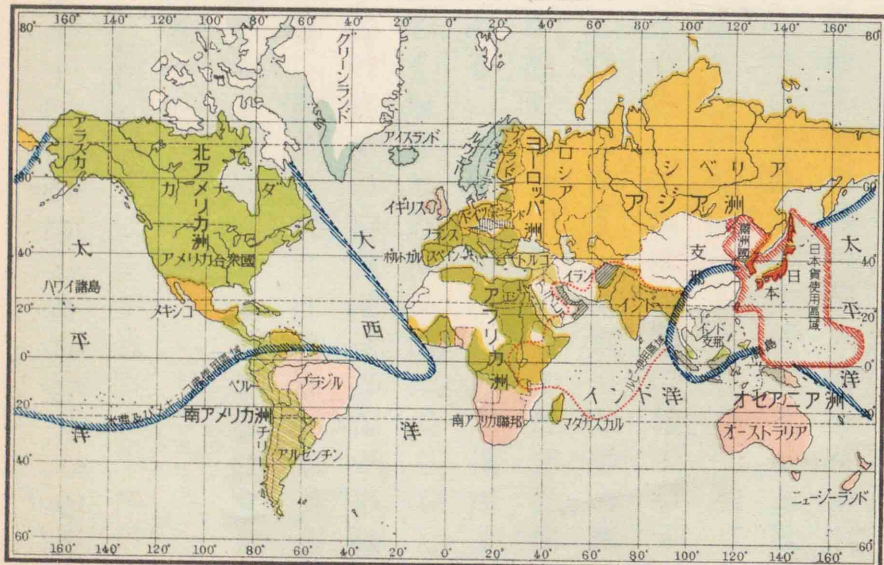
世界の貿易は十九世紀後半に於て非常な進歩をなし、

世界商業區域圖



冬季氷結區域 全年可航區域 夏季商業區域 商業有望區域 國際商業區域

世界通貨分布圖



英鎊 フラシ川等 馬克及び 等價貨 クロネ クロネ(瑞議) グルデン ルーブル ミレー
 ルビー 磅(トルコ) エジプト 米及及び 等價貨 メキシコ幣 日本貨 ペソ 外國貨使用

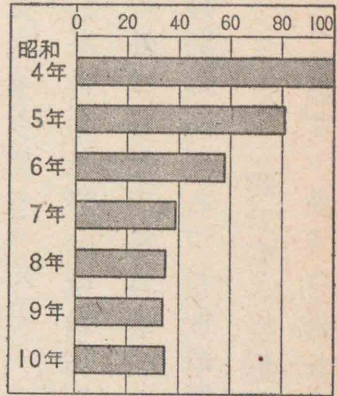
近年國際商業取引所が設けられ、我が國もこれに加入して、各國との貿易増進を策しつつある。

ドイツの一學者は世界貿易額を生産總額の二・五%と計算した。

世界貿易額

一九二一年	四三六億米弗
一九二二年	四三六億米弗
一九二三年	三六六億米弗
一九二四年	三三三億米弗

世界貿易指數(金價額)(%)
 [昭和4年を100とす]



の強化等によるものである。

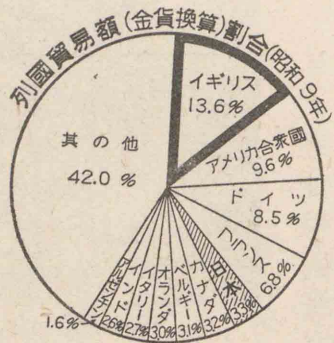
【貿易品】

近世の初、世界交通の未だ發達しなかつた時代には、貿易品はその嵩が小さく、價の高いものを選んだから、貴金屬寶石藥劑類が主なものであつた。オランダ貿易の盛んであつた時代の如きは、この適例である。近時交通が進歩し、工業の規模が大となるに及んで、貿易品は寧ろ嵩高の日用品となつたから、現今世界の貿易市場に現れる商品の約半ばは食料品及び原料品で、穀物砂糖コーヒー茶ココア、雞卵、獸肉、脂肪、皮革、羊毛、棉花、亞麻、黃麻、大麻、生絲、ゴム、木材、石炭及

貿易額を増したが大戦後、世界的不況により漸次減少して、千九百三十四年(昭和九年)は價額に於て千九百二十九(昭和四年)の半ばにも足らぬ状態となつた。これ等は一般物價の下落と、近時各國が競うて築きつつある關稅障壁、經濟ブロック

國民一人當り貿易額 (昭和九年)

オランダ	三六
イギリス	三三
フランス	二六
ドイツ	二六
日本	一三
イタリ	一三
米	一三
支那	一三



び鐵鑛・鐵材・銅・石油等を主とし、綿・絹・毛の織物、機械紙等がこれに次ぐ。

【貿易地方】 世界の貿易額について見るに、イギリスは大戦の前
後を通じ、總額に於て世界第一位を占め、國民一人當りの價額でも近
年オランダに次いで第二位を占める。これは英國に於て早く商業
が發達したのと、世界各地に領土と勢力範圍と

を有するが故である。英國はまた世界第一の
輸入國である。次に米國は世界大戦中より貿
易額が著しく増加し、將に英國に迫らんとする。
而もこの國の貿易の特質は世界第一の輸出國
たるにある。英・米に次ぐは獨佛であつて、我が

國は戦前に於て世界第十四位にあつたが、その後大なる發達をなし、
今や世界の第五位を占めるに至つた。

第三節 世界の重要商業市

各國の外國貿易が未だ進歩せず、商業が多く國內若しくは接壤國

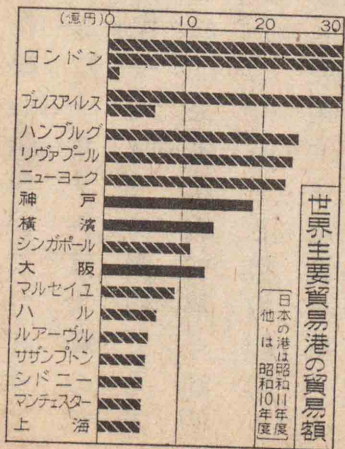
間の取引に止まつた間は、世界の重要商業市も内陸交通の便ある地点に存してゐた。かのメッセ(見本市)を以て古來著名であるライプチッ



ライプチッヒのメッセ

ヒの如きは、この適例である。然るに近時海運の進歩に伴ひ、世界總貿易額の約九割は海上貿易なるを以て、近時に於ける世界の重要商業市であるといふことができる。世界の重要商業市であるといふことができる。世界の大港をその貿易額により順次に記せば、ロンドンを第一とし、ブエノスアイレス、ハンブルグ、リヴァプール、ニューヨーク、神戶、横濱、シンガポール、大坂、マルセイユ、ハルビン、サンフランシスコ、シドニー、マンチエスタ、上海

ロンドン、神戶、横濱、大坂、シンガポール、マルセイユ等がこれに次ぐ。この中、神戶、横濱、大坂の三港は我が國最大の貿易港であつて、内地貿易の八割三分はこれを通じて行はれる。この他、我が大連、歐洲



のハルビン、アムール等、北米のフィラデルフィア、サンフランシスコ、ロスアンゼルス、濠洲のシドニー、メルボルン、アジア洲の香港、上海、カルカタ、ボンベイ等が重要な貿易港である。

第二章 我が國の商業

第一節 内國商業

重要都市手形交換高 (昭和十一年)

都市	手形交換高 (億円)
東京	三〇〇
大阪	二五〇
神戶	一五〇
名古屋	一〇〇
京都	七〇
横濱	六〇
全国	六六〇

我が國は往時久しく所謂鎖國をなし、また封建諸侯の割據があつて、商業は一般に振はなかつたが、明治維新以來、開國進取の國是を定めてから、内國商業は頓に興起した。全國に取引せられる主なる商品は、織物類、米、棉花、砂糖、羊毛、繭、鐵材、機械、洋紙、藥品、染料、綿絲等である。【商業都市】 内地に於ける大小の都市には皆、それぞれ商業が行はれるが、その中殊に繁盛なる都市には商工會議所の設けがあつて、内地に百餘を算し、朝鮮その他外地の都市にもある。而してこれ等の都市中、東京、大阪二市は内國商業の二大中心である。

*近年米穀統制法發布の結果、米穀取引所の機能も昔日の如くではない。

朝鮮の仁川に米、豆の取引所がある。



東京株式取引所内部

内地の重要商業市に於ては、特殊の商品は取引所を設けて現物無しに取引せられる。その最も多いのは米穀であつて、全國に十八の取引所があり、就中大阪市(堂島)、東京市(蠣殻町)は特に著しい。その他大阪市に三品(棉花綿絲綿布、砂糖、名古屋市に綿絲布、東京市に砂糖、横濱、神戸の二市に生絲、福井市に人絹の取引所がある。而して一般株式の賣買をなすものは、東京(兜町)、大阪(北

濱、京都、神戸、横濱、名古屋、廣島、福岡、新潟、長崎、小樽の諸市に存する。

第二節 外國貿易

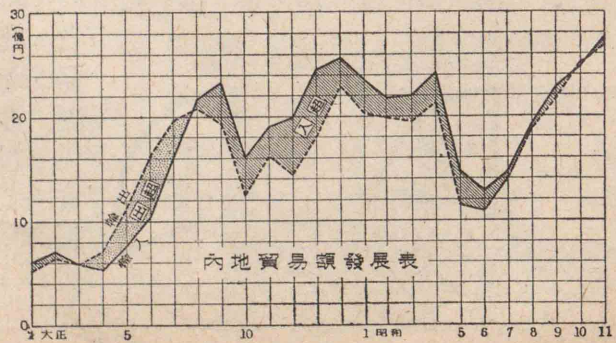
昭和十一年内地貿易額
輸出 二六六三
輸入 二七六四

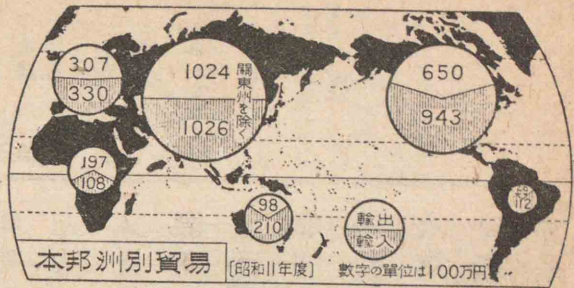
【貿易額】 我が國(内地)の貿易額は、明治元年に年額約二千六百萬圓に過ぎなかつたが、その後漸次發展し、殊に世界大戰中顯著な發達を遂げ、その後やや減退したが、最近國內各種産業の發達によつて再び増加し、昭和十一年に於て約五十四億六千萬圓を數へ、これを明治

*我が累年の外國貿易中、輸出超過の著しかった時代は日清戰役前の數年間と世界大戰中とであつた。
昭和十一年外地貿易額
臺灣 百萬元
輸出 兎
朝鮮 兎
輸入 兎
▲この外海外に於ける我が商社が外國間のみの貿易、即ち出商業をなすものがある。
また海運運賃等貿易外の収入も少ない。

元年に比すれば實に二百十倍に當る。而して輸出入の均衡は從來一般に輸入超過であつて、世界大戰後、その差が殊に甚だしかつたが、最近貿易の進展に伴つて次第に超過額を減じ、ほぼ均衡を得るに至つた。併しこの發達を阻止せんとする各國との間の紛争も漸く繁きを加へんとしてゐる。この他、臺灣、朝鮮等の外地の貿易も最近では約二億七千萬圓に及んでゐる。

【輸出入品】 輸出に於ては近年全製品最も多く、その割合が年々増加して全輸出額の五割八分に當り、原料用製品がこれに次ぎ二割四分であつて、加工品が我が輸出品の大部分を占めてゐる。これに反して輸入に於ては原料品が最も多く、全輸入額の六割三分を占め、他は原料用製品の一割六分と全製品の一割とがこれに次ぐから、なほ加

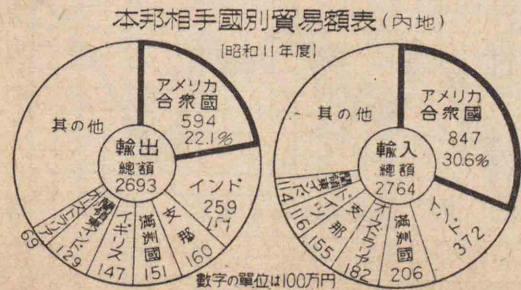




*我が貿易が輸出に於てアジア洲を第一とするのは、我が工業が勃興して原料をこの地方に仰ぎ、製品もまたこの地方に賣られるに因る。

工品の輸入が少いといふことはできない。併しながら、過去の貿易額の割合に比すれば、輸出に於て加工品が増し、輸入に於て加工品が減る傾向があるのは、我が工業の發展を示すものであつて、大いに喜ぶべき現象といはねばならぬ。

【輸出入國】 明治初年にあつて、我が國の貿易關係は輸出入共歐洲に最も厚かつたが、幾何もなく輸出に於て北アメリカ洲が第一位となり、輸入は依然として歐洲第一位であつた。然るに近年は輸出入共、アジア洲が優れ、北アメリカ洲がこれに次ぎ、歐洲は第三位に下つた。これは我が國の貿易が貿易發展の常道によつて進みつつあるを證するものである。國別で見ると、輸出では米國・インド・支那・滿洲國等、輸入では米國・インド・滿洲國・濠洲等を主とする。



*臺灣に支那形船舶に限り貿易を許す特別開港場が四あり、朝鮮には開市場が三ある。本邦港別貿易額割合 (昭和十一年度)

港名	割合 (%)
神戸	35.2
横濱	25.1
大阪	23.3
名古屋	14.4
門司	11.9
若松	1.8
四日市	1.4

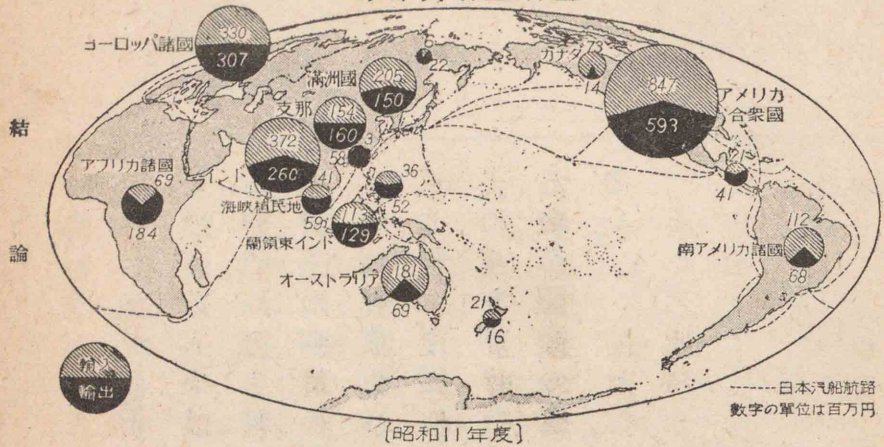
輸 出		輸 入	
品名	單位萬圓	品名	單位萬圓
綿織物	45526	棉花	85045
生絲	39281	羊毛	20063
絹織物	12768	鐵類	19204
罐頭詰食料品	6916	礦油	17249
絹織物	6455	機械類	9118
鐵	5040	豆類	8230
メリヤス製品	4839	生ゴム	7296
陶磁器	4155	バルブ	6711
機械類	4089	木材	5554
綿織絲	3835	原礦	5115
植物性脂肪油	3731	石炭	5083
玩具	3646	採油用原料	4484
毛織物	3277	麻類・植物纖維	3730
鐵製品	3158	自動車及部分品	3704
硝子及製品	2563	小麥	3365
木材	2085	銅	3287
人造絹絲	2033	豆粕	2892

【貿易港】 我が國の開港場は内地四十四、朝鮮十一、臺灣四、樺太二、關東州二、南洋羣島九、合計七十二の多きに及んでゐる。尤もこの中、廣く全領土の物資を集散する港は神戸・横濱・大阪・名古屋・門司・若松等の數港に過ぎない。而してこれ等の港に於ける貿易の過半は我が船舶によつてなされ、以て我が海運の隆盛なるを示してゐる。

結論 世界に於ける我が國の産業及び交通上の地位

我等は以上に於て、全世界に互る經濟活動の現勢を學び、その中に於ける我が國の地位についてよく了解することができた。實に我が國は明治維新以後、僅々六、七十年の短日月なるに拘らず、各方面に非常な躍進を遂げ、以て世界の一等國に列するに至つたのであるが、これ全く一は歴代天皇の御稜威によると共に、一は我が國民がその優秀なる素質を以て比較的乏しき國內の資源をよく利用し、或は廣く海外にその缺を補つて、産業の建設、文化の發展に努めたからに外ならない。かくて農業、林業、牧畜業、漁業、鑛業の各産業部門それぞれに於て日進月歩の勢を示し、その中には漁業の如く世界第一位を占めるものもある。而して近年に至つては、これ等の原始産業より更に進んで、工業國としての發展は眞に驚くべきものがあり、各種工産

對外貿易國別圖



物に於て世界の首位を占めるに至つたものが少なくなく、なほ第二位、第三位等にあるものも甚だ多い。従つてこれに伴ひ、商業貿易も大いに伸張し、市況頗る活潑に、殊に海外に於ては先進諸國と激しく販路の覇を争ふに至つてゐる。かくして今後益々産業の發展に努めれば、國力の増進も期して待つべきものがある。

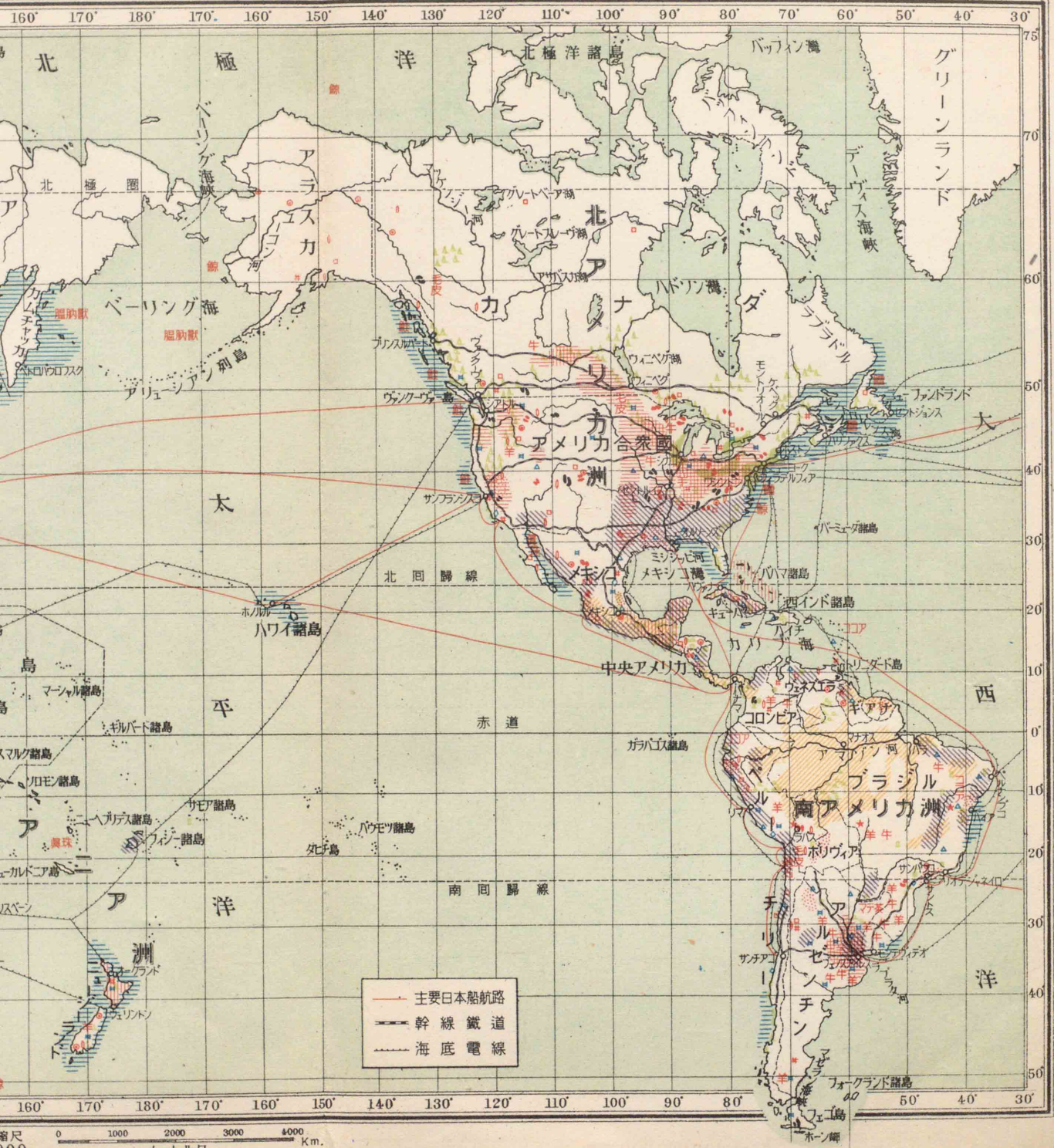
次に交通上に於ても我が國は海國たる自然環境上、早くより海運が發達し、今や世界の主要港に我が商船の姿を見ざるはなく、その總噸數に於ては英米に次いで世界第三位である。その他の諸交通機關の整備もまた定期航空を除き、歐米列強に比して敢て劣るところはない。殊に今後の世界の中心は太平洋に移るといはれてゐる秋、ここ

に臨む我が國の交通上の地位は將來洋々たるものがある。

併しながら、今日の**世界的經濟戰**の前途は誠に豫斷すべからざるものがあり、小成に安んずることは決して許されない。最近の支那事變の一因も、實に支那に於ける我が國と諸外國殊にイギリスとの經濟上の利害の衝突である。

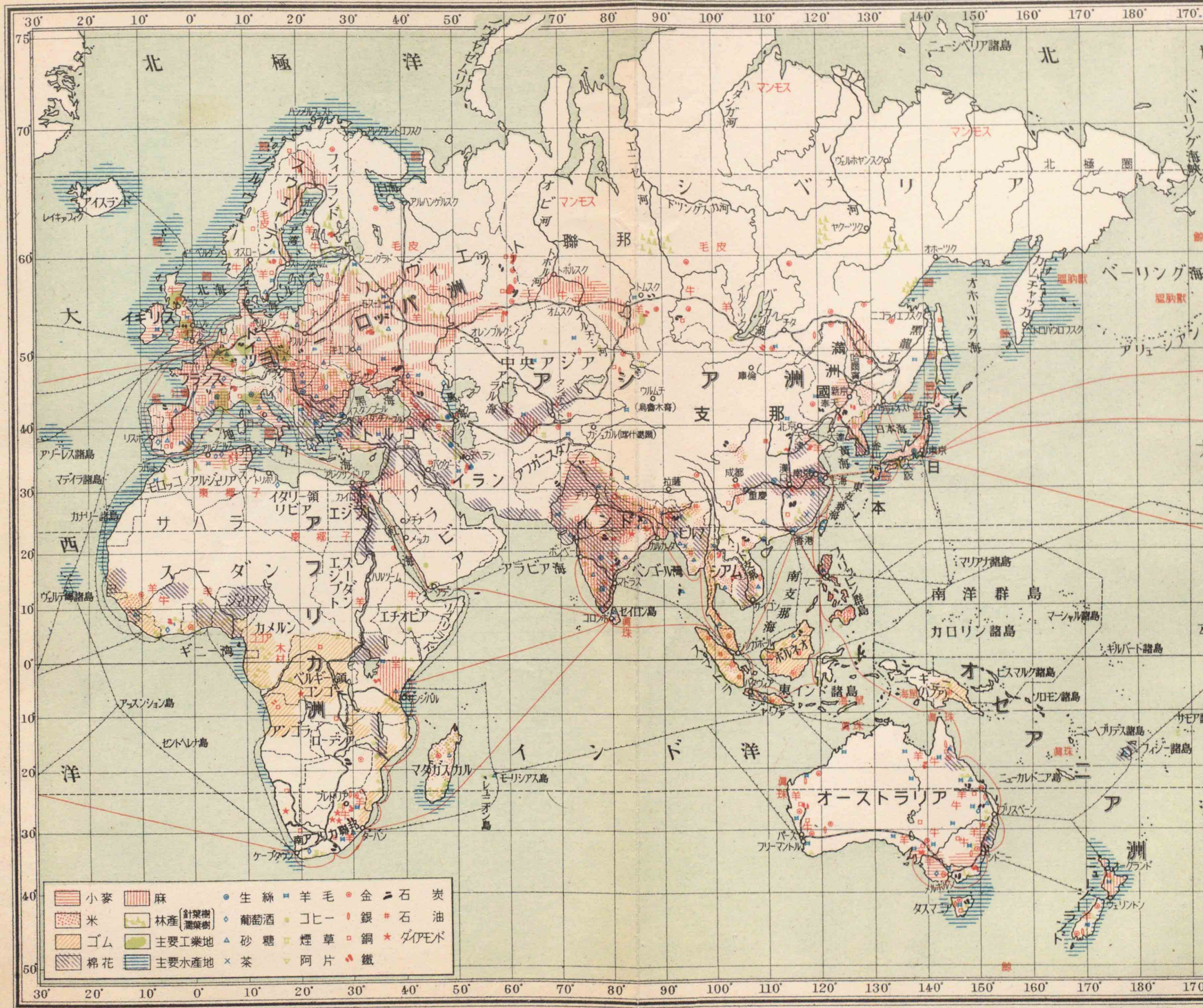
我等實業生活にたづさはらんとする者は、よくこれ等の形勢を察して、常に産業交通上の第一線の戰士として立つ覺悟を有じ、この國土に生を享けたる幸福を思うて、力を國運の發展に盡し、以て**光輝ある我が國體の美**を、愈々中外に發揚せしむべく努力しなければならぬ。

通地圖



0 1000 2000 3000 4000
メートル尺

世界産業交通地圖



- | | | | | | |
|----|--------------|-----|------|---|--------|
| 小麦 | 麻 | 生絲 | 羊毛 | 金 | 石炭 |
| 米 | 林産 (針葉樹 闊葉樹) | 葡萄酒 | コーヒー | 銀 | 石油 |
| ゴム | 主要工業地 | 砂糖 | 煙草 | 銅 | ダイヤモンド |
| 棉花 | 主要水産地 | 茶 | 阿片 | 鐵 | |

0 200 400 600 800 1000 日本尺
 赤道に於ける縮尺 1:100 000 000
 0 1000 2000 メートル尺

昭和十二年七月十五日
 昭和十三年一月二十五日
 昭和十六年二月十八日
 再發行
 再發行
 再發行
 再發行
 再發行
 再發行

著作權
 所有



著者 石橋 五郎

發行者 合資會社 富山房

代表者 坂本 守正

印刷者 須磨 勘兵衛

東京市神田區神保町一丁目三番地

發行所

合資會社 富山房

電話 二七一番(8)
 代印 二七一番(8)
 神田區(25) 藤田
 東京五〇一番

現勢地理通論 實業學校用

定價 金八拾錢

縣史八重家
男各
知田善美

縣立八重実業学校

男子部 養子部

和田



文庫

41

098

広島大学図書

2000039098



大